

283-42



1200601076543



始



283-42



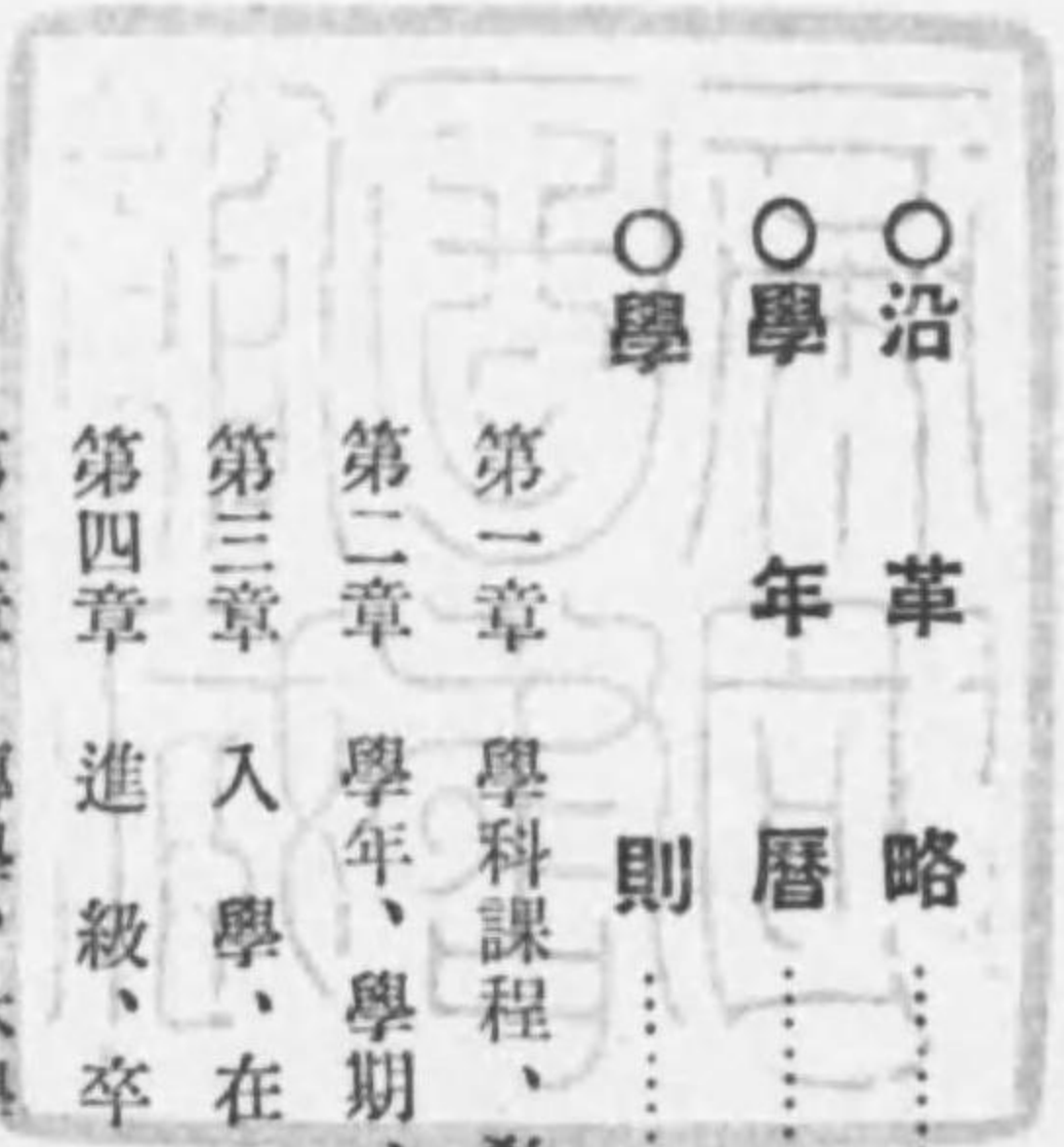
静岡高等學校一覽

自昭和十五年四月
至昭和十六年三月

静岡高等學校一覽

目次

○沿革略	(一)
○學年曆	(一〇)
○學則	(三)
第一章 學科課程、教授時數	(三)
第二章 學年、學期、休業日	(六)
第三章 入學、在學	(六)
第四章 進級、卒業	(二)
第五章 轉學、休學、退學、除名	(三)
第六章 懲戒	(三四)
第七章 授業料	(三四)
第八章 制服	(三五)



目次

第九章 寄 宿 寮 (三六)

第十章 圖 書、機 械 (三七)

○ 細 則 (三八)

第一章 生 徒 心 得 (三八)

第二章 入 學、在 學 (三九)

第三章 隨 意 科 目、體 操 副 科 (三一)

第四章 成 績 考 查 (三三)

第五章 投 業 料 及 寄 宿 料 (三五)

第六章 組 總 代 (三七)

第七章 通 學 (三七)

第八章 服 裝 (三八)

第九章 圖 書 規 定 (四三)

第十章 寄 宿 寮 (四四)

校務分掌規程 (四九)

物品會計細則 (五八)

非常警備規程 (六五)

校 旗 規 程 (六八)

○ 職 員 (六九)

○ 前 職 員 (七九)

○ 生 徒 (八七)

一 生 徒 氏 名 (八七)

二 生 徒 及 卒 業 生 創立以來 本 籍 道 府 縣 別 表 (一〇一)

三 入 學 者 學 歷 別 表 (一〇五)

四 生 徒 年 齡 表 (一〇六)

五 生 徒 科 類 別 表 (一〇七)

○ 卒 業 生 (一〇八)

一 卒 業 生 氏 名 (一〇八)

二 卒 業 生 進 入 大 學 學 部 別 表 (一七〇)

三 卒 業 生 科 類 別 表 (一七一)

○敷地建物……………(一七一)

○關係法令……………(一七七)

- 一 文部省直轄諸學校官制(抄)……………(一七七)
- 二 文部省直轄諸學校職員定員令(抄)……………(一七九)
- 三 高等學校令……………(一七九)
- 四 高等學校規程(抄)……………(一八三)
- 五 文部省直轄學校外國人特別入學規程……………(一九六)
- 六 外國人特別入學規程ヲ臺灣人朝鮮人ニ準用……………(一九七)
- 七 在外指定學校中ノ中學校及高等女學校ノ生徒並ニ卒業者ノ他ノ學校へ入學轉學ニ關スル規程(抄)……………(一九九)
- 八 高等學校高等科學力檢定規程……………(一九九)
- 九 高等學校高等科入學資格試驗規程……………(一九九)
- 一〇 專門學校入學者檢定規程……………(二〇〇)
- 一一 高等師範學校及文部省直轄諸學校生徒入學試驗無效ニ關スル規程……………(二〇三)

○附錄

- 一、静岡高等學校校友會會則……………(二一五)
- 一 總則……………(二一五)
- 二 會計細則……………(二二一)
- 三 役員選舉細則……………(二二四)
- 四 代議員會細則……………(二二六)
- 二、静岡高等學校校友會役員……………(二二七)
- 三、敷地及建物圖面……………(二二九)

静岡高等學校一覽

◎沿革略

大正七年政府ハ高等諸學校ノ創設及擴張ノ計畫ヲ定メ就中高等學校ハ第十六ヨリ第二十五ニ至ル十校ヲ創設スルコトトシ其ノ第二十二高等學校ヲ静岡市ニ新設スルコトニ決定セリ、依テ静岡縣ヨリ創設費參拾萬圓、静岡市ヨリ敷地壹萬九千餘坪ヲ地均ノ上寄附シ本校ノ設置ヲ見ルニ至レリ其ノ沿革ノ大要左ノ如シ

大正十一年

八月二十四日勅令第三百九十一號ヲ以テ文部省直轄諸學校官制中ニ改正ヲ加ヘ本校ヲ設置セラレ同日勅令第三百九十二號ヲ以テ本校職員ノ定員ヲ校長一人、教授九人、書記四人ト定メラル
八月二十八日第三高等學校長金子銓太郎本校々長ニ任セラレ同日文部省内ニ於テ事務ヲ開始ス

大正十二年

一月十六日事務所ヲ静岡縣安倍郡安東村（静岡市大岩町二丁目ト改稱）本校内ニ移ス、三月十

日本校本館ノ新築成ル、同月三十一日本校學則及諸細則ヲ制定ス、四月九日勅令第六十一號ヲ以テ本校教授ノ定員ヲ十六人ニ改メラル、同月十一日生徒二百人ノ入學ヲ許可シ同月十三日ヨリ授業ヲ開始ス、十一月十七日十三年度ヨリ文科甲類ヲ一學級トナシ更ニ文科丙類ヲ置キ各類一學級宛トナシ第一學年生徒ヨリ實施スルコトニ決定セラル、十二月十三日學則中ニ改正ヲ加ヘ文科丙類設置ニ因ル諸條項並ニ秋期休業十一月一日ヨリ同月五日ニ至ルヲ加フ

大正十三年

二月二十六日本校細則中ニ寄宿寮ニ關スル規程ヲ加ヘ四月十日生徒百八十四人ノ入寮ヲ許可ス同月十一日生徒百七十六人ノ入學ヲ許可ス、同月十五日五月十六日ヲ以テ本校創立記念日ト定ム、同月二十八日勅令第九十八號ヲ以テ本校職員ノ定員ヲ教授二十四人、助教授二人、書記五人ニ改メラル、十月二十八日博物教室及實驗室、物理教室及實驗室、化學教室及實驗室並ニ附屬建物、圖書閱覽室及書庫、製圖室ノ新築成リ文部省ヨリ引渡ヲ受ク、十一月二十一日開校式ヲ舉行ス當日文部大臣代理栗屋専門學務局長臨場ス

大正十四年

二月四日本校物品會計細則ヲ制定シ之ニ關聯シテ本校分掌規程ノ一部ヲ改正ス、同月二十日細則中ニ改正ヲ加ヘ夏季休業中ニ於ケル生徒ニ對スル館外圖書ノ貸付ヲ擴張シテ更ニ冬季春季ノ

休業中ニ於テモ同様ニ取扱フコトトス、同月二十七日學則及細則中ニ改正ヲ加ヘ大正十四年四月一日以降ノ入學者ニ對スル授業料ヲ一學年金六拾五圓ニ、寄宿寮ヲ一學年金貳拾圓ニ増額ス三月四日雨天體操場、柔劍道場等ノ新築成リ文部省ヨリ引渡ヲ受ク、同月三十一日學校長金子銓太郎願ニ依リ本官ヲ免セラレ文部省督學官塚原政次本校々長ニ任セラル、四月十一日生徒百九十二人ノ入學ヲ許可ス、同月二十四日勅令第三百三十五號ニヨリ學校教練教官トシテ陸軍現役將校一名ヲ配屬セラル、同月二十五日勅令第四百四十二號ヲ以テ本校職員ノ定員ヲ教授三十人、助教授四人、書記六人ニ改メラル、五月十八日生徒監官舍備外國人官舎ノ新築成リ文部省ヨリ引渡ヲ受ク、九月十日岡田文部大臣來校視察ス、十一月十九日學則中ニ改正ヲ加ヘ卒業證書々式ヲ改ム、十二月十七日教育ニ關スル勅語謄本ヲ拜載ス、同月二十二日

天皇 皇后兩陛下ノ 御眞影ヲ拜載ス

大正十五年

一月十六日本校講堂落成式ヲ舉行ス、三月十日第一回卒業生百四十人ニ卒業證書ヲ授與ス、四月十九日生徒百九十人ノ入學ヲ許可ス、五月十三日學則及細則中ニ改正ヲ加ヘ第一外國語ヲ英語トシタル場合ニ於ケル第二外國語ハ獨語又ハ佛語ノ中一方ヲ自由選擇セシムルコトニ改ム、十月二十一日

皇太子殿下ノ御眞影ヲ拜戴ス、十二月四日備外國人官舎一棟新築ノタメ敷地百十五坪ヲ購入ス、十二月二十日ボンブ置場一棟ノ新築成ル、十二月二十二日細則中ニ改正ヲ加ヘ劍道、柔道及弓道ヲ體操副科トナシ昭和二年度ヨリ第一學年生徒ヲシテ其ノ一ヲ必修セシムルコトニ改ム

昭和元年

十二月二十五日 大正天皇崩御 今上天皇踐祚昭和ト改元セラル同日職員生徒奉悼式ヲ舉行シ先帝ノ御眞影ヲ奉拜ス

昭和二年

二月七日御大喪儀ニ付職員生徒總代ハ上京ノ上奉送、在校職員生徒ハ校庭ニ於テ遙拜式ヲ舉行ス、三月十日第二回卒業生百七十四人ニ卒業證書ヲ授與ス、同日學則中ニ改正ヲ加ヘ天長節祝日十月三十一日ヲ天長節四月二十九日ニ改ム、三月三十一日備外國人官舎一棟ノ新築成ル、四月十三日學校長塚原政次東京高等學校長ニ任セラレ本校教授堀重里本校々長ニ任セラル、同月十八日生徒百九十五人ノ入學ヲ許可ス、七月二十五日本校々友會ヨリ弓道場ノ寄附アリタルニ付之ヲ受領ス、十月十二日生徒監官舎備外國人官舎ニ對スル敷地六百八十三坪ヲ購入ス、十二月二十七日非常警備規程ヲ制定ス

昭和三年

二月二十二日學則中ニ改正ヲ加ヘ秋季休業ヲ十月二十七日ヨリ同月三十一日ニ至ル五日間ト改ム、三月三日學則中ニ改正ヲ加ヘ明治節十一月三日ヲ加フ、同月十日第三回卒業生百八十四人ニ卒業證書ヲ授與ス、四月十三日生徒百八十九人ノ入學ヲ許可ス、七月十四日高等學校規程中ノ改正及官立高等學校高等科入學者選抜試驗規程ノ廢止ニ伴ヒ學則、細則ノ一部ヲ改正シ更ニ同日生徒ノ缺席缺課等ノ取扱ニ關スル事項ヲ改正ス、十月九日
天皇 皇后兩陛下ノ御眞影ヲ拜戴ス十月二十九日勅令第二百五十六號ヲ以テ生徒監ヲ生徒主事ニ改メ書記ノ次ニ生徒主事補ヲ加ヘ同日勅令第二百五十七號ヲ以テ本校生徒主事及生徒主事補ノ定員ヲ各一人ト定メラル

昭和四年

三月九日第四回卒業生百八十四人ニ卒業證書ヲ授與ス、同月二十三日學則中ニ改正ヲ加ヘ昭和四年四月一日以降ノ入學者ニ對スル授業料ヲ一學年金八拾圓ニ増額ス、四月十日生徒百九十四人ノ入學ヲ許可ス

昭和五年

三月十日第五回卒業生百五十八人ニ卒業證書ヲ授與ス、四月十日生徒百九十三人ノ入學ヲ許可シ第一學年生徒ニ指導教官制度ヲ實施ス五月二十八日田中文字部大臣來校視察ス、五月二十九日

昭和六年

天皇陛下本校へ行幸アラセラレ有資格者ニ單獨拜謁、列立拜謁ヲ、其他ノ職員生徒ニ校庭ニ於テ謁ヲ賜ヒ陳列室ニテ教官ノ學術研究品、生徒ノ成績品、機械、標本等ヲ天覽アラセラレタリ

昭和七年

三月十日第六回卒業生百六十六人ニ卒業證書ヲ授與ス、三月二十日文部省告示第二百三十四號ニヨリ學則及細則ノ一部ヲ改正シ從來生徒ヲシテ選擇セシメタル選擇學科目ヲ入學志願ノ際指定シテ出願セシムルコトニ改ム、四月十日生徒百八十八人ノ入學ヲ許可ス

昭和八年

三月十日第七回卒業生百六十八人ニ卒業證書ヲ授與シ、四月十日生徒百七十一人ノ入學ヲ許可ス、五月十六日創立十周年記念式ヲ舉行ス當日文部大臣代理木村督學官臨場ス、十月十二日細則中ニ改正ヲ加ヘ生徒制服ノ一部ヲ改ム、十二月二十七日勅令第三百九十五號ヲ以テ文部省直轄諸學校職員定員令中ニ改正ヲ加ヘ本校助教教授ノ欄四人ヲ三人ニ改メ助手ノ欄一人ヲ削除セラル

任セラル

昭和九年

三月六日學則中ニ改正ヲ加ヘ學期並秋季休業期間ヲ改メ更ニ細則ノ一部タル校務分掌規程中ニ指導教官ニ關スル規程ヲ挿入ス、三月十日第九回卒業生百五十三人ニ卒業證書ヲ授與シ、四月十日生徒百三十九人ノ入學ヲ許可ス

昭和十年

一月十五日寄宿寮生徒ヨリ生徒集會所日本室(木造平屋建)ヲ木造二階建ニ改築ノ上寄附アリタルニツキ之ヲ受領ス、一月三十日學則並細則中ニ改正ヲ加ヘ學年ヲ分チテ二學期トナセシモノヲ三學期ニ改ム、三月九日第十回卒業生百五十七人ニ卒業證書ヲ授與シ、四月八日生徒百三十六人ノ入學ヲ許可ス、十月八日高等學校規程中ノ改正ニ伴ヒ學則中再入學ニ關スル規程ヲ改ム

昭和十一年

三月十日第十一回卒業生百六十三人ニ卒業證書ヲ授與シ、四月八日生徒百三十一人ノ入學ヲ許可ス

昭和十二年

沿革略

三月十日第十二回卒業生百二十四人ニ卒業證書ヲ授與シ、四月八日生徒百四十一人ノ入學ヲ許可ス

昭和十三年

一月二十七日發專一六八號通牒ニ基キ學則及細則ノ一部ヲ改正シ入學志願ノ際指定シテ出願セシメタル選擇學科目ヲ第二學年ノ終リニ選擇セシムルコトニ改ム、三月十日第十三回卒業生百三十七人ニ卒業證書ヲ授與シ、四月八日生徒百三十七人ノ入學ヲ許可ス、十月五日學則及細則中ニ改正ヲ加ヘ卒業證書及保證書ノ書式中一部ヲ改メ且生徒ノ提出スヘキ戶籍謄本ヲ戶籍抄本ニ改ム

昭和十四年

三月九日第十四回卒業生百十八人ニ卒業證書ヲ授與シ、四月八日生徒百八十八人ノ入學ヲ許可ス、五月十六日校友會ヨリ旗一旒寄附アリタルニ付之ヲ受領シ茲ニ校旗ヲ制定ス、同月二十二日學校長以下職員三名配屬將校及生徒代表十名上京、宮城前ニ於テ陸軍現役將校學校配屬令公布十五年御親閱ヲ拜受シ文部省ヨリ御親閱拜受章ヲ受ク、七月三十一日學校長金子健二姫路高等學校長ニ任セラレ第一高等學校教授三谷隆正本校々長ニ任セラル、十月十四日學校長三谷隆正願ニ依リ本官ヲ免セラレ本校教授田中經太郎本校々長ニ任セラル、十二月二十一日學則中ニ

改正ヲ加ヘ第二學年以上ノ生徒ニシテ特別ノ事情アルモノハ詮議ノ上三回ヲ限り同一學年ニ止マルコトヲ得シムルコトトナセリ

昭和十五年

三月九日第十五回卒業生百四十六人ニ卒業證書ヲ授與ス、四月一日生徒百八十三人ノ入學ヲ許可ス、六月二十五日校旗規程ヲ制定ス

◎ 學 年 曆

昭和十五年

- 四月一日 第一學期始
- 同月七日 春季休業終
- 同月八日 學年始業式(二、三年生)入學宣誓式(新入生徒)
- 同月九日 授業開始
- 同月廿九日 天長節祝賀式
- 五月十六日 本校創立記念日
- 七月六日 夏季休業始
- 八月卅一日 第一學期終 夏季休業終
- 九月一日 第二學期始
- 同月廿四日 秋季皇靈祭

昭和十六年

- 十月十七日 神嘗祭
- 十一月三日 明治節祝賀式
- 同月廿三日 新嘗祭
- 同月廿八日 秋季休業始
- 同月三十日 第二學期終 秋季休業終
- 十二月一日 第三學期始
- 同月廿五日 大正天皇祭 冬季休業始
- 一月一日 新年祝賀式
- 同月七日 冬季休業終
- 二月十一日 紀元節祝賀式
- 三月十一日 春季休業始
- 同月卅一日 第三學期終

◎ 學 則

本校ハ大正七年勅令第三百八十九號ニ基キ同八年文部省令第八號ニ依リ高等學校高等科ヲ置ク

第一章 學科課程、教授時數

第一條 本校高等科ヲ分チテ文科及理科トシ各修業年限ヲ三年トス

第二條 文科ノ學科目ハ修身、國語及漢文、第一外國語、第二外國語、歷史、地理、哲學概說、心理及論理、法制及經濟、數學、自然科學、體操トス

理科ノ學科目ハ修身、國語及漢文、第一外國語、第二外國語、數學、物理、化學、植物及動物、礦物及地質、心理、法制及經濟、圖畫、體操トス

外國語ハ文科ニ在リテハ英語、獨語又ハ佛語トシ理科ニ在リテハ英語、獨語トス

第二外國語ハ第一外國語ヲ英語トシタル場合ニ於テハ獨語又ハ佛語トシ第一外國語ヲ獨語又ハ佛語トシタル場合ニ於テハ英語トス、第二外國語ハ隨意科目トス

第三條 文科ノ各學年ニ於ケル各學科目ノ每週教授時數ハ左表ニ依ル

學 則	學 科 目		學 年		
	修 身	國 語 及 漢 文	第 一 外 國 語	第 二 外 國 語	歷 史
體 操	一	六	九	(四)	三
自 然 科 學					二
數 學					三
法 制 及 經 濟					二
心 理 及 論 理					二
哲 學 概 說					三
地 理					二
歷 史					三
第 二 外 國 語					(四)
第 一 外 國 語					九
國 語 及 漢 文					六
修 身					一
第 三 學 年	一	五	八	(四)	五
第 二 學 年	一	五	八	(四)	五
第 一 學 年	一	六	九	(四)	三

第一外國語ハ尋常科又ハ中學校ニ於テ生徒ノ履修シタル外國語トス但シ生徒ノ志望ニ依リ第一外國語ノ種類ヲ轉換スルコトヲ得シム此ノ場合ニ於テハ各學年ニ於ケル第一外國語及第二外國語ノ每週教授時數ハ左表ニ依ル

計		一一九	一一九	一二八
學科目	學年	第一學年	第二學年	第三學年
第一外國語		一一	一〇	一〇
第二外國語		(三)	(三)	(三)
計		(三四)	(三四)	(三〇)

第二外國語ヲ修メサル者ニ對シテハソノ教授時數ヲ便宜他ノ學科目ニ配當スルコトアルヘシ
 第四條 理科ノ各學年ニ於ケル各學科目ノ每週教授時數ハ左表ニ依ル

學科目	學年	第一學年	第二學年	第三學年
修身		一	一	一

國語及漢文	四	二	六	六
第一外國語	八	六	(四)	(四)
第二外國語	(四)	(四)	(四)	(四)
數學	四	四	四	(二)四
物理學		三	三	講義三五 實驗三五
化學		二	三	講義二四 實驗二四
植物及動物	二	二		
礦物及地質	二			
心理學		二		
法制及經濟	二			
圖畫	二	二		(二)
體操	三	三		三
計	(三)八	(三)八	(三)八	(三)八

第三學年ノ數學〔二〕及圖畫〔二〕ト第三學年ノ植物及動物〔講義二、實驗二〕トハ生徒ヲシテ其ノ一ヲ選擇セシム

第一外國語ハ尋常科又ハ中學校ニ於テ生徒ノ履修シタル外國語トス但シ生徒ノ志望ニ依リ第一外國語ノ種類ヲ轉換スルコトヲ得シム此ノ場合ニ於テハ各學年ニ於ケル第一外國語及第二外國語ノ每週教授時數ハ左表ニ依ル

學科目	學年	第一學年	第二學年	第三學年
第一外國語		一〇	九	九
第二外國語		(三)	(三)	(三)
計		(一三)	(六)	(一四)

第二外國語ヲ修メサル者ニ對シテハ其ノ教授時數ヲ便宜他ノ學科目ニ配當スルコトアルヘシ

第二章 學年、學期、休業日

第五條 學年ハ四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル

第六條 學年ヲ分チテ三學期トス左ノ如シ

第一學期 四月一日ヨリ八月三十一日ニ至ル

第二學期 九月一日ヨリ十一月三十日ニ至ル

第三學期 十二月一日ヨリ三月三十一日ニ至ル

第七條 休業日ハ左ノ如シ

- 一、日 曜 日
- 一、天 長 節 四月二十九日
- 一、本校創立記念日 五月十六日
- 一、夏 季 休 業 七月六日ヨリ八月三十一日ニ至ル
- 一、秋 季 皇 靈 祭 秋 分 日
- 一、神 嘗 祭 十月十七日
- 一、明 治 節 十一月三日
- 一、新 嘗 祭 十一月二十三日
- 一、秋 季 休 業 十一月二十八日ヨリ同月三十日ニ至ル
- 一、冬 季 休 業 十二月二十五日ヨリ翌年一月七日ニ至ル
- 一、紀 元 節 二月十一日

一、春季休業 三月十一日ヨリ四月七日ニ至ル

第三章 入學、在學

第八條 入學ノ期ハ學年ノ初トス

第九條 本校ニ入學スルコトヲ得ル者ハ品行方正ノ男子ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當シ身體検査ヲ受ケ之ニ合格シタル者ニ限ル

- 一、中學校第四學年ヲ修了シタル者
- 二、他ノ高等學校尋常科ヲ卒業シタル者
- 三、高等學校高等科入學資格試験ニ合格シタル者
- 四、專門學校入學者檢定規程ニヨリ試験檢定ニ合格シタル者
- 五、文部大臣ニ於テ高等學校高等科ノ入學ニ關シ指定シタル者
- 六、文部大臣ニ於テ一般ノ專門學校ノ入學ニ關シ中學校卒業者ト同等以上ノ學力アリト指定シタル者

第十條 前條ノ入學志願者各科ニ入學セシムヘキ豫定人員ニ超過スルトキハ入學前ニ於ケル學業成績ト中學校第四學年修了ノ程度ニ依リ行フ選抜試験ノ成績トヲ併セ考查シテ入學者ヲ定ム但シ

選抜試験ハ之ヲ行ハサルコトアルヘシ

前項ノ考查ノ外必要アリト認ムルトキハ入學志願者ニ對シテ人物考查ヲ行フコトアルヘシ

第十一條 選抜試験ニ外國語ヲ課スル場合ハ文科ニ在リテハ英語、獨語又ハ佛語トシ理科ニ在リテハ英語又ハ獨語トシ志願者ヲシテ其ノ一ヲ選ハシム

第十二條 入學志願者ハ入學後修業セントスル科及類ヲ指定シテ願出ツヘシ、其ノ科及類ハ左ノ如シ

- 文科甲類 英語ヲ第一外國語トスル者
- 文科乙類 獨語ヲ第一外國語トスル者
- 文科丙類 佛語ヲ第一外國語トスル者
- 理科甲類 英語ヲ第一外國語トスル者
- 理科乙類 獨語ヲ第一外國語トスル者

選抜試験ニ外國語ヲ課スル場合英語ヲ選フ者ハ志望ノ類二個以上(同一科内ノ)ヲ併セ指定スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ左ノ志望ノ類ノ順位ヲ定ムヘシ獨語ヲ選フモノ、志望シ得ル類ハ文科乙類又ハ理科乙類ニ限リ佛語ヲ選フ者ノ志望シ得ル類ハ文科丙類ニ限ル

第十三條 入學志願者ハ所定ノ手續ニヨリ名票、入學考查料、寫眞ヲ本校ニ差出スヘシ

第十四條 入學考查料ハ金五圓トス

既納ノ入學考查料ハ何等ノ事情アリトモ之ヲ返付セス

第十五條 本校生徒ニシテ學籍ヲ失ヒタル者其ノ學籍ヲ失ヒタル時ヨリ二年以内ニ再入學ヲ志願シタルトキハ詮衡ノ上當該學年又ハ翌學年ノ學年ノ始ヨリ三十日以内ニ於テ同一學年以下ノ學年ニ限リ入學ヲ許可スルコトアルヘシ

第十六條 入學許可ノ通知ヲ受ケタル者ハ指定ノ期日マテニ入學料金參圓ヲ納付シ且戸籍抄本及履歷書ヲ差出スヘシ

既納ノ入學料ハ何等ノ事情アリトモ之ヲ返付セス

第十七條 前條ノ手續ヲ了セサル者ニ對シテハ其ノ入學許可ヲ取消ス

第十八條 入學ノ許可ヲ得タル者ハ規定ノ宣誓ヲナシ父兄若クハ之ニ代ルヘキ者ヲ保證人トシ本校所定ノ保證書ヲ差出スヘシ

第十九條 保證人ノ住所印鑑等ニ變更ヲ生シタルトキハ遲滞ナク届ケ出ツヘシ

第二十條 保證人死去若クハ其ノ他ノ事由ニヨリテ其ノ義務ヲ盡スコト能ハサルトキハ速ニ他人ヲ以テ之ニ代ヘ更ニ保證書ヲ差出スヘシ

第二十一條 他學校ニ入學ヲ出願セントスル者ハ其ノ事由ヲ明記シ保證人連署ヲ以テ願出テ許可ヲ

受クヘシ

第二十二條 入學ノ後ニ於テハ科及類ヲ變更スルコトヲ許サス

第四章 進級、卒業

第二十三條 各學年ノ末ニ於テ生徒ノ學業成績、行狀勤惰等ヲ考查シ合格ノ者ハ進級若クハ卒業セシメ不合格ノ者ハ原學年ニ止ム

第二十四條 學業成績ハ日常ノ課業臨時試驗並學期試驗ノ成績ヲ參酌シテ之ヲ定ム
臨時試驗ハ課業進度ニ應シ教官ノ見込ニヨリ之ヲ行フ

學期試驗ハ各學期ノ末ニ於テ之ヲ行フ

第二十五條 學業成績ノ考查ハ別ニ細則ヲ以テ之ヲ定ム

第二十六條 原學年ニ止メタル者ニハ次學年ノ初ヨリ當該學年ノ全學科ヲ再修セシム

第二十七條 本校所定ノ課程ヲ履修シテ卒業シタル者ニハ卒業證書ヲ授與ス
其ノ書式左ノ如シ

卒業證書書式

校 印	卒 業 證	何	年 月 日	某
本校高等科文(理)科ノ課程ヲ修メ正ニ其ノ業ヲ卒ヘタリ仍テ之ヲ證ス				
年 月 日	靜岡高等學校長位勳學位俯	氏	名	圖
番 號				

第五、章 轉學、休學、退學、除名

第二十八條 本校ハ他ノ高等學校ヘ又ハ他ノ高等學校ヨリノ轉學ヲ許サス

第二十九條 疾病又ハ已ムヲ得サル事故ニヨリ三月以上修學スルコト能ハサル見込ノ者ニ對シテハ

休學ヲ許可スルコトアルヘシ

休學セントスル者ハ其ノ事由ヲ詳記シ保證人ノ連署ヲ以テ願出ツヘシ但シ疾病ニ依リ休學セン

トスルトキハ願書ニ醫師ノ診斷書ヲ添付スヘシ

第三十條 陸軍又ハ海軍現役ニ服シ若クハ召集ニ應スル者ハ其ノ服役又ハ召集ノ間休學トス

服役又ハ召集ニ要スル往復日數ハ休學期間ト看做ス

第三十一條 休學ハ當該學年ニ限ル但シ前條ニ依ル者ハ此ノ限ニアラス

第三十二條 第二十九條ニ依リテ休學ノ許可ヲ得タル者ハ次學年ノ始メヨリ課業ニ就クヘシ

第三十條ニ依リテ休學シタル者ハ服役滿期又ハ召集解除ノ後一月以内ニ於テ原學年ノ課業ニ就クヘシ

第三十三條 疾病其ノ他已ムヲ得サル事故ニヨリ退學セントスル者ハ其ノ事由ヲ詳記シ保證人ノ連署ヲ以テ願出ツヘシ但シ疾病ニヨリ退學セントスル場合ハ願書ニ醫師ノ診斷書ヲ添付スヘシ

第三十四條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ之ヲ除名ス但シ第三號ノ場合ニ於テハ第三十條ニ依リ休學セル期間ヲ算入セス

一、品行不良ニシテ改善ノ見込ナシト認メル者

二、學力劣等ニシテ成業ノ見込ナシト認メル者

三、二回引續キ同一學年ニ止マル者

四、引續キ一年以上缺席シタル者

五、正當ノ事由ナクシテ引續キ一月以上缺席シタル者

六、出席常ナラサル者

學則

七、一定ノ期日内ニ授業料、寄宿料等ヲ納付セサル者
 八、第二十一條ノ手續ヲナサスシテ他學校ニ入學ヲ出願シタル者
 前記ノ外除名ニ關シテハ臨機ノ處分ヲナスコトアルヘシ

第六章 懲 戒

第三十五條 校規風紀ヲ紊リ其ノ他生徒ノ本分ニ背戾スル者ハ之ヲ懲戒ス
 第三十六條 懲戒ハ分チテ戒飭停學及放校トス

第七章 授 業 料

第三十七條 授業料ハ一學年金八拾圓トス
 第三十八條 授業料ハ左ノ三期ニ分チテ之ヲ徴收ス
 第一學期分 金 參 拾 圓
 第二學期分 金 貳 拾 五 圓
 第三學期分 金 貳 拾 五 圓
 授業料徴收期日ハ細則ヲ以テ之ヲ定ム

第三十九條 既納ノ授業料ハ何等ノ事情アリトモ之ヲ返付セス
 第四十條 第十五條ニ依リ入學シタル者ノ授業料ハ其ノ學期分ヨリ之ヲ徴收ス
 第四十一條 學期開始後退學スル者ノ授業料ハ其ノ學期分ヲ徴收ス
 第四十二條 授業料ハ缺席、停學、休學等ノタメニ之ヲ免除スルコトナシ但シ第三十條ニ依リ休學
 シタル者ニ對シテハ授業料徴收期ノ前ニ在リテハ次月分ヨリ其ノ後ニ在リテハ次學期分ヨリ之
 ヲ徴收セス
 第四十三條 第三十條ニ依リ休學シタル者學期ノ中途ニ於テ其ノ期間滿了シタルトキハ當該學期分
 ノ授業料ハ其ノ月分ヨリ之ヲ徴收ス
 第四十四條 第四十二條但書及第四十三條ノ場合ニ於ケル授業料ノ月割額ハ金八圓トス但シ第一學
 期分授業料ノ月割ニ關シテハ七月及八月ヲ算入セス

第八章 制 服

第四十五條 生徒ハ本校所定ノ服裝ヲナスヘシ但シ新ニ入學シタル生徒ニ對シテハ入學ノ日ヨリ一
 定ノ期間制帽及靴ノ外前項ノ適用ヲ猶豫ス

第九章 寮 宿 寮

第四十六條 寄宿寮ニ入ラントスル者ハ本校所定ノ書式ニヨリ願書ヲ差出シテ學校長ノ許可ヲ受クヘシ

第四十七條 寮生ハ規定ノ期日內ニ寄宿料ヲ本校ニ納付シ且食費ヲ支拂フヘシ

第四十八條 寄宿料ハ一學年金貳拾圓トス

第四十九條 寄宿料ハ三期ニ分チテ之ヲ徴收ス

寄宿料徴收期日及金額ハ細則ヲ以テ之ヲ定ム

第五十條 既納ノ寄宿料ハ何等ノ事情アルモ之ヲ返付セス

第五十一條 寄宿料徴收期日後入寮スル者ノ寄宿料ハ其ノ月分ヨリ寄宿料徴收期日前ニ退寮スル者ノ寄宿料ハ其ノ月分ヲ徴收ス

前項ノ場合ニ於ケル寄宿料月割額ハ金貳圓トス但シ寄宿料ノ月割ニ關シテハ七月及八月ヲ算入セス

第五十二條 寮生ニシテ退寮セントスル者ハ其ノ事由ヲ明記シテ願出テ學校長ノ許可ヲ受クヘシ

第五十三條 寮生ニシテ疾病ニ罹リタルトキハ其ノ種類又ハ症狀ニヨリ外泊若クハ退寮セシムルコ

トアルヘシ

第五十四條 寮生ニシテ寮規ヲ紊ル行爲アリタルトキハ之ニ退寮ヲ命ス

第十章 圖 書、機 械

第五十五條 本校所屬ノ圖書類ハ特別ノ規定ニ依ルモノノ外總テ之ヲ文庫內ニ藏置ス

第五十六條 圖書ヲ閱覽スルコトヲ得ル者ハ本校職員生徒及特ニ學校長ノ許可ヲ得タル者ニ限ル

第五十七條 本校職員ハ所定ノ手續ヲ了シ職務ニ必要ナル圖書ヲ借受ケ之ヲ文庫外ニ携出スルコトヲ得但シ貴重圖書及閱覽室備付ノ圖書ハ之ヲ携出スルコトヲ得ス

第五十八條 教官室特別教室又ハ事務室等ニ備付ヲ要スル圖書ハ當該學科主任各課課長又ハ會計主任之ヲ借受ケ其ノ保管ノ責ニ任スルモノトス

第五十九條 本校所屬ノ學術用標本、器具、機械ハ各所屬教室ニ之ヲ藏置ス

第六十條 生徒ハ當該學科擔任教官ノ許可ヲ得テ實習ノタメ圖書、標本、器具、機械ヲ使用スルコトヲ得

第六十一條 圖書、標本、器具、機械ヲ紛失毀損又ハ汚染シタルトキハ其ノ損害ノ程度ニヨリ之ヲ辨償セシメ又ハ其ノ修理ニ要スル費用ヲ負擔セシムルコトアルヘシ

◎ 細 則

第一章 生徒心得

- 第一條 校ノ内外ヲ問ハス總テ其ノ體面ヲ汚スカ如キ言行アルヘカラス
- 第二條 始業ノ號鐘後ハ直ニ定席ニ着キ教官ノ入室ヲ待ツヘシ教官入室スルトキハ起立シテ敬禮ヲ行フヘシ退室ノ際モ亦同シ
- 第三條 教官定刻ニ至ルモ出場セサルトキハ教務課ニ問合セ其ノ指揮ヲ受クヘシ
隨意ニ退散スルコトヲ得ス
- 第四條 教室ニ在リテハ授業中ハ勿論休憩中ト雖モ靜肅ヲ旨トシ喧噪ノ行爲アルヘカラス
- 第五條 教室内ニハ授業上ノ必要品及許サレタルモノノ外ハ持込ムヘカラス
- 第六條 教官ノ許可ナクシテ授業中恣ニ退去スルコトヲ得ス
- 第七條 校舍内ニ於テハ所定場所ノ外喫煙スヘカラス
- 第八條 登校ニ際シテハ必ス靴ヲ穿ツヘシ但シ特ニ生徒主事ノ許可ヲ受ケタル者ハ此ノ限ニアラス
- 第九條 建物又ハ器物ヲ毀損若クハ汚染シタル時ハ之ヲ辨償セシメ情狀ニヨリテハ處分スルコトア

ルヘシ

- 第十條 本校ノ示達ハ所定ノ場所ニ揭示シタル以上ハ一般ニ了知セラレタルモノト看做ス由テ常ニ揭示場ニ注意スヘシ
- 第十一條 揭示ヲナサントスル者ハ生徒主事ノ許可ヲ受ケ必ス所定ノ場所ニ於テナスヘシ
- 第十二條 集會ヲナサントスルトキハ其ノ代表者ヲ定メ集會ノ目的時日場所（會費ヲ要スルトキハ其ノ金額）等ヲ具シ集會ノ前日マテニ生徒主事ノ許可ヲ受クヘシ
- 第十三條 校外ニ於ケル集會ハ風紀ヲ害シ多額ノ費用ヲ要スルノ虞ナキ場所ニ於テ之ヲ開クヘシ
- 第十四條 一定ノ會ヲ組織セントスルトキハ生徒主事ノ許可ヲ受クヘシ之ヲ解散シタル時ハ生徒主事ニ届出ツヘシ
- 第十五條 別ニ規定ヲ設ケタルモノノ外願届書ハ總テ學級主任ノ承認ヲ經ヘシ
- 第十六條 本校生徒ハ總テ本校校友會員タルヘキ義務アルモノトス
- 第十七條 通學生徒ハ生徒主事ノ許可ナクシテ寄宿寮ニ出入スルコトヲ得ス
在寮生徒ニ面會セントスルトキハ必ス指定ノ場所ニ於テ之ヲナスヘシ

第二章 入學、在學

- 第十八條 學則第十八條ニ依リ入學ノ許可ヲ得タル者ノ差出スヘキ保證書ノ様式ハ左ノ通之ヲ定ム

細則

參 收 紙 入 印

保 證 書

本 家 庭 所 在 地 籍 家 族 關 係

氏

年 月 日 生 名

右ノ者今般入學ノ御許可ヲ得候ニ付テハ同在在學中ニ係ル一切ノ事件ハ私ニ於テ引受クヘキコトヲ保證候也

追テ向後私ノ宿所移轉或ハ印章相改メ候節ハ速ニ届出ツヘク候也

年 月 日

本 現 住 所 籍 職 業 生 徒 ト ノ 積 柄

保 證 人 氏

年 月 日 生 名 圍

靜岡高等學校長 氏

名 殿

第十九條 陸軍又ハ海軍現役ニ服シ若クハ召集ニ應シタル者ハ其ノ役名服役又ハ召集ノ期間及部隊

又ハ艦艇名ヲ具シ遲滞ナク届出ツヘシ

第二十條 戶籍ニ移動ヲ生シタルトキハ戶籍抄本ヲ添ヘ遲滞ナク届出ツヘシ

第二十一條 疾病又ハ已ムヲ得サル事故ニヨリ遅刻、缺課又ハ缺席セル者ハ當日ヨリ三日以内(休

日ヲ除ク)ニ生徒課備付ノ缺席届簿ニ其ノ事由ヲ記入シ學級主任ノ承認ヲ受クヘシ但シ學級主任缺勤ノトキハ生徒主事ノ承認ヲ受クヘシ

三日以上引續キ缺席シテ前項ノ手續ヲナス能ハサルトキハ最初ヨリ三日以内ニ書面ヲ以テ學級主任ニ届出ツヘク又疾病七日以上ニ互ルトキハ醫師ノ診斷書ヲ差出スヘシ

試験ニ缺席シタルトキハ事由ヲ具シ其ノ翌日マテニ書面ヲ以テ學級主任ニ届出ツヘク其ノ事由カ疾病ナルトキハ醫師ノ診斷書ヲ差出スヘシ

第二十二條 生徒左ノ事由ニヨリテ缺席缺課ヲ届出タル場合ハ之ヲ缺席缺課ノ數ニ算入セス

一、父母ノ喪ニ丁リタルトキハ七日以内祖父母兄弟姉妹ノ喪ニ丁リタルトキハ五日以内其ノ他ノ服忌ヲ受クル場合ハ三日以内

二、徴兵検査ヲ受クル場合ハ其ノ當日ト本校ノ適當ナリト認ムル往復日數トヲ加ヘタル日數

第 三 章 隨 意 科 目 、 選 擇 科 目 及 體 操 副 科

細 則

第二十三條 入學ヲ許可セラレタル者ニシテ隨意科目ヲ履修セントスル者ハ指定ノ期日迄ニ其ノ旨届出ツヘシ

第二十四條 隨意科目ハ學年ノ中途ヨリ之ヲ履修スルコトヲ許サス

第二十五條 隨意科目ハ學年ノ中途ヨリ其ノ履修ヲ止ムルコトヲ得ス

次學年ヨリ隨意科目ノ履修ヲ止メムトスル者ハ其ノ學年ノ終ニ於テ届出ツヘシ

第二十六條 選抜試験ニ外國語ヲ課シタル場合獨語又ハ佛語ヲ選ヒタル入學者ニ對シテハ本校ノ都合ニヨリ第二外國語ヲ履修セシメサルコトアルヘシ

第二十七條 學則第一章第四條第二項ニ依ル學科目ノ選擇ハ第二學年ノ終ニ於テ之ヲ届出ツヘシ

第二十八條 劍道柔道及弓道ヲ以テ體操副科トス

第二十九條 前條ノ科目ハ第一學年生徒ヲシテ其ノ一ヲ必修セシム

第三十條 劍道ヲ修ムル者ハ袴及竹刀、柔道ヲ修ムル者ハ袴及帶、弓道ヲ修ムル者ハ鞆及的矢ヲ自辨スヘシ

第三十一條 選擇科目及體操副科ハ學年ノ中途ヨリ之ヲ變更スルコトヲ許サス

第三十二條 各學科ノ成績ニ對シ評點ヲ附ス之ヲ學期評點及學年評點ノ二種トス

第四章 成績考査

各學年ノ評點科目數ハ左ノ通り之ヲ定メ其ノ一科目ノ滿點ヲ一百トス

學科目	第一學年			第二學年			第三學年			
	文甲	文乙	文丙	理甲	理乙	文甲	文乙	文丙	理甲	理乙
修身										
國語及漢文	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
英語	三	一	一	三	一	三	一	一	三	一
獨語	(一)	三		一	三	(一)	三		一	三
佛語	(一)		三		(一)		三		(一)	三
歷史	一	一	一			二	二	二		
地理	一	一	一			二	二	二		
哲學概説										
心理及論理						一	一	一		
法制及經濟			一			一	一	一		

第三十九條 授業料徴收期日ハ左ノ通り之ヲ定ム

第一學期分 四月十日ヨリ
同月十六日マテ

第二學期分 九月十日ヨリ
同月十六日マテ

第三學期分 十二月十日ヨリ
同月十六日マテ

寄宿料徴收期日及金額ハ左ノ通り之ヲ定ム

第一期 自四月至六月分 四月十日ヨリ 金 六圓
同月十六日マテ

第二期 自九月至十一月分 九月十日ヨリ 金 六圓
同月十六日マテ

第三期 自十二月至三月分 十二月十日ヨリ 金 八圓
同月十六日マテ

前項ノ期間ニ於テ休業日アリタルトキハ徴收期日ヲ順延ス

第四十條 授業料及寄宿料ハ前條ノ徴收期日内ニ於テ所定ノ納付書用紙ニ所要ノ事項ヲ記入シタルモノヲ添ヘ之ヲ會計課ニ納付スヘシ

授業料及寄宿料ハ現金ヲ以テ納付スヘシ但シ病氣其ノ他事故ニヨリ歸郷シ又ハ他ノ地方ニ在ル者ハ郵便爲替ヲ以テ納付スルコトヲ得

第四十一條 第三十九條ノ徴收期ヲ過キテ入學又ハ入寮シタルモノハ其ノ日ヨリ七日以内ニ授業料又ハ寄宿料ヲ納付スヘシ

第四十二條 第三十九條及第四十一條ノ期限内ニ授業料又ハ寄宿料ヲ納付セサル者ニ對シテハ之ヲ納付スルマテ出席ヲ停止ス

第四十三條 第三十九條及第四十一條ノ期限滿了ノ翌日ヨリ二週間ヲ經過スルモ尙授業料又ハ寄宿料ヲ納付セサル者ハ學則第三十四條第七號ニ依リ之ヲ除名ス

第六章 組總代

第四十四條 各組ニ總代二名ヲ置ク

組總代ハ其ノ組ノ生徒ヲシテ互選セシメタル候補者四名ニ就キ學校長之ヲ命シ其ノ任期ハ一學年間トス但シ第一學年ニ在リテハ前項ノ規定ニ依ラサルコトアルヘシ

第四十五條 組總代ハ學級主任ノ指揮ヲ受ケ其ノ組ニ關スル一切ノ世話ヲ爲スモノトス

第七章 通學

第四十六條 通學生徒ハ異動ノ有無ニ拘ラス毎學期ノ始ニ於テ所定ノ用紙ニテ宿所ヲ届出ツヘシ

細則

三八

第四十七條 通學生徒轉宿シタルトキハ轉宿ノ日ヨリ三日以内ニ其ノ宿所ヲ届出ツヘシ

第四十八條 通學生徒ノ宿所ニシテ不適當ト認メタルトキハ轉宿ヲ命スルコトアルヘシ

第八章 服 裝

第四十九條 本校生徒ノ制服ハ左ノ通り之ヲ定ム

一、正 帽

製式 丸形

品質 絨

色 黒

徽章 眞鍮製金色ニシテ富士薔薇滿開ノ一

輪ニ『高』ノ文字ヲ表シタルモノ

横章 白線(幅約七・一耗)二條

二、略 帽

製式 普通形(縁約九・一厘高サ約七・六厘)

品質 麥藁

鉢卷 焦茶地(幅約四・五厘)ニ白線(幅約七・六耗)二條(間隔約七・六耗)



徽章 正帽ニ同シ

三、服

(甲) 冬 服

(一) 上 衣

製式 背廣形立襟

品質 絨又ハ小倉

色 濃紺又ハ黒

鈕 圓形ノ中ニ徽章ヲ表ハシタルモノ(眞鍮製金色)

(二) ズボン

製式 普 通

品質 上衣ニ同シ

色 上衣ニ同シ

(乙) 夏 服

(一) 上 衣

製式 冬服ノ上衣ニ同シ

細則

三九

品質 小倉
色 藍鼠霜降

鈕 冬服ノ上衣ニ同シ

(二)ズボン

製式 冬服ノズボンニ同シ

品質 上衣ニ同シ

色 上衣ニ同シ

四、靴

製式 短靴(編上及深護謨ヲ含ム)

品質 革、ズツク又ハ護謨

色 黒

四、脚絆

製式 卷脚絆

品質 絨又ハ木綿

色 茶褐

第五十條 左ノ場合ニハ前條制定ノ服装ヲナスヘシ但シ脚絆ハ特ニ指定シタル場合ニノミ之ヲ着用スルモノトス

一、儀式舉行ノ場合

二、授業ヲ受クル場合

三、本校ヨリ特ニ指定シタル場合

第五十一條 冬服着用期間ハ十月一日ヨリ翌年四月三十日マテ夏服着用期間ハ五月一日ヨリ九月三十日マテトス但シ時宜ニヨリ其ノ期間ヲ伸縮スルコトアルヘシ

第五十二條 新ニ入學シタル生徒ニ對シテハ其ノ年四月三十日マテハ出身中等學校ノ制服ニ本校所定ノ鈕ヲ附シタルモノ又ハ和服着用ヲ許可ス

第五十三條 略帽ハ五月一日ヨリ九月三十日マテ之ヲ着用スルコトヲ得但シ儀式其ノ他特ニ指定シタル場合ニハ必ス正帽ヲ着用スヘシ

第五十四條 防寒外衣ヲ着クル者ハ將校マント(絨製濃紺色又ハ黒色)ヲ用フヘシ但シ乘馬形外套(絨製濃紺色又ハ黒色)ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第五十五條 雨外套ヲ用フルモノハ其製式、品質、色共ニ本校教練用外被ニ準スヘキモノトス

第五十六條 生徒外出ノ際ハ成ルヘク制服ヲ着用スヘシ若シ和服ヲ着用スルトキハ必ス正帽ヲ冠リ

細則

四一

袴ヲ穿クヘシ

第五十六條 已ムヲ得サル事故ニヨリ制服ヲ着用スルコト能ハサルトキハ其ノ事由ヲ詳記シテ生徒課ニ願出テ略裝許可證ヲ受クルニ非サレハ授業ヲ受クルコトヲ得ス

第九章 圖書規定

第五十七條 本校ノ圖書ハ文庫ニ於テ之ヲ藏置ス

第五十八條 文庫ハ本校所藏ノモノノ外他ノ寄託ニ係ル圖書ヲ藏置ス

第五十九條 圖書ノ出納ハ圖書課員之ヲ掌ル

第六十條 本校ノ職員ハ圖書ヲ借受クルコトヲ得

第六十一條 本校ノ職員ハ書庫ニ入り圖書ヲ檢索スルコトヲ得

第六十二條 圖書ヲ借受ケントスル者ハ圖書課ニ就キ所定ノ借用書ニ書名、冊數、圖書番號、姓名、年月日等ヲ記シ捺印ノ上之ヲ圖書課員ニ差出スヘシ

第六十三條 教官ハ一員三十冊、事務員ハ一員十冊ヲ限り圖書ヲ借受クルコトヲ得但シ和漢裝ノモノハ三冊ヲ以テ一冊ト見做ス

制限外ノ冊數ヲ借受ケント欲スルトキハ學校長ノ許可ヲ受クヘシ

第六十四條 借受ケタル圖書ハ他ニ轉貸スルコトヲ許サス

第六十五條 借受ケタル圖書ハ毎年七月一日ヨリ十日迄ノ間ニ於テ一旦返納スヘシ但シ必要アルト

キハ臨時之ヲ返納セシム

第六十六條 各學科主任各課長又ハ會計主任ハ必要ナル圖書ヲ借受ケ之ヲ教室、特別教室又ハ事務室ニ備付クルコトヲ得

第六十七條 本校ノ職員生徒及特ニ圖書閱覽ノ許可ヲ得タル者ハ閱覽室ニ入り圖書ヲ閱覽スルコトヲ得

第六十八條 生徒ニシテ圖書ヲ閱覽セントスル者ハ圖書課ニ就キ閱覽票ノ交付ヲ受クヘシ

第六十九條 生徒ニシテ圖書ヲ閱覽セントスル者ハ閱覽票ト共ニ所定ノ閱覽證ニ書名、冊數、圖書番號、姓名、年月日等ヲ記シ之ヲ圖書課員ニ差出シ閱覽終レハ直チニ圖書ヲ返納シテ閱覽票ノ還付ヲ受クヘシ

第七十條 本校ノ職員生徒ニアラスシテ特ニ學校長ヨリ圖書閱覽ノ許可ヲ得タルモノニ對シテハ閱覽特許證ヲ附與ス

第七十一條 閱覽特許證ヲ有スルモノニシテ圖書ヲ閱覽セントスルトキハ第六十八條ノ手續ヲ爲スヘシ

第七十二條 閱覽者ハ一時ニ洋書十冊、和漢書三十冊以上ヲ借覽スルコトヲ得ス

第七十三條 閱覽票及閱覽特許證ハ他人ニ轉貸スルヲ得ス之ヲ遺失シタルトキハ速ニ其ノ旨ヲ圖書課ニ届出ツヘシ

第七十四條 圖書ノ閱覽ハ必ス閱覽室内ニ於テ爲スヘシ

第七十五條 閱覽室ニ入ル者ハ左ノ事項ヲ注意スヘシ

一、喫煙、音讀、談話其ノ他閱覽ヲ妨害スル行爲アルヘカラス

二、制服又ハ袴ヲ着用スヘシ

第七十六條 閱覽室ハ左ノ期間之ヲ閉ツ

一、七月十五日ヨリ八月三十一日マテ

一、十二月二十八日ヨリ一月五日マテ

一、三月十五日ヨリ四月十日マテ

一、月曜日及大祭祝日

前項ノ外臨時閉室スルコトアルヘシ

第七十七條 閱覽ヲ許可スル時間ハ時々之ヲ揭示ス

第七十八條 圖書ヲ汚損又ハ紛失シタル時ハ之ヲ修繕セシメ若クハ同一ノ圖書又ハ相當ノ代金ヲ以テ之ヲ辨償セシム

第七十九條 貴重圖書並ニ寄託圖書ハ文庫外ニ携出スルコトヲ許サス

第八十條 夏季、冬季、春季ノ各休業中ハ當該學科主任ノ承認アルトキ生徒ニ對シ圖書三冊ヲ限

リ貸付スルコトアルヘシ但シ春季休業ニアリテハ其ノ學年ニ卒業スヘキ者ニ對シ一切貸付セス

第八十一條 職員退職若クハ轉任シタルトキ及生徒卒業若クハ退學シタルトキハ其ノ借受ケタル圖書ヲ直ニ返納スヘシ

第十章 寮 宿 寮

第八十二條 在寮生徒ハ本校教育ノ趣旨ヲ體シ和衷協同以テ心身ノ修養ニ努ムヘシ

第八十三條 在寮生徒ハ規約ヲ定メ學校長ノ許可ヲ得テ之ヲ實行スヘシ

規約ヲ以テ定ムヘキ事項左ノ如シ

一、寮内ノ秩序整頓及風紀ニ關スルコト

二、寮内ノ清潔及衛生ニ關スルコト

三、炊事ニ關スルコト

四、非常警備ニ關スルコト

五、其ノ他必要ナル事項

第八十四條 在寮生徒ノ定員ハ二百名トス

- 第八十五條 入寮シタル生徒ノ在寮期間ハ其ノ學年間トス
- 第八十六條 各室人員ノ配當ハ生徒主事之ヲ定ム
- 第八十七條 各寮ニ委員及總代各若干名ヲ置ク委員ハ其ノ寮生徒互選ノ候補者ニ就キ學校長之ヲ命シ總代ハ組合若干室ヨリ互選ノ候補者ニ就キ生徒主事之ヲ委囑ス
- 其ノ任期ハ共ニ一學期間トス
- 第八十八條 寮委員及總代ハ生徒主事ノ指揮ヲ受ケ各自所定ノ任務ニ從事スヘシ
- 第八十九條 寮内ノ日課時限ハ生徒主事之ヲ定ム
- 第九十條 在寮生徒ハ毎夜點檢ヲ受クルモノトス但シ病氣又ハ已ムヲ得サル事情ニヨリ點檢ヲ受クルコト能ハサル者ハ豫メ生徒主事ニ届出ツヘシ
- 第九十一條 已ムヲ得サル事情ニヨリ所定ノ時間外ニ外出セントスル者ハ豫メ生徒主事ノ許可ヲ受クヘシ
- 第九十二條 外出中已ムヲ得サル事情ニヨリ歸寮時刻ニ遅レタルモノハ事由ヲ具シ翌日朝食時刻前生徒主事ニ届出ツヘシ
- 第九十三條 已ムヲ得サル事情ニヨリ外泊セントスル者ハ豫メ生徒主事ノ許可ヲ受クヘシ外出中已ムヲ得サル事情ニヨリ外泊シタル時ハ歸寮ノ際外泊先ノ證明書ヲ差出スヘシ

- 第九十四條 寄宿寮ハ春季及夏季休業期間中之ヲ閉鎖ス
- 第九十五條 前條ノ閉鎖期間以外ニ於テ歸郷又ハ旅行セントスル者ハ日數及旅行先ヲ明記シテ願出テ生徒主事ノ許可ヲ受クヘシ
- 第九十六條 食費ハ寮生規約所定ノ期日内ニ概算前納スヘシ
- 第九十七條 在寮生徒ト寮外者トノ面會ハ必ス應接室ニ於テスヘシ
- 第九十八條 療養ノ爲メ病室ニ入ラントスル者ハ生徒主事ノ許可ヲ受クヘシ
- 第九十九條 入室患者ニ面會セントスル者ハ生徒主事ノ許可ヲ受クヘシ寮外者ニシテ入室患者ヲ看護セントスル者モ亦同シ
- 第一百條 在寮生徒ニシテ處分ヲ受ケタル者ハ退寮セシムルコトアルヘシ
- 第一百一條 寄宿寮ノ建物備品等ヲ毀損汚染又ハ紛失シタルトキハ之ヲ辨償セシム但シ情狀ニヨリ處分スルコトアルヘシ
- 第一百二條 學則第四十六條ニヨリ差出スヘキ入寮願書ノ様式ハ左ノ通り之ヲ定ム

入寮願書	科	學年	類	氏	名
------	---	----	---	---	---

年 月 日生

右者寄宿寮へ入寮致度候ニ付御許可相成度候也
追テ入寮ノ上ハ本人ニ於テ寮規ヲ遵守スルハ勿論本人在寮中ニ係ル一切ノ事件ハ
保證人ニ於テ誓テ引受可申候

年 月 日

静岡高等学校長 氏

名 殿

本 籍 氏
現 住 所 氏
職 業 氏
生徒トノ續柄 氏
保證人 氏

名 園

校務分掌規程

- 第一條 校務ヲ分チテ教育部及事務部トシ更ニ事務部ヲ分チテ教務課、生徒課、庶務課、圖書課及會計課ノ五トス
- 第二條 教育部ニ教頭ヲ置キ教務課、生徒課、庶務課、圖書課ニ課長ヲ置ク
- 第三條 教頭及課長ハ教授又ハ生徒主事トヨリ學校長之ヲ命ス
- 第四條 教頭ハ學校長ノ指揮ヲ受ケ教育ノ實務ヲ管理ス
- 第五條 教務課長ハ學校長ノ指揮ヲ承ケ教務ヲ掌理ス
- 第六條 生徒課長ハ學校長ノ指揮ヲ承ケ生徒ノ訓育ニ關スル事ヲ掌理ス
- 第七條 庶務課長ハ學校長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ掌理ス
- 第八條 圖書課長ハ學校長ノ指揮ヲ承ケ圖書ニ關スル事務ヲ掌理ス
- 第九條 會計主任ハ學校長ノ命ヲ承ケ會計ニ關スル事ヲ掌ル
- 第十條 一學科又ハ數學科ヲ合セタルモノニ學科主任ヲ置キ教官中ヨリ學校長之ヲ命ス
- 第十一條 學科主任ハ學校長ノ指揮ヲ承ケ教頭ト協議ノ上當該學科ノ授業ニ關スル事ヲ掌ル其ノ擔任スヘキ事項左ノ如シ

校務分掌規程

校務分掌規程

五〇

- 一、當該學科ノ教科用書ニ關シ提案スルコト
- 二、當該學科ノ授業分擔ニ關シ提案スルコト
- 三、其ノ他當該學科ノ授業ニ關スルコト

第十二條 各學級ニ學級主任ヲ置キ教官中ヨリ學校長之ヲ命ス

第十三條 學級主任ハ學校長ノ指揮ヲ承ケ當該學級ノ生徒ノ監督指導ニ任ス其ノ擔當スヘキ事項左ノ如シ

- 一、當該學級ノ生徒ノ勤惰行狀ニ關スルコト
- 二、當該學級ノ生徒ノ缺席取締ニ關スルコト
- 三、當該學級ノ生徒ノ試業成績ニ關スルコト
- 四、當該學級ノ生徒ノ訓戒ニ關スルコト
- 五、當該學級ノ教室ノ整理ニ關スルコト
- 六、其ノ他當該學級ニ關スル事項

第十四條 指導教官ハ教官中ニツキ學校長之ヲ委囑シ全生徒ヲシテ之ニ分屬セシム

第十五條 指導教官ハ學校長ノ指揮ヲ承ケ常ニ父兄ト連絡ヲ保チ努メテ生徒ト接觸シ其在學中ヲ通シ適當ノ注意助言ヲナシ生徒ヲシテ其本分ヲ完ウセシムルヲ任トス

第十六條 教務課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一、學科課程教科書及授業時間ニ關スルコト
- 二、組ノ編成ニ關スルコト
- 三、授業及休業ニ關スルコト
- 四、授業上ノ設備ニ關スルコト
- 五、生徒募集入學者選抜及入學ニ關スルコト
- 六、修業科類及隨意科目選擇科目ニ關スルコト
- 七、生徒ノ學籍簿出席簿ニ關スルコト
- 八、生徒ノ休學退學及除名ニ關スルコト
- 九、生徒ノ試業及成績考査ニ關スルコト
- 十、生徒ノ學級進退及卒業ニ關スルコト
- 十一、在學及成績證明ニ關スルコト
- 十二、教務上ノ命令傳達並ニ通知ニ關スルコト
- 十三、教官會議ニ關スルコト
- 十四、教官ノ報告ニ關スルコト

校務分掌規程

五一

校務分掌規程

五二

- 十五、教官ノ缺勤、早退、遅刻届書類ニ關スルコト
 - 十六、學級主任及學級總代ニ關スルコト
 - 十七、卒業生ノ大學進入ニ關スルコト
 - 十八、高等科學力檢定試験及教員無試験檢定願ニ關スルコト
 - 十九、參觀人ノ取扱ニ關スルコト
 - 二十、教務ニ關スル文章起案及保存整理ニ關スルコト
 - 二十一、普通教室、教官室及生徒控所ノ整理ニ關スルコト
 - 二十二、普通教室、教官室、生徒控所及教務課ニ屬スル備品ノ保管ニ關スルコト
 - 二十三、其ノ他教務ニ關スル一切ノ事項
- 第十七條 生徒課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一、生徒ノ監督指導ニ關スルコト
 - 二、生徒ノ訓誨及懲罰ニ關スルコト
 - 三、生徒ノ勤惰及行狀ニ關スルコト
 - 四、生徒ノ服装ニ關スルコト
 - 五、式場ノ整頓ニ關スルコト

- 六、生徒ノ集會ニ關スルコト
- 七、生徒ノ揭示ニ關スルコト
- 八、生徒ノ身分證明ニ關スルコト
- 九、通學生徒ノ宿所ニ關スルコト
- 十、寄宿生徒ノ入退寮ニ關スルコト
- 十一、寄宿寮ノ管理警備ニ關スルコト
- 十二、寄宿寮ノ炊事監督及食料ニ關スルコト
- 十三、寄宿寮ノ當直ニ關スルコト
- 十四、生徒課ニ屬スル文書ノ起案編纂及保管ニ關スルコト
- 十五、生徒監督上ノ統計類ノ製作ニ關スルコト
- 十六、生徒ノ缺席、缺課及遅刻等ノ届書類ニ關スルコト
- 十七、生徒身體檢査及衛生ニ關スルコト
- 十八、生徒ノ兵役ニ關スルコト
- 十九、寄宿寮、生徒集會所、銃器室、柔劍道場、雨天體操場及生徒課ニ屬スル備品ノ保管ニ關スルコト

校務分掌規程

五三

校務分掌規程

- 二十、生徒ノ育英資金斡旋ニ關スルコト
- 二十一、生徒ノ乘車乗船割引證ニ關スルコト
- 二十二、生徒ノ出版物ニ關スルコト
- 二十三、生徒ノ組織スル會又ハ團體ニ關スルコト
- 二十四、指導教官決定手續ニ關スルコト
- 二十五、生徒身上ノ相談ニ關スルコト
- 二十六、其ノ他生徒ノ取締ニ關スル一切ノ事項

第十八條 庶務課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一、御眞影及勅語ノ保管ニ關スルコト
- 二、學校長ノ官印及校印ノ管守ニ關スルコト
- 三、儀式ニ關スルコト
- 四、示達ニ關スルコト
- 五、學校一覽統計報告ニ關スルコト
- 六、日誌及諸記録ニ關スルコト
- 七、文書ノ接受及發送ニ關スルコト

- 八、公文書類ノ整理及保存ニ關スルコト
- 九、規程ノ制定及改廢ニ關スルコト
- 十、職員ノ進退及身分ニ關スルコト
- 十一、職員ノ叙位敘勳ニ關スルコト
- 十二、職員出席簿ノ管理及調査ニ關スルコト
- 十三、職員ノ願届ニ關スルコト
- 十四、卒業證書ニ關スルコト
- 十五、庶務ニ關スル文書ノ起案及保存整理ニ關スルコト
- 十六、各課成案文書回議審査ニ關スルコト
- 十七、官報報告其ノ他ノ報告ニ關スルコト
- 十八、校長室、應接室及庶務課ニ屬スル備品ノ保管ニ關スルコト
- 十九、職員ノ乘車乗船割引證ニ關スルコト
- 二十、事務當直ニ關スルコト
- 二十一、外國教師ニ關スルコト
- 二十二、參觀人以外ノ外來者應接ニ關スルコト

校務分掌規程

- 二十三、寄附物品ノ接受及賞與申請ニ關スルコト
- 二十四、紛失物及遺失物ニ關スルコト
- 二十五、其ノ他各分課ノ主掌ニ屬セサル一切ノ事項

第十九條 圖書課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一、圖書ノ保管及整理ニ關スルコト
 - 二、圖書目錄ニ關スルコト
 - 三、書庫及閲覧室ニ關スルコト
 - 四、圖書ノ貸付ニ關スルコト
 - 五、購入圖書ノ審査ニ關スルコト
 - 六、書庫閲覧室及圖書課ニ屬スル備品ノ保管ニ關スルコト
 - 七、其ノ他圖書ニ關スル一切ノ事項
- 第二十條 會計課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一、歳入、歳出、豫算及決算ニ關スルコト
 - 二、國有財産及資金管理ニ關スルコト
 - 三、金錢收支及保管ニ關スルコト

- 四、歳入、歳出及物品證明ニ關スルコト
- 五、物品ノ購入及不用品ノ處分ニ關スルコト
- 六、物品ノ出納及保管ニ關スルコト
- 七、校地、校舎及其ノ營繕ニ關スルコト
- 八、電話、電燈、瓦斯、給水及暖房ニ關スルコト
- 九、校内ノ警備衛生ニ關スルコト
- 十、校舎内外ノ掃除ニ關スルコト
- 十一、樹木ノ手入れ及上下水ノ浚渫ニ關スルコト
- 十二、傭人ノ進退取締ニ關スルコト（但シ進退ニ關シテハ庶務課ト合議ノコト）
- 十三、傭人ノ出勤簿ノ管理及調査ニ關スルコト
- 十四、會計ニ屬スル文書ノ起案及保存整理ニ關スルコト
- 十五、會計帳簿ノ整頓ニ關スルコト
- 十六、式場ノ設備ニ關スルコト
- 十七、會計課、會議室、官舎、講堂及各課教室ニ屬セサル備品ノ保管ニ關スルコト
- 十八、其ノ他會計ニ關スル一切ノ事項

物品會計細則

第一章 總則

第一條 本校所屬物品ノ保管及出納ハ物品會計規則並文部省直轄各部物品會計規則ニ基キ此細則ニ依リ處理スヘシ

第二條 物品ヲ大別シテ備品消耗品ニ分チ備品ノ用途ヲ專用共用ノ二種トス
共用トハ各課又ハ特別教室ニ於テ共用スルモノヲ謂ヒ專用トハ職員各自ニ專用スルモノヲ謂フ
但シ備品消耗品ノ區別ハ其ノ性質及用途ニ依リ之ヲ定ム

第三條 各課又ハ特別教室ニ物品監守者及消耗品取扱者ヲ置キ物品監守者ハ備品ノ監守消耗品取扱者ハ消耗品ノ取扱ニ付其ノ責ニ任セシム但シ職員各自專用ノ物品ハ各自保管ノ責ニ任セシム

第四條 各課又ハ特別教室ニ於ケル監守者ノ監守區域及物品取扱者ノ取扱フヘキ物品ノ種目並備品分類左ノ如シ

物品監守區域消耗品取扱品名表

部局名	物品監守區域	消耗品取扱品目
庶務課	校長室、庶務課、應接室	郵便切手及葉書
教務課	普通教室、教官室、生徒控所、教務課	教務用消耗品
生徒課	寄宿寮、生徒課、生徒集會所、銃器室 柔劍道場、雨天體操場	寮務用消耗品
圖書課	書庫、閱覽室、圖書課	郵便切手及葉書
會計課	會計課、會議室、官舎、講堂其ノ他 各課教室等ニ屬セサルモノ	一般事務用消耗品
博物教室	同教室、教官室、標本室	博物實驗用材料及藥品
物理教室	同教室、教官室、準備室、蓄電池室	物理實驗用材料及藥品
化學教室	同教室、教官室、準備室、藥品庫	化學實驗用材料及藥品
圖書教室	同教室、教官室	圖書實驗用材料及藥品

備品分類表

イ 机	類	ロ 椅子	子 類	ハ 戸	棚	類
-----	---	------	-----	-----	---	---

ニ箱類	ホ帽子掛類	ヘ時計寒暖計類
ト度量衡類	チ煖爐火鉢類	リ桶類
ヌ被服及机掛類	ル寝具類	ヲ厨具類
ワ文具類	カ印章類	ヨ器具類
タ小道具類	レ雜類	ソ運動器具類
ツ學術用具雜品類	ネ機械類	ナ標本類

第二章 保管及出納

第五條 物品ノ保管及出納ハ學校長ノ命令ニ依リ物品會計官吏之ヲ行フ

第六條 通常所用ノ物品ハ物品會計官吏一ケ年ノ所要高ヲ豫定シ學校長ノ決裁ヲ受ケ一回又ハ數回ニ取經メ購入ノ手續ヲナシタル後之ヲ藏置シ請求ニ應シテ支給スヘシ

第七條 各課又ハ特別教室ニ於テ前條ニ該當セサル所要ノ物品アルトキハ所定ノ物品請求用紙ニ品目、數量、所要ノ事由等ヲ記入シ各首席者ノ名義ヲ以テ物品會計官吏ニ請求スヘシ

第八條 生産及寄贈ニ依ル物品ハ物品會計官吏ニ於テ見積價格ヲ附シ學校長ノ決裁ヲ經テ受入ノ手續ヲナシタル後藏置若クハ支給ノ手續ヲナスヘシ

第九條 物品會計官吏其ノ受入レタル物品ヲ支給セントスルトキハ備品ニアリテハ番號札ヲ現品ニ付シ備品支給簿ニ登記ヲ了シ且ツ所定ノ欄ニ領收印ヲ徴シタル後之ヲ物品監守者ニ交付スヘシ

第十條 學術上機械ノ製作及修理ニ特殊ノ注意ヲ要スルカ又ハ當業者ヲ選擇スル必要アルモノハ當該教室主任ニ於テ圖面及仕様書又ハ當業者ノ見積書ヲ徴シ(外國製品等ニシテ見積ヲ徴スル能ハサルトキハ調書ヲ添付)物品會計官吏ニ請求スヘシ

第十一條 物品監守者ハ備品監守簿ヲ消耗品取扱者ハ消耗品受拂簿ヲ設ケ物品ノ交付ヲ受ケタルトキハ其ノ都度之ヲ登記シ備品ニアリテハ其ノ備付場所ヲ監守簿ニ記載シ常ニ其ノ所在ヲ明カニシ消耗品ニアリテハ職員各自ノ請求ニ應シテ之ヲ支給シ帳簿ノ當該欄ニ領收印ヲ徴スヘシ

第十二條 各課又ハ特別教室ニ於テ不要ニ歸シタル物品アルトキハ物品監守者又ハ消耗品取扱者ハ所定ノ物品返付書ニ品名、番號、數量等ヲ記入シ之ヲ監守簿又ハ受拂簿ニ添へ現品ト共ニ物品會計官吏ニ提出シ監守簿又ハ受拂簿ニ受領ノ證印ヲ受クヘシ

第十三條 物品會計官吏物品ノ返付ヲ受ケタルトキハ之ヲ調査シ將來使用ノ見込アルモノハ保管ノ

手續ヲナシ使用ノ見込ナシト認メタルモノハ處分案ヲ具シ學校長ノ決裁ヲ請フヘシ

第十四條 各課又ハ特別教室ニ於テ修理ヲ要スルモノアルトキハ直ニ所定ノ修理請求書ニ現品ヲ添ヘ物品會計官吏ニ提示シ修理ノ請求ヲナスヘシ

第十五條 各課又ハ特別教室ニ於テ物品ヲ毀損シ又ハ紛失シタルトキハ物品監守者又ハ消耗品取扱者ハ其ノ品名、數量及番號等ヲ調査シ顛末ヲ具シ物品會計官吏ニ届出ツヘシ

第十六條 物品會計官吏前條ノ届出ヲ受ケタルトキハ始末書ヲ徴シ處分案ヲ具シテ學校長ノ決裁ヲ請フヘシ

第十七條 物品監守者又ハ消耗品取扱者更迭シタルトキハ前任者及後任者ニ於テ物品會計官吏立會ノ上監守簿ト現品トヲ照合シ其ノ引繼ヲナシタル年月日ヲ帳簿ノ餘白ニ記入シ且ツ各自ニ記名捺印スヘシ

第十八條 甲乙監守者間ニ於テ其ノ保管物品ノ受渡ヲ必要トスルトキハ其ノ旨物品會計官吏ニ通告ノ上之カ受渡ヲナスヘシ

第十九條 共用中ノ物品ハ物品會計官吏ニ於テ左ノ各號ニ依リ之ヲ監督スヘシ

一、毎月一回所定ノ様式ニヨリ消耗品（郵便切手類ヲ含ム）受拂報告表ヲ各消耗品取扱者ヨリ提出セシメ之ヲ物品出納簿ニ照査スルコト

二、隨時備品監守簿ヲ備品支給簿ニ照合シ尙必要アルトキハ各部局ニ就キ現品ヲ査閱スルコト
三、前號ノ調査ニ於テ物品ノ亡失毀損ヲ發見シタルトキ又ハ物品ノ使用上ニ關シ意見アルトキハ學校長ニ申告シ其ノ處理ヲ請フコト

第三章 檢 閱

第二十條 物品檢閲ヲ分チテ定期臨時ノ二トス

定期檢閲ハ毎年六月之ヲ施行シ臨時檢閲ハ臨時必要ノ場合之ヲ施行ス

第二十一條 物品檢閲委員ハ委員長一名委員若干名トシ學校職員中ヨリ學校長之ヲ命ス委員長委員ノ任期ハ一ケ年トス

第二十二條 物品檢閲委員ノ檢閱スヘキ事項左ノ如シ

- 一、物品保管ノ適否
- 二、備品使用ノ適否
- 三、消耗品消費ノ適否
- 四、物品缺損ノ有無
- 五、其ノ他必要ナル事項

第二十三條 物品檢閲ノ際ハ在庫物品ニ就キテハ物品會計官吏共用中ノ物品ニ就キテハ物品監守者

又ハ消耗品取扱者其ノ席ニ列シ檢閲委員ノ質問ニ答フヘシ

第二十四條 物品檢閲委員ニ於テ檢査上故障ナシト認メタルトキハ簿冊ニ檢印シテ之ヲ證スヘシ若シ故障アルトキハ當該責任者ヨリ始末書ヲ徵スルコトヲ得

第二十五條 物品檢閲委員其ノ檢査ヲ了シタルトキハ檢閲ノ顛末書ニ意見ヲ具シ委員長ヲ經テ學校長ニ申告スヘシ

第四章 諸帳簿

第二十六條 物品會計官吏ハ物品ノ保管出納ヲ明確ニスルタメ左ノ帳簿ヲ設クヘシ

一、備品出納簿 (第一號樣式)

一、消耗品出納簿 (第二號樣式)

一、圖書出納簿 (第三號樣式)

一、備品支給簿 (第四號樣式)

第二十七條 各監守者又ハ消耗品取扱者ハ物品ノ保管出納ヲ明確ナラシムルタメ左ノ帳簿ヲ設クヘシ

一、備品監守簿 (第五號樣式)

一、消耗品受拂簿 (第六號樣式)

一、郵便切手受拂簿 (第七號樣式)
(樣式ハ略ス)

非常警備規程

第一條 本校若クハ附近ニ於テ火災其ノ他ノ事變起リタルトキハ當直員、巡視其ノ他之ヲ知リタル者ハ直ニ應急ノ處置ヲナシ同時ニ學校長ニ急報スヘシ

第二條 報知其ノ他ノ方法ニ依リテ前條ノ災禍ヲ知リタル職員生徒及備人ハ直ニ出校シ消防本部司令ノ指揮ニ依リ左ノ任務ニ従事スヘシ但シ必要アル時ハ指揮ヲ俟タスシテ臨機之ヲ專行スヘシ

一、非常信號 時鐘ヲ繼續亂打スルコト

二、報知 學校長、警察署、附近消防隊、各課長、會計主任、附近在住職員ニ電話其ノ他ノ方法ニヨリテ急報スルコト

三、消防 消火器、消火栓、唧筒其ノ他適當ノ方法ニヨリ消防ニ従事スルコト

四、搬出 「非常持出」(赤符ツキ)ノ重要書類ヲ先ニシ漸次其ノ他ノ文書、圖書、標本、器械、器具等ヲ搬出スルコト

五、警備 奉安所、門其ノ他ノ要所ヲ警備シ且ツ搬出品ヲ監守スルト共ニ職員、生徒、傭人及消防班、警察官、諸官衙職員其ノ他平常出入スル者ノ外ハ妄ニ構内ニ入ラシメサルコト

第三條 學校長ハ必要ニ應ジ 御寫眞、勅語謄本ヲ左記ノ場所ニ奉遷スヘシ但シ必要ニ應ジ臨機其ノ他ノ安全地ヲ擇フヘシ

一、静岡中學校

一、臨濟寺

第四條 本部司令ハ左ノ順序ニ依リ在校者之ニ任ス

一、學校長

二、教頭

三、庶務課長

四、會計主任

五、當直職員

第五條 會計課ハ消防用具ヲ所定ノ場所ニ配置シ其ノ他ノ消火設備ト共ニ時々其ノ効力ヲ檢スヘシ 消火器ハ毎年十一月末日迄ニ少クトモ一回詰替ヲ行フヘシ

第六條 會計課ハ前條ノ消防設備一覽圖ヲ所定ノ場所ニ揭示シ置クヘシ

第七條 寮生ハ毎學年ノ始メニ於テ寮生消防隊ヲ組織シ本規程ノ任務ニ從事スヘシ 寮生消防隊ノ規約ハ別ニ之ヲ定ム

通學生ハ非常時ニ於テハ生徒課長ノ指揮ニヨリ直ニ寮生消防隊ニ合シテ第一項ノ任務ニ從事スヘシ

第八條 生徒課長ハ寮生消防隊ノ指揮ニ任ス

生徒課長事故アルトキハ他ノ生徒主事及上席生徒課員之ニ當ル

第九條 生徒課員ハ生徒課長ノ下ニ直接生徒ヲ指揮シ消防警備ニ從フヘシ

第十條 寮生消防隊ハ少クトモ毎年二回（五月及十一月中）消防演習ヲ行フヘシ

第十一條 會計課ハ毎年一回防火演習ヲ行ヒ職員、生徒、傭人ヲシテ消火設備ノ所在及其ノ使用方
法ヲ周知セシムヘシ

第十二條 静岡市及附近ニ於テ事變アルトキハ當直員ハ直ニ火元ヲ確メ若シ本校職員ノ住宅又ハ接近地ナルトキハ直ニ生徒、傭人ヲシテ救護ニ向ハシムヘシ

校旗規程

- 第一條 校旗ハ本校ヲ代表スル標識トス
- 第二條 校旗ハ儀式又ハ校外ニ於ケル生徒隊ノ行動ニシテ本校ヲ表示スヘキ場合ニ使用ス
- 第三條 校旗使用ノ場合ハ學校長之ヲ指定ス
- 第四條 旗手班ハ生徒中ヨリ選ヒ學校長之ヲ命ス
- 第五條 校旗ハ庶務課ニ於テ之ヲ保管ス

◎職員

職員

(昭和十五年六月二十日現在)

學校長 教授

數	學	文	學	士	田	中	經	太	郎	大	阪
數	學	文	學	士	湯	淺	豐	五	郎	德	島
歷	史	教	務	課	木	宮	泰	彦		靜	岡
英	語	文	書	課	木	村	秀	夫		愛	知
國	語	文	學	士	松	崎	祐	存		埼	玉
數	學	理	學	士	神	部	嘉	之		神	奈
鑛物及地質、地理、自然科學		理	學	士	今	野	円	藏		山	形
國語		生	徒	主	久	澤	泰	穩			
佛語、英語		文	學	士	岡	田		弘		東	京
職員											

職員

講師 (囑託順)

文學士 會我祐章 静岡

體操 (自在畫)

(應召中)

西川五市 熊本

英語 (體操(教練))

野田半三 東京

佛語

小田乙吉 静岡

漢文

齋藤文質 岡山

囑託教員

(兼) 事務囑託

有永弘人 福岡

劍道

囑託教員

北田數一 東京

操(教練)

杉山和民 静岡

備外國人教師

陸軍歩兵中尉

長谷川善太郎 静岡

英語

語 バチエラー、オブ、サイエンス (ロンドン大學)

フランク・ゼームス、ダニエルズ

獨語

ドクトル、フィロソフィエ (ライプツヒ大學)

アードルフ・フライターク

佛語

ベシユリエ、エス、レットル

ゼヨセフ・ドヴィッス

外國人講師

川畑兼弘 鹿兒島

杉山祐作 静岡

三笥富之助 京都

飯島茂 静岡

渡邊好夫 静岡

千村公二 静岡

生徒主事補

(兼) 助教授 會我祐章

事務囑託

陸軍歩兵少佐 村田契麟 埼玉

職員

七三

職員

文科一年丙類
理科一年甲類
理科一年乙類

教授 岡田弘
教授 木戸武男
教授 今野田藏

七六

學科主任

修身、哲學概說、心理及論理

國語

漢文

英語

獨語

佛語

歷史、地理

法制及經濟

數學

教授 小木曾恩
教授 松崎祐存
教授 福原龍藏
教授 木村秀夫
教授 齋藤久雄
教授 岡田弘
教授 木宮泰彥
教授 鱸正太郎
教授 湯淺豐五郎

物理、自然科學ノ一部
化學、自然科學ノ一部
植物及動物、礦物及地質、自然科學ノ一部
圖畫
圖操

教授 金原壽郎
教授 麻生武雄
教授 今野田藏
教授 木戸武男
配屬將校 五味徹也

事務分掌

教務課

課長

教頭 教授

木宮泰彦

主任

書記 教授

福原龍藏

事務囑託

佐藤恭輔

課長

生徒課

生徒主事兼教授

久澤泰穩

職員

七七

職員

寮務主任

庶務課

主課長

圖書課

教授兼生徒主事

助教授

助教授兼生徒主事補

書記

講師

(應召中)

事務囑託、講師

雇

稻村松雄

小林元吉

會我祐章

杉山祐作

西川五市

小田乙吉

市川清吉

市川清吉

教授 湯淺豊五郎

書記 三野富之助

山下惣作

主課長

會計課

收入官吏
物品會計官吏

教授 木村秀夫

書記 飯島茂夫

雇 杉田武雄

雇 甲賀鈔藏

書記 川畑兼弘

書記 渡邊好夫

雇 中野正三

雇 青島正夫

◎前職員

(雇助手等ハ除ク)

前官職

任官就職
等年月

轉退解囑
等年月

摘要

事務囑託

大正二、二

大正三、三

解囑

柔道師範

同 三、五

同 三、三

同

講師

同 三、四

同 三、二

同

氏名

藤井光徳

佐藤完三

クリフ、オールド、ソーン

原籍

東京

青森

米國

前職員

七九

七八

校長	大正二、八	大正四、三	退官	●法學士 金子銓太郎 ●ドクトル、オブ、フイロツファイバー (エール大學)	東京
教授	同 三、三	同 一四、三	同	澤兼次	廣島
書記	同 二、三	同 一四、九	同	●ビー、ペーターソン、フォックス クリフオールド、アール、ステットソン	兵庫
備外國人教師	同 一三、一〇	同 一四、二	解約	●エー、テイー、ウイルクソン (舊名茂木)	英國
講師	同 一五、一	同 一五、三	同	藤昌弘	米國
同	同 一五、一	同 一五、三	同	足立郁造	英國
同	同 一三、二	同 一五、三	同	野崎安太郎	米國
同	同 一三、一	同 一五、三	同	野崎安太郎	滋賀
同	同 一四、三	同 一五、四	同	矢田部達郎	東京
同	同 一三、四	同 一五、五	轉任	外山高一郎	東京
同	同 一五、三	同 一五、五	解囑	三谷隆正	東京
同	同 一五、六	同 一五、八	同	ハロルド、クラークソン、ヒュツギンズ	京都
同	同 一五、四	同 一五、八	同	會宮喜七	米國
備外國人教師	同 一四、一〇	同 一五、二	同	後藤素直	米國
講師	同 一三、一	昭和二、一	退官		大分

教授	大正四、三	昭和二、三	轉任	文學士 伊藤	千葉
事務囑託	同 一五、七	同 二、三	解囑	大友春松	岩手
配屬將校	同 一四、四	同 二、三	轉任	陸軍歩兵大佐 徳久捨馬	高知
助教	同 一五、二	同 二、三	同	小見山壽海	岡山
講師	同 一五、三	同 二、三	解囑	文學士 高橋盛孝	兵庫
同	同 一五、二	同 二、三	同	タルボット、ビーエルフェルト	米國
同	同 一五、二	同 二、三	同	●エー、テイー、ウキルクソン	英國
教授	同 一五、四	同 二、四	退官	工學士 徳岡精彦	北海道
校長	同 一四、三	同 二、四	轉任	文學士 塚原政次	兵庫
書記	同 一三、一	同 二、五	同	茂呂武三郎	栃木
教授	同 一三、三	同 二、八	同	文學士 今村孝三	福島
同	同 一三、四	同 二、一〇	死亡	●理學士 平井淵	山梨
同	同 一四、三	同 三、三	同	●理學士 市川隆等	愛知
同	同 一三、三	同 三、三	轉任	文學士 加藤常賢	愛知
同	同 一三、四	同 三、三	退官	●理學士 矢野達	愛媛

前職員

講師	昭和六、四	昭和七、三	解囑	足立謙吉	東京
書記	大正三、三	同七、三	退官	佐藤恭輔	静岡
同	同五、一〇	同七、三	同	長守	東京
配屬將校	昭和四、三	同七、八	轉任●陸軍歩兵大佐	前田照城	高知
教授	大正三、三	同七、八	死亡●文學士	原田莊一	山口
教授兼生徒主事	同三、一	同八、三	轉任	文學士 關泰祐	東京
備外國人教師	昭和四、四	同八、三	契約満期	ジャン、スピテ	佛國
教授	同三、四	同八、五	退官	理學士 池仁	愛知
教授並校長	大正二、三	同八、九	轉任	文學士 堀重里	東京
配屬將校	昭和七、八	同九、三	同	陸軍歩兵大佐 松尾彦治	長崎
講師	同七、三	同九、三	解囑	石井眞峰	静岡
備外國人教師	同五、四	同九、三	契約満期	ドクトル、エルヴイン、ヤーン	獨國
講師	同九、四	同九、五	解囑	ヘルタ、ヤーン	獨國
備外國人教師	同六、八	同九、八	契約満期	ジョン、アイルス	米國
講師	同二〇、二	同二、三	解囑	理學士 田中元之進	和歌山

前職員

配屬將校	昭和九、三	昭和二、三	轉任	陸軍少將 河田樅太郎	北海道
書記	同二、五	同二、五	死亡●	文學士 福原慶之助	東京
教授兼生徒主事	同三、二	同二、二	轉任	文學士 本田弘人	熊本
教授	大正二、九	同二、六	死亡●	文學士 辻善定	岐阜
配屬將校	昭和二、三	同二、八	轉任	陸軍歩兵大佐 千知波幸治	熊本
教授	大正二、二	同二、八	同	文學士 川瀬光順	東京
生徒主事兼教授	同三、三	同三、三	同	文學士 佐々木順三	静岡
備外國人教師	昭和八、四	同三、三	契約満期	ジャン、ピエール、オーシユコルヌ	佛國
同	同九、六	同三、三	同	アードルフ、フライターク	獨國
同	同九、九	同三、三	同	ユージン、ハーネル、キヤシデー	英國
同	同三、四	同三、八	契約解除	ジョン、アール、シヤイペリー	米國
講師	同三、三	同三、八	解囑	ルイス、ロメロ、クアドラ、デ、ウムブリアス	佛國
配屬將校	同二、八	同三、八	轉任	陸軍少將 池田直三	高知
柔道師範	同二、八	同四、一	解囑	安部男也	福島
同	同三、八	同四、一	同	西田龜	岡山

教	授	大正三、三	昭和四、一	死亡	●理學士	志	田	晴	雄	三
講	師	昭和三、八	同 一四、三	解囑		ウキル	バート	ロイ	英國	重
同		同 三、九	同 一四、三	解囑		マクウキ	リヤムズ		英國	
教	授	大正四、三	同 一四、四	轉任		リユシアン	ドウラエ		佛國	
校	長	昭和八、九	同 一四、七	轉任		文	學士	櫻	井	市
校	長	同 一四、七	同 一四、七	轉任		文	學士	金	子	健
講	師	同 一四、三	同 一四、九	解囑		法	學士	三	谷	隆
教授並ニ講師		同 一、二、三	同 一五、三	轉任		法	學士	内	山	良
教	授	大正三、四	同 一五、三	轉任		法	學士	永	井	順
備外國人教師		昭和三、三	同 一五、三	契約滿期		フ	エードル	、	ヴ	ルフ

◎ 生

徒

(昭和十五年六月二十日現在)

一、生徒氏名

備考(氏名ノ上ハ出身學校名、氏名ノ下ハ本籍府縣名ナリ)

文科第三學年甲類

二十六人

獨逸協會	渥美	節夫	東京	靜岡	今居	謹吾	東京	東府第四	上原	國男	香川
横濱第二	岡崎	雄一	神奈川	見付	小田啓三郎	靜岡		浦和	川島	節夫	栃木
川崎	倉橋	義長	神奈川	榛原	栗田新五郎	靜岡		東府第一	來栖大兒郎	茨城	
東府第一	齋藤	一郎	福島	桃山	高橋亨	埼玉		横濱第一	武内	重夫	神奈川
東府第一	津田	達夫	東京	宇都宮	中山良夫	大阪		東京開成	野崎	仲六	東京
東府第四	原	浩胤	東京	日川	深山邦久	山梨		東府第一	福本	道夫	和歌山
東府第四	三浦	武	愛知	東府第一	村上美雄	東京		志太	望月	芳夫	山梨
東府第五	藪田	康雄	三重	木更津	山口直彦	千葉		東府第四	横田	英男	福井
沼津	渡邊	幸男	靜岡	京華	渡邊敏雄	東京					

文科第三學年乙類

二十九人

早稻田	阿江	仲吉	兵庫	麻布	秋野	恒雄	山形	羅南公立	淺羽	滿夫	靜岡
麻布	有馬	健彦	鹿兒島	靜岡	岩本	良雄	靜岡	仙臺第二	氏家	卓也	宮城
東府第八	大西誠一郎	東京	東京	東府第四	尾崎	研二	愛媛	靜岡	加藤	久男	靜岡
廣高師附	上垣内	剛	廣島	東府第一	木島	春雄	東京	東府第四	木村	稔	群馬
東府第四	久下棟太郎	埼玉	埼玉	東府第一	近藤平八郎	長崎	長崎	天理	齋藤	俊雄	東京
第一東市	坂原	太郎	東京	京一高普	全	容寬	朝鮮	湘南	楯岡	洋藏	奈良
東府第四	東條	吉陽	東京	諏訪	中島	邦一	長野	長野	野	西澤	久宜
東府第五	西島	和夫	神奈川	東高師附	野本	松彦	東京	市岡	服部	桂三	大阪
東府第一	肥田野	直	東京	東府第一	山田	政二	東京	平壤公立	山根	二郎	山口
豊橋	山本	明	愛知	小濱	矢袋	春雄	福井				

文科第三學年丙類

二十五人

東府第一	小川	徹	和歌山	臺中第二	奧脇	三郎	神奈川	靜岡	小野	尊親	靜岡
奉天第一	木村	正義	靜岡	新莊	楠	義雄	山形	第一神戶	小島千二郎	兵庫	兵庫
豊橋第二	佐竹	陽生	高知	靜岡	柴崎	芳三	靜岡	東府第五	澁谷	敬三	東京
東府第一	清水	康夫	愛媛	東京開成	竹村	昌介	長野	東府第四	田原	昌道	東京
東府第三	中村	宏	愛知	東府第四	西中間	正雄	東京	橫濱第一	原田	義久	神奈川
橫須賀	藤村紀久雄	神奈川	住吉	古海	志郎	愛媛	長岡	町田	正浩	新潟	新潟
東府第五	松本	達治	千葉	第一東市	水口	直忠	東京	東府第一	三好	國雄	東京
靜岡	村松	中吉	靜岡	東高師附	森岡	良夫	東京	長岡	渡邊	健三	新潟
曉星	渡邊	耕一	滋賀								

理科第三學年甲類

三十七人

東府第四	糸崎	顯一	東京	東府第一	白井	和哉	東京	東府第四	鶴瀨	浩	東京
東府第三	梅島	重兵	靜岡	麻布	太田	正夫	愛知	東府第一	大西	達雄	香川
沼津	奥山	一郎	東京	榑木	白橋山	貞長	長野	東府第六	上山	勝山	山口
東府第四	神田	克	京都	掛川	北原	雄治	愛知	東府第一	國崎	豐福	島
濱松第一	小竹	勝博	靜岡	靜岡	三枝	正裕	靜岡	宇治山田	阪本	楠彦	奈良
長野	左治木	清吾	長野	匣邊	島田	博一	千葉	東府第六	志水	次郎	東京
濱松第一	清水	正雄	靜岡	橫濱第一	鈴木	太郎	神奈川	日川	反田	達也	山梨
安房	瀧口	喬	千葉	橫濱第二	田口	陽一	大分	千葉	豐澤	光三	千葉

生徒

靜岡	虎岩	秀郎	靜岡	沼津	長倉	三郎	靜岡	東府第四	長谷川	正敏	東京
武生	馬場	昌夫	福井	東府第一	福井	信盛	群馬	東府第一	船曳	公彦	東京
東府第三	牧野	洋	靜岡	沼津	松井	敏夫	靜岡	濱松第一	松本	欣二	靜岡
小倉	茂木	博林	山形	東府第一	横塚	博夫	東京	庵原	吉澤	趙夫	長野
廣島第一	吉村	六夫	廣島								

九〇

理科第三學年乙類 二十四人

高崎	赤石	克巳	群馬	川越	飯塚	祐埜	埼玉	東府第六	井深	重健	東京
第一神戶	氏家	二郎	香川	靜岡	大石	清	靜岡	甲府	大木	夏男	山梨
奉天第一	大久保	欣哉	三重	芝	大志摩	毅	東京	湘南	大牟禮	一雄	神奈川
東府第五	金井	長	東京	彦根	桑田	次男	千葉	第二東市	小林	和正	東京
東府第一	齋藤	健輔	靜岡	東府第九	下	光郎	東京	靜岡	鈴木	三男	靜岡
東府第三	中川	喜幹	東京	横濱第一	中西	淳雄	京都	横須賀	中村	正人	神奈川
盛岡	昂	敬一	岩手	諏訪	原田	和人	長野	高崎	宮下	隆二	群馬
東府第四	百溪	三郎	東京	東高師附	森本	弘文	東京	沼津	和田	八三久	靜岡

文科第二學年甲類 三十七人

東府第八	安部	慶一	福岡	東府第二	池内	雅治	兵庫	早稻田	伊藤	幸男	東京
京華	岩田	公一	大分	第一神戶	今井	信行	大阪	東府第一	江口	保明	佐賀
靜岡	沖多	三郎	靜岡	龍山	加藤	正	東京	見付	金井	義次	靜岡
東府第四	上林	健	愛知	成城	木下	次郎	東京	横濱第一	清	銳太郎	東京
靜岡	久米	收	鹿兒島	東府第四	小島	孝男	靜岡	福島	小林	和夫	福島
東府第四	齋藤	賢四郎	宮城	豊橋	佐々木	敏	愛知	廳立小樽	島谷	豊山	山口
東府第一	下田	昌三郎	群馬	濱松第一	鈴木	茂	靜岡	東府第一	竹山	信夫	東京
東府第一	恒川	敬一	東京	第一東市	椿	孝雄	熊本	靜岡	永原	稔	靜岡
靜岡	萩原	淳平	靜岡	刈谷	坂野	博朗	愛知	靜岡	平林	友衛	靜岡
東府第六	藤澤	等	東京	横濱第一	本多	淳	神奈川	靜岡	曲淵	景博	東京
掛川	溝口	保治	靜岡	東府第三	森山	武	千葉	靜岡	諸田	政一	靜岡
東府第一	藪野	義男	大阪	豊橋	山本	正	愛知	富士	渡邊	一郎	靜岡
東府第四	渡邊	健二	福島								

文科第二學年乙類

四十人

横濱第一	井窪	久吉	神奈川	東府第一	池上	順	岡山	土浦	石島	芳夫	茨城
------	----	----	-----	------	----	---	----	----	----	----	----

九一

生徒

東府第一	石橋 岩雄	東京	東府第一	亥角 泰彦	京都	飯田	井上 靜夫	長野
成章	井上 長	愛知	東高師附	今村 三郎	東京	東府第六	梅原平三郎	東京
靜岡	遠藤 靜夫	靜岡	成城	大塚 正信	東京	東府第一	岡田 純夫	兵庫
東府第八	加藤 正樹	秋田	東府第三	河原 宗	東京	第一神戶	小島 博	兵庫
北野	小村 博	和歌山	身延	近藤 忠	山梨	麻布	佐々木正人	長野
東府第四	下田 益	長野	靜岡	鈴木 猛	靜岡	第一東市	諏訪 誠	東京
濱松第一	瀬川 曉	靜岡	東府第一	高木 博	東京	米子	高橋 正一	兵庫
東京開成	田中 展男	東京	東府第五	田宮 重男	東京	佐野	土金 賢三	栃木
甲府	角田 正經	山梨	東府第一	道正 邦彦	東京	飯田	仲田 勉	長野
東府第五	新關 雅夫	山形	大連第二	西岡 宏治	三重	東府第九	西尾 知	東京
第一神戶	藤野 弘	滋賀	東府第四	宮本 秀忠	東京	東府第一	安田 元久	熊本
湘南	矢野 直次	東京	大連第一	吉田 秀朗	福井	東府第一	吉野 和夫	東京
東府第八	吉村 博次	山梨						

文科第二學年丙類

三十六人

東府第一 岩本 正 山口 氣仙沼 尾形 和一 宮城 見 付 尾崎 康郎 靜岡

九二

宇治山田	奥山 隆夫	三重	曉星	奥山 朝廣	東京	東府第三	勝田 雅夫	東京
川崎	龜井喜久治	新潟	京畿公立	金 泳顯	朝鮮	東府第一	神鞭 健夫	京都
東府第一	小島 巖	福岡	東府第八	近藤 安之	新潟	東府第一	酒卷 恭彦	千葉
濱松第一	坂本 剛夫	靜岡	芝	佐藤 晴夫	北海道	東府第八	佐野 實	富山
東府第三	寒川 豊	東京	東京開成	穴戶 英雄	東京	富田	高川 晋一	三重
靜岡	高橋 孝三	靜岡	高崎	戸塚 賢一	群馬	靜岡	中野 治良	靜岡
東府第一	中松 忠雄	和歌山	靜岡	西野 武朗	靜岡	京城公立	花園 英二	鹿兒島
第一東市	濱田 定俊	東京	志太	濱野 實	靜岡	東高師附	原 文彦	山梨
濱松第一	日臺 二郎	長野	橫濱第一	古川 昭甫	神奈川	東府第一	堀 春生	東京
東高師附	保田 恒夫	岡山	橫濱第一	安室 宏一	神奈川	靜岡	山川 林平	靜岡
橫須賀	山本 二郎	神奈川	東京開成	和田 精逸	宮城	橫濱第一	渡邊 忠夫	東京

理科第二學年甲類 四十人

靜岡	居初 良雄	東京	橫濱第一	市原敬一郎	神奈川	志太	伊藤 忍	靜岡
東府第四	伊東 協一	宮崎	甲府	伊東富士雄	山梨	東府第一	大津 民夫	宮城
橫濱第三	大規 彰一	神奈川	千葉	大庭 壽雄	靜岡	靜岡	小澤 忠樹	靜岡

九三

生徒

豐岡	片岡	謹三	兵庫	錦城	神山	士	東京	豐橋	栗原	壽郎	愛知
靜岡	三枝	榮一	山梨	京畿	崔	仁圭	朝鮮	東府第六	佐藤忠三郎	東京	
川崎	數原	洋二	靜岡	千葉	田上	三男	千葉	清水	瀧	增雄	靜岡
川崎	竹田	重和	福島	靜岡	塚越	修	山梨	水戸	坪内	正勝	靜岡
東府第七	中島雄次郎	東京	橫濱第一	中西	邦雄	京	都	東府第五	中村	道治	靜岡
東高師附	鍋島	一郎	和歌山	京都第三	西原	正夫	京	靜岡	岡	長谷川房雄	靜岡
東府第八	平野	國雄	神奈川	長岡	星野	哲三	新潟	愛知第一	松岡甚五左衛門	愛知	
金澤第一	松崎	從成	石川	千葉	松林	恭	千葉	橫濱第三	溝口	正英	長崎
和歌山	南方	茂雄	和歌山	清水	望月	明	靜岡	芝	山口	信彦	新潟
東府第五	山根	清	鳥取	甲府	湯山	武	靜岡	東府第四	與良	三男	東京
富士	渡邊	市郎	靜岡	濱松第一	秋山	實	靜岡	東京開成	淺田	敏	東京
東府第三	秋野	美樹	山形	濱松第一	伊藤智三郎	三重		東府第九	井本	商三	山口
青山學院	朝野	孝彦	東京	橫濱第一	小倉	義光	神奈川	濱松第一	太田	勉	靜岡
橫須賀	鶴澤	春生	千葉	橫須賀	小倉	義光	神奈川				

理科第二學年乙類

四十二人

九四

東府第一	加藤	宏	靜岡	東京開成	川北	忠夫	東京	湘南	神崎	胖	埼玉
東府第八	草野	薰	宮城	和歌山	熊取	敏之	和歌山	芝	小林	八郎	東京
秋田	笹本	章	山梨	東府第七	栗冠	俊勝	東京	靜岡	佐野	圭司	靜岡
靜岡	鹽谷	陽一	秋田	第一神戶	杉田嘉一郎	京	都	東高師附	角尾	治	奈良
靜岡	田澤	義淳	山梨	第一東市	椿	忠雄	熊本	橫須賀	時任	直人	鹿兒島
靜岡	伴野	英資	靜岡	橫濱第一	内藤	晃	三重	宇治山田	中田	修	兵庫
靜岡	中村	武	靜岡	諏訪	中谷	弘文	長野	橫濱第一	西川	浩	岡山
靜岡	野崎	昌輔	靜岡	靜岡	野村	尤三	三重	湘南	橋本	浩二	愛知
靜岡	初谷	行雄	東京	豐浦	原田	久明	山口	藤澤	廣瀬	正	東京
東府第一	宮川誠之助	東京	靜岡	靜岡	村松	正七	靜岡	東高師附	矢部	五郎	東京
靜岡	山本	洋雄	靜岡	長岡	吉原	一郎	新潟	匝瑳	渡邊	昌平	千葉

文科第一學年甲類 四十人

市岡	秋田	常雄	靜岡	靜岡	朝比奈匡一	靜岡	京華	海上	春雄	東京	
市岡	榎村	義兵	兵庫	東府第六	大内	信兵	兵庫	木更津	小川	正弘	千葉
橫濱第二	小澤	章	神奈川	仙臺第二	片岡	懋	神奈川	東府第一	金井作一郎	埼玉	

九五

横濱第一	木内 忠一	千葉	三田 小溝	勝彦	福岡	靜岡	坂本 信明	香川
麻布	鈴木 哲夫	栃木	福井 竹澤	清隆	福井	東府第五	武富 明	北海道
立教	田中 英二	東京	第一東市 田邊	信治	東京	室蘭 谷川	巖	北海道
東府第九	玉井 成彌	福島	今市 手塚	久四	栃木	宇治山田	東倉 俊一	三重
横濱第一	中川 達造	新潟	湘南 長島洪一郎		神奈川	靜岡 中田	吉信	東京
靜岡	中村 治郎	靜岡	第一東市 羽田野啓一		東京	海城 平川	英夫	東京
沼津	増田 一郎	靜岡	榛原 水野 渡		靜岡	第一東市 水口	孝保	東京
東府第一	宮丸 吉衛	秋田	湘南 森本鷹之助		新潟	東府第一 守屋健太郎		東京
高輪	山本 功	富山	豊中 横尾 健一		三重	沼津 横山	茂晴	靜岡
東府第一	吉岡純一郎	東京	東府第三 吉田 純		東京	靜岡 鷺巢 英策		靜岡
東府第一	渡邊 弘之	石川						
高千穂	飯村 大造	茨城	沼津 今枝 愛真		靜岡	湘南 岩瀬 彌一		京都
東府第一	大磯 英雄	京都	東府第四 岡安 誠		東京	聖學院 河上 進		東京
東府第一	河地 潤平	熊本	東府第九 河奈 祐正		東京	沼津 木村 俊郎		靜岡

文科第一學年乙類

四十人

靜岡	小菅 正紀	神奈川	第一神戶	坂本 次男	兵庫	東高師附	佐原	洋	東京
靜岡	高橋 恒三	兵庫	東府第八	高橋 元滋	東京	東府第三	竹岡 誠也		東京
東府第一	田中啓二郎	東京	長野 野 田中	敬治	長野	東府第五	辻 力		東京
志太	富永 鐵男	靜岡	東府第一	道正 信彦	東京	東府第七	中島 利久		東京
麻布	新田 圭一	石川	東府第四	野邊地康夫	青森	東高師附	林 孝一郎		山口
京華	廣部 亘	東京	東府第五	福岡 孝	岐阜	足利	藤繩 正勝		栃木
掛川	藤本 文雄	靜岡	東府第二	星野 享昭	東京	東府第六	本田 節正		愛知
川崎	俣野 景美	東京	沼津 松井 靖彦		靜岡	横濱第一	松信 幹男		神奈川
東京開成	松本新一郎	東京	見付 水野 秋芳		靜岡	沖繩第二	山城 宗克		沖繩
埼玉松山	山本 一正	岡山	聖學院 吉川 健輔		神奈川	麻布 吉田 眞			東京
第一東市	渡邊 武治	東京							

文科第一學年丙類 四十人

豐橋	青木 茂	愛知	甲府 厚芝	俊彦	山梨	湘南 安保	隆文		神奈川
靜岡	飯尾 義助	愛媛	東府第八 庵 良平		石川	横濱第一 今井 準二			神奈川
横濱第一	大村 哲彦	山梨	東府第五 小口 研次		長野	千葉 御地合敏郎			栃木

基隆	加藤健治	山形	第一東市	川手慎一郎	東京	早稻田	川村克巳	東京		
静岡	岡北村	甫	麻布	紅松幹雄	東京	東府第八	齋藤精之助	群馬		
静岡	岡柴本	尙	豊橋	志村靜男	山梨	東府第六	志村秀夫	神奈川		
麻布	杉富士雄	岡山	静岡	岡杉山	茂樹	静岡	濱松第一	鈴木文雄	静岡	
濱松第一	澄川	豊山	麻布	岡田一郎	鹿兒島	濱松第一	高塚	修	静岡	
青山學院	多田	陽	旭川	田中正春	北海道	小倉	塚原	英佐賀	静岡	
東府第一	鳥山	悌	東府第六	畠山	清	静岡	岡平林	一郎	東京	
東府第四	廣瀬	實	新義州	藤城	孝	静岡	東府第八	松平	正	東京
東府第一	村田	幹雄	東府第一	森	勇仁	和歌山	東府第一	山崎	喜暉	東京
小倉	山梨	一郎	明倫	山本	博	愛知	第一神戶	渡邊	有光	岩手
匝	登	渡邊	重男	千葉	理科第一學年甲類	四十人				
静岡	岡相羽	三良	横濱第一	池田	度	鹿兒島	東府第一	石井	瑞穂	東京
高松	伊藤	輝彦	東府第一	大西	隆二	東京	静岡	岡近江	宗一	静岡
第一神戶	小川	茂	兵庫	濱松第一	河合	勇	湘南	栗原	忠司	神奈川

理科第一學年乙類

四十人

前橋	兒島茂雄	群馬	横濱第一	駒宮安男	東京	東府第六	齋藤俊彦	静岡	
京城公立	佐藤壹三	東京	濱松第二	杉浦三郎	静岡	麻布	角正雄	三重	
東府第八	住吉胡之吉	静岡	飯田	芹澤喬	静岡	札幌第一	高下健一	神奈川	
新	京高島洋一	東京	静岡	岡高橋	四郎	静岡	第三神戶	竹内敏文	愛媛
横濱第一	多田尙夫	神奈川	飯田	楯功	長野	水海道	土田孝	茨城	
東府第九	樋口道之助	東京	濱松第一	藤田純夫	静岡	東府第一	藤波哲二	静岡	
東府第三	堀川庄三	新潟	東府第四	本田修	東京	杉並	増田稔	鳥取	
湘南	三浦良彦	神奈川	太田	宮下藤太郎	群馬	東府第一	村上彰男	東京	
東府第四	守山逸朗	神奈川	湘南	山本銀三	神奈川	静岡	岡山本	孫一	静岡
京華	吉田清	東京	普成	李銜奎	朝鮮	大連第二	渡邊武雄	岐阜	
濱松第一	渡邊政男	静岡							
横須賀	相澤吉彦	神奈川	濱松第二	縣	健一	静岡	日川	飯田文良	山梨
東府第三	石田武	東京	東高師附	井出米夫	東京	横濱第一	伊東威	神奈川	
静岡	岡大川	靜夫	静岡	岡和	東京	豆陽	小川春三	静岡	

掛川	東高師附	橫濱第一	東府第五	熱田	本巢	栃木	大連	仙臺第二	靜岡	湘南
渡邊	山崎	森田	間野	原田	中村	館野	鈴木	佐藤	岡加藤	小笹
晃雄	升	茂廣	秀雄	德種	延司	功	俊也	宏	晟	慶資
靜岡	東京	神奈川	東京	愛知	岐阜	栃木	香川	岩手	石川	神奈川
	上田	東府第八	東高師附	西條	橫濱第二	東府第一	旭川	集鴨	鳥取第二	東府第五
	和田	矢板	武藤	深野	中村	戸沼	大坊	更家	君野	折笠
	穆	徹	郁夫	唱	滋	道郎	喜一	一	徹三	一郎
	福島	東京	熊本	東京	神奈川	東京	北海道	三重	鳥取	福島
	沼津	伊那	靜岡	東府第六	東府第一	靜岡	匝	嘉義	東京開城	湘南
	和田	山岸	村松	牧野	西尾	長澤	高木	徐先	榊原	柏木
	文夫	國明	省吾	融	好光	榮一	利夫	濙	緊一	力
	靜岡	長野	靜岡	東京	神奈川	靜岡	千葉	臺南	鳥取	東京

二、生徒及卒業生(創立以來)本籍道府縣別表

備考(卒業生ノ本籍ハ卒業當時ノモノヲ示ス)

生徒	區							區分	道府縣	第一學年	第二學年	第三學年	計	文科	理科	計
	茨城	福島	山形	秋田	宮城	岩手	青森	北海道								
	二	三	一	一	〇	二	一	四	一	一	〇	〇	五	七	四	十一
	一	三	二	二	五	〇	一	一								
	一	二	三	〇	一	一	〇	〇								
	四	八	六	三	六	三	二	五								
	10	17	17	4	9	8	1	7								
	8	14	8	1	6	5	1	4								
	18	31	35	5	15	13	2	11								

生徒	區國中				區畿近					區海東			
	廣	岡	島	鳥	和	奈	兵	大	京	滋	三	愛	靜
	島	山	根	取	山	良	庫	阪	都	賀	重	知	岡
	○	二	○	三	一	○	六	○	二	○	四	五	三九
	○	三	○	一	五	一	五	二	五	一	六	八	四〇
	二	○	○	○	二	二	二	二	二	一	二	五	二三
	二	五	○	四	八	三	一三	四	九	二	二	一八	一〇二
一〇三	11	19	7	5	15	8	21	13	18	12	40	65	423
	8	6	2	1	9	7	11	3	11	2	17	35	280
	19	25	9	6	24	15	32	16	29	14	57	100	703

生徒	區山東			區陸北				區東關					
	岐	長	山	福	石	富	新	神	東	千	埼	群	朽
	阜	野	梨	井	川	山	鴻	川	京	葉	玉	馬	木
	三	四	四	一	四	二	四	二	五	三	四	一	三
	○	六	九	一	一	一	五	九	四	三	六	一	二
	○	七	四	三	○	○	二	一	三	七	六	三	四
	三	一七	一七	五	五	三	一	四	一	三	一	五	九
	32	35	34	6	11	10	17	89	229	45	12	18	29
	21	32	25	5	8	1	15	58	165	37	17	18	18
	53	67	59	11	19	11	32	147	394	82	29	36	47

一〇三

一〇二

種別	中學卒業			修了中學四年		
	文科	理科	計	文科	理科	計
昭和十五年	五五	三〇	八五	九	二二	二二
昭和十四年	四一	二四	六五	一	一	一
昭和十三年	三	六	九			
昭和十二年	一	一	二			
以昭和十一年前						
合計	一〇〇	六一	一六一	九	二三	二二

生徒

一〇五

三、入學者學歷別表

總計	朝鮮	臺灣
二〇〇	一	一
一九五	二	〇
一四一	一	〇
五三六	四	一
1,414	5	7
922	1	5
2,336	6	12

九州區									四國區			山
沖繩	鹿兒島	宮崎	大分	熊本	長崎	佐賀	福岡	高知	愛媛	香川	徳島	
一	二	〇	〇	二	〇	一	一	〇	一	三	〇	二
〇	三	一	一	三	一	一	二	〇	〇	〇	〇	四
〇	一	〇	一	〇	一	〇	〇	一	三	三	〇	二
一	六	一	二	五	二	二	三	一	四	六	〇	八
0	15	1	9	9	8	6	12	7	8	6	9	15
1	7	0	3	5	4	4	6	4	8	3	5	7
1	22	1	12	14	12	10	18	11	16	9	14	22

生徒

一〇四

四、生徒年齢表

(昭和十五年五月末日現在)

種別	最高年齢		最低年齢		平均年齢	
	文科	理科	文科	理科	文科	理科
第一學年	二〇、〇五 年 五月	二一、〇七	一六、〇二	一六、〇二	一八、〇三	一八、〇二
第二學年	二二、〇一 年 一月	二一、一一	一七、〇六	一七、〇三	一九、〇六	一九、〇五
第三學年	二三、〇三 年 三月	二三、一一	一八、〇二	一八、〇三	二〇、〇四	二〇、〇二

五、生徒科類別表

(昭和十五年六月一日現在)

種別	高等科					
	文科			理科		
種別	甲類	乙類	計	甲類	乙類	計
	第一學年	四〇	四〇	一二〇	四〇	四〇
第二學年	三七	四〇	一一二	三二	四〇	一一二
第三學年	二六	二五	八一	二六	二四	八一
計	一〇三	一〇九	三一一	一〇六	一〇七	三一三

◎卒業生

(氏名ノ上ハ在籍大學學部略稱、法、文、理等ハ
ルハ卒業後本籍ヲ變更セザルモノナリ●ハ死亡)

一、卒業生氏名

第一回 百四十人

(大正十五年三月十日卒業)

文科甲類

六十一人

- 秋山 彦一 東京
- 法 稻垣 次男 静岡
- 經 大石 武雄 静岡
- 農 大村 善徳 静岡
- 經 小川 太郎 千葉
- 法 川口 昇 東京
- 法 久保田 豊 静岡
- 經 古賀宗太郎 福島
- 伊澤喜久雄 神奈川
- 文 稻村 松雄 「東京」
- 法 (舊名長雄) 大石 龍彦 静岡
- 農 岡見 達次 千葉
- 農 加藤 勇 愛知
- 經 河出 修一 岐阜
- 文 栗山 卓士 岡山
- 經 小林泰九郎 山口
- 經 市川 仁平 静岡
- 法 井上 紫電 愛媛
- 經 大村 孝 静岡
- 經 岡本 清山 梨
- 經 金子 昇 愛知
- 法 (舊名神谷) 宇田 眞一 静岡
- 經 向野 岩雄 東京
- 經 小林 義男 新潟

- 文 酒井 孝吉 新潟
- 法 佐藤 正二 福井
- 法 澁谷 徳雄 東京
- 法 關 護 福岡
- 寺田 春雄 岡山
- 長澤 順量 山梨
- (舊名羽田) 光田 久恒 鳥根
- 文 眞下 繁次 京都
- 法 松永 彦雄 静岡
- 法 丸尾 信 静岡
- 法 水上 正直 静岡
- 法 森 賢治 静岡
- 文 和島 芳男 東京
- 經 佐々木梅三郎 長崎
- 法 繁田 登 静岡
- 文 (舊名鈴木) 村木 武 静岡
- 文 土田 武三 山形
- 徳永 慎徹 熊本
- 法 長沼 弘毅 東京
- 經 彦坂 竹男 静岡
- 法 松下 恭二 東京
- 法 松本 征二 新潟
- 文 三須 桂樹 静岡
- 經 水橋 功 神奈川
- 法 山家 勉 静岡
- 經 貞松 恒郎 長崎
- 文 七里 音羽 新潟
- 法 陶山 太一 愛知
- 法 土屋英一郎 福岡
- 法 長坂 禎二 東京
- 法 長谷 稔 静岡
- 法 福島 四郎 静岡
- 經 松田 太朗 奈良
- 經 松本秀一郎 青森
- 法 (舊名三井) 白河 六郎 東京
- 法 三留 勝利 神奈川
- 經 山田福太郎 神奈川
- 文 大屋 助郎 三重

文科乙類

二十四人

法 石塚 誠一 静岡

法 大瀧 健夫 山形

文法	尾崎喜左雄	神奈川	法	岡崎忠	〔舊姓川島〕 兵庫	經	小池善治郎	靜岡
經	齋藤季成	大阪	法	佐伯健	東京	法	井伊谷達夫	靜岡
法	芝野清	栃木	法	鈴木進	靜岡	法	武内平三郎	東京
法	辻榮三	三重	法	津田朋民	和歌山	法	土屋喜吉	靜岡
法	土屋香鹿	靜岡	法	土肥健男	東京	文	中村恒雄	東京
法	長津久男	靜岡	經	福田靜雄	廣島	法	山村邦雄	長野
經	吉田義作	東京	法	吉村知彦	長崎	法	渡邊登	熊本
理科	甲類		二十八人			醫博、醫	太田裕	愛知
農	池田利良	靜岡	藥	遠藤勝	靜岡	工	桑木信一	東京
理博、理	大塚彌之助	東京	理	小熊一信	東京	醫	坂田一郎	靜岡
理	桑名壽一	神奈川	醫博、醫	後藤智光	山梨	●	杉山誠	靜岡
工	櫻井久雄	靜岡	醫博、醫	佐藤篤	東京	農	武田義夫	和歌山
工	芹澤正雄	靜岡	農	瀧川岩雄	靜岡	農	戸塚義男	靜岡
工	田邊秀雄	靜岡	農	谷清	埼玉	工	野村孝文	東京
工	中内實	東京	農	那須敏朗	岡山			

工	原科恭一	靜岡	農	原田嘉平	長野	工	藤田昌二郎	東京	
●	前島正之	靜岡	工	三好健夫	東京	工	安田貞次	神奈川	
農	吉川徹雄	神奈川	二十七人						
理科	乙類								
理	伊藤千二	靜岡	醫	今田昌平	宮城	醫	大重實造	鹿兒島	
醫博、醫	大島用	神奈川	農	大村秀雄	靜岡	醫	湯淺光雄	〔舊姓大村〕 徳島	
藥	岡田顯	神奈川	醫博、醫	安原俊郎	千葉	農	小野元雄	東京	
●	醫博、醫	柏木謙三郎	農	加藤誠平	東京	●	醫	加藤虎之助	靜岡
●	醫	川名光	醫	菊池武信	東京	醫	熊谷直俊	東京	
農	郷勝三郎	岐阜	醫	榊後彫	靜岡	醫博、醫	佐久間修一	〔神奈川〕	
醫	佐倉信巳	靜岡	工	櫻内乾雄	島根	醫	杉原達太	靜岡	
●	醫	田邊治夫	醫博、醫	寺尾幸司	靜岡	農	中村彦四郎	〔靜岡〕	
醫博、醫	花村健彦	東京	醫博、醫	船山道忠	山形	農	水谷晃	靜岡	

第二回 百七十四人 (昭和二年三月十日卒業)

文科 甲類

四十六人

- 法 淺岡登喜雄 静岡
- 經 磐瀨 太郎 東京
- 經 柿沼 正 静岡
- 法 神野 正雄 東京
- 法 熊谷 禎一 東京
- 文 佐々田良勝 静岡
- 經 白井 晋介 愛知
- 法 (舊姓鈴木) 神田 康男 神奈川
- 谷川 昇 神奈川
- 法 中野 五郎 東京
- 能村洋志雄 福井
- 經 増井 四郎 静岡
- 法 松井 英彦 京都
- 法 森 武彌 東京
- 經 足立 省吾 千葉
- 經 (舊姓大井) 大石 正雄 静岡
- 法 勝又 愛明 静岡
- 經 神部 健 神奈川
- 經 黒阪 次男 山梨
- 法 椎名佐喜夫 千葉
- 法 杉井 幸一 東京
- 法 高羽幸次郎「神奈川」
- 法 佃 豊誠 東京
- 文 西野 巖三 茨城
- 經 馬場 進 大阪
- 經 (舊姓眞瀬) 常磐 正雄 静岡
- 文 三留 久雄 神奈川
- 經 山口左右平 神奈川
- 法 岩崎 七郎 静岡
- 經 奥山 秀和 東京
- 經 (舊姓兼松) 小川 文司 岐阜
- 經 (舊姓窪田) 早川 義行 岐阜
- 法 小林 營邦 長野
- 法 清水 武彦 石川
- 經 鈴木勝太郎 東京
- 法 (舊姓高安) 樺島 千春 大阪
- 法 寺尾 市平 静岡
- 經 根上 直 静岡
- 法 堀越 辰雄 静岡
- 農 松谷四郎次郎 埼玉
- 法 三堀 博 神奈川
- 法 (舊姓山本) 舟木 信成 富山

山本 勇三 静岡
文 和田 捷雄 静岡

文科 乙類

三十六人

- 法 (舊姓一本) 水津宣四郎 静岡
- 經 小澤 周夫 静岡
- 經 北 正純 大分
- 法 潮見 武 東京
- 文 鈴木 元平 静岡
- 法 竹田 復郎 和歌山
- 文 田中 英夫 三重
- 文 豊田 三郎 埼玉
- 文 蓮實 重康 栃木
- 林 歡順 神奈川
- 文 丸山 武夫 群馬
- 法 森脇 肇 鳥根
- 經 猪熊 四郎 神奈川
- 法 龜高 信夫 東京
- 法 後藤 清 岐阜
- 法 島田 二郎 東京
- 法 曾我 尙夫 神奈川
- 法 武井 玄介 愛媛
- 文 鶴田眞次郎 東京
- 文 名和 力三 東京
- 法 畑 謹造 廣島
- 法 古川 淳一 鹿兒島
- 法 溝江 高雄 愛媛
- 文 山西 善一 静岡
- 文 岩淵悦太郎 福島
- 文 樺山 義雄 東京
- 經 法 小林 徳治 群馬
- 法 鈴木 節夫 静岡
- 文 高木眞太郎 東京
- 法 田代 郁彦 東京
- 法 曄道 潔 石川
- 經 萩原 政雄 静岡
- 法 濱野 三郎 神奈川
- 法 松島 勝雄 山梨
- 法 宮澤 大元 静岡
- 法 和田 邦康 静岡

文科 丙類

● 天野 英夫 栃木
 (舊姓井上) 高橋 七郎 岐阜
 岡田 歡造 三重
 ● 大島 武夫 京都
 文 木村 知常 岐阜
 (舊姓鹽谷) 丹羽 廉芳 静岡
 文 高木 早苗 千葉
 法 玉澤光三郎 静岡
 法 土井 貞道 島根
 法 堀 敬 静岡
 經 茂木 兵一 栃木

三十一人

● 安間 英一 静岡
 經 鷗飼 邦三 三重
 法 小川 卓也 神奈川
 經 上司 延彦 東京
 文 坂崎 登 東京
 法 島津 正美 山梨
 文 多田 安伴 岩手
 丹慶與四造 愛知
 法 中神 政雄 愛知
 經 松澤 榮一 東京

法 稻葉 實 静岡
 法 内山勇次郎 東京
 ● 大澤麟太郎 千葉
 文 神戸 收介 長野
 法 佐藤彦治郎 愛知
 法 鈴木 重雄 千葉
 文 田中 俊一 京都
 經 千早健三郎 岐阜
 文 若王子文俊 東京
 ● 峯岸 四郎 神奈川

理科 甲類

三十人

農 嵐 嘉一 三重
 農 稻垣 規矩 長野

理博、理 池田雄一郎 静岡
 醫 乾 蕃 静岡

工 大森 頼雄 長野
 農 川崎 佳連 山梨
 (舊姓小池) 草柳 誠 神奈川
 ● 清水 信雄 東京
 中島 丙午 愛知
 理 藤田 武 石川
 理 前田 武雄 静岡
 工 守谷 正亮 神奈川

工 金田 三郎 静岡
 工 北川 二郎 岐阜
 醫 坂本 三亥 福島
 農 杉崎 靖 静岡
 工 橋爪 義雄 静岡
 醫 榊井喜壽計 愛媛
 (舊姓村松) 山本 藤平 静岡
 (舊名) 山口 博愛 静岡

農 神原 一喜 廣島
 理 木下 恭二 東京
 農 繁村 親 静岡
 理 田邊 浦郎 千葉
 工 東 相之 東京
 文 松坂 勝雄 神奈川
 ● 工 森 重之 静岡
 工 渡邊 善二 静岡

理科 乙類

三十一人

工 坪 恒照 茨城
 醫博、醫 岩崎 龍郎 静岡
 醫 小野 順一 大分
 醫 川瀬 五郎 神奈川
 ● 醫 向野 義雄 東京
 醫 佐藤 末吉 群馬

石場久一郎 青森
 醫 岩崎 寛 静岡
 理 大川 眞澄 静岡
 ● 醫 金原 常作 静岡
 醫 後藤與四三 静岡
 理 佐藤 正義 東京

工 石原 歳一 神奈川
 理 内田 章吾 静岡
 醫博、醫 霞 春海 千葉
 (舊姓久保) 工藤 昇 「岩手」
 醫 佐藤 森堂 神奈川
 (舊姓澤) 鈴木 清 「愛知」

卒業生(第三回)

理 新聞 啓三 静岡
 醫 高橋 榮 新潟
 醫 中西 守一 東京
 醫博、醫 藤野 博儀 神奈川
 醫博、醫 三輪 清三 静岡

藥 菅生 辰一 神奈川
 農 千葉 蓉山 静岡
 ● 農 中村 貞雄 東京
 ● 松山 五郎 東京

一一六
 醫博、醫 鈴木 孝輔 静岡
 醫 塚本 憲甫 福岡
 醫博、醫 日比野 勝徳 鳥
 醫博、醫 松山 緑郎 東京

第三回 百八十四人

(昭和三年三月十日卒業)

文科 甲類

三十八人

法 淺田 秀夫 岡山
 法 天野 武一 栃木
 法 磯部 秀夫 「東京」
 法 (舊姓井上) 池田 脩之助 廣島
 ● 小野 乙彌 大阪
 法 金 光根 朝鮮
 柴崎 權治 千葉

法 阿曾隆太郎 福岡
 法 飯塚 三郎 静岡
 文 稻垣 一穂 東京
 經 (舊姓大島) 小山 五郎 群馬
 法 兼坂 隆一 千葉
 文 小池 益夫 長野
 法 清水 正雄 東京

農 阿部 義賢 大分
 文 池山 精一 静岡
 法 井上 功 東京
 法 岡 眞治 東京
 法 河西吉太郎 山梨
 法 小和田康長 滋賀
 鈴木 介爾 静岡

文 鈴木 誠志 福島
 文 竹屋 丈夫 三重
 文 平山 行三 東京
 法 望月 録郎 静岡
 法 矢原 信壽 愛媛
 經 山中 豊三 東京

法 須藤亨太郎 神奈川
 法 富田 正 静岡
 文 別技 篤彦 「東京」
 法 森永富三郎 千葉
 經 山崎 隆三 静岡
 經 鷺巢憲之助 静岡

● 高橋 (舊名二三) 勇 静岡
 文 日高 乾峰 静岡
 經 松井 昌吉 愛知
 經 築田 銓次 廣島
 法 山地 八郎 香川

文科 乙類

三十一人

經 青山 一郎 東京
 法 石堂恒次郎 福島
 文 大島 功 栃木
 經 小泉 嘉種 神奈川
 法 佐野川 弘男 山梨
 法 園田 慶幸 鹿兒島
 ● 法 津田 房雄 大阪
 經 福留 壽 鹿兒島

文 朝比奈貞二 神奈川
 法 碓井 貞雄 静岡
 文 奥山 雄次 東京
 法 河野 次郎 山形
 經 鈴木 弘道 岐阜
 法 高橋 長閏 神奈川
 法 中村 英男 鹿兒島
 經 古谷 靖綱 愛媛

● 法 井倉 均 静岡
 ● 大磯 仁 群馬
 金田 啓二 京都
 經 小林 幸男 静岡
 ● 鈴木 (舊姓田中) 仁 静岡
 經 永岡 稔 東京
 ● 法 彦部 宏作 群馬
 增尾 明 東京

卒業生(第三回)

一一七

法 増田 壽郎 栃木
文 南 順三 東京
法 渡邊五三九 静岡

文科 丙類

四十一人

經 阿部 一藏 千葉
法 板倉 直保 千葉
文 今泉 三良 愛知
法 海老根 駿 千葉
● 文 小澤 健雄 東京
法 北川權二郎 静岡
法 (舊姓栗田) 平口 齊 静岡
法 坂口 幹 鳥取
經 (舊姓杉山) 山本 孝 静岡
經 田畑 實 山口
法 檜本 信男 岡山

法 松岡 敏介 鳥取
法 矢部 謙二 岐阜
文 飯島 武光 茨城
文 稻葉 信龍 熊本
法 岩崎 彰 和歌山
法 大野久壽雄 石川
法 笠野 英久 東京
● 理 北村 四郎 滋賀
法 小林賢太郎 鳥取
經 佐藤俊八郎 東京
文 鈴木 健郎 東京
經 塚本 正人 長野
法 (舊姓西村) 山崎 滿夫 兵庫

法 水口 準 静岡
法 山本眞次郎 神奈川
法 石原 四郎 神奈川
法 猪俣清一郎 新潟
經 岩崎 大畑 剛 静岡
經 (舊姓大畑) 山口 森三 静岡
經 (舊姓梶井) 渡部雄二郎 新潟
法 久米 寛一 東京
法 小松廉三郎 長野
法 下田 民平 東京
法 高橋左太郎 東京
● 法 土屋 民夫 静岡
法 原田 一郎 静岡

文 牧野 政二 東京
文 (舊姓三井) 大西 忠雄 山梨
法 守谷 芳 神奈川

理科 甲類

四十人

工 朝比奈盛一 東京
農 伊木 常安 鹿兒島
板倉 六衛 静岡
農 岩間 茂智 新潟
工 大橋吉之助 東京
工 金森 九郎 東京
工 小島 清 神奈川
工 佐藤 四郎 栃木
農 庄司 英信 静岡
農 諏訪 光一 山形
工 高橋 平吉 静岡

● 法 松浦 金藏 静岡
文 望月 誼三 静岡
法 柳川眞佐夫 東京
理 (舊姓足立) 城所 明二 「東京」
理 猪口 義夫 静岡
理 伊藤硯太郎 東京
農 内村 操六 静岡
醫 大森 茂 静岡
工 黒澤喜代治 群馬
工 小林 完 静岡
工 佐伯 正夫 山口
工 杉本 四朗 静岡
工 (舊姓清) 田邊 次郎 静岡
工 田中 英一 新潟

● 法 松田 勝郎 東京
法 森 紋太郎 静岡
理 粟野 保 茨城
工 石田 實 静岡
醫 入鹿山勝郎 鹿兒島
理 宇塚 清 栃木
農 奥平 晃二 静岡
工 黒部 弘之 愛知
工 坂田忠之助 山口
醫 (舊姓志村) 草ヶ江逸三 静岡
醫 鈴木 信宏 東京
工 關口 次郎 「東京」
理 田中 潔 静岡

卒業生(第三回)

農 松丸志摩三 東京
 工 堀内深志 東京
 工 萩澤英作 静岡
 工 廣川清 兵庫
 工 山西尙雄 熊本
 工 深尾保 静岡

理科乙類

三十四人

● 飯島博 静岡
 ● 大峽喬次 長野
 ● 小川敏夫 兵庫
 ● 龜川文雄 千葉
 ● 小島清 神奈川
 ● 佐橋良雄 静岡
 ● 柴田農武夫 長野
 ● 長倉五郎 静岡
 ● 平山保男 鹿兒島
 ● 宮澤友壽 静岡
 ● 山口英 神奈川

農博、農 更田卯一郎 京都
 農 松本悦一郎 静岡
 農 山岸三木雄 神奈川

農博、農 小宮山一男 山梨
 農 佐藤正男 静岡
 農 篠崎正幸 千葉

農博、農 東久太郎 大阪
 農 石井守三 静岡

農博、農 伊藤淳吉 岐阜
 農 今橋正枝 高知
 農 河北文郎 三重

農博、農 小西理三郎 秋田
 農 小見山綱太郎 静岡
 農 杉山欣平 静岡

農博、農 重澤俊郎 山口
 農 竹本繁次 愛知
 農 陳生 臺灣

農博、農 田中文藏 静岡
 農 中村安時 静岡
 農 西田眞次郎 愛知

農博、農 常盤義成 宮城
 農 橋本厲之 福岡
 農 三井政雄 山梨

農博、農 三堀將 神奈川
 農 安良岡祐太郎 東京

工 長谷(舊姓名林阿章)章「静岡」

第四回 百八十四人 (昭和四年三月九日卒業)

文科甲類

三十五人

● 安野勇夫 静岡
 ● 伊藤顯信 静岡
 ● 上杉太郎 静岡
 ● 神津東雄 長野
 ● 澤野定長 兵庫
 ● 鈴木音太郎 静岡
 ● 伊達秋雄 大分
 ● 寺田清 静岡
 ● 西田眞次郎 愛知
 ● 三井政雄 山梨
 ● 山口進 長崎

法 青木清之 香川
 法 磯谷巖 愛知
 法 伊藤淳吉 岐阜
 法 片山五郎 静岡
 法 小西理三郎 秋田
 法 重澤俊郎 山口
 法 鈴木正之 静岡
 法 田中文藏 静岡
 法 常盤義成 宮城
 法 橋本厲之 福岡
 法 三堀將 神奈川

法 安東三「東京」
 法 磯貝正 神奈川
 法 今橋正枝 高知
 法 河北文郎 三重
 法 小見山綱太郎 静岡
 法 杉山欣平 静岡
 法 竹本繁次 愛知
 法 陳生 臺灣
 法 中村安時 静岡
 法 西田眞次郎 愛知

法 安野勇夫 静岡
 法 伊藤顯信 静岡
 法 上杉太郎 静岡
 法 神津東雄 長野
 法 澤野定長 兵庫
 法 鈴木音太郎 静岡
 法 伊達秋雄 大分
 法 寺田清 静岡
 法 西田眞次郎 愛知
 法 三井政雄 山梨
 法 山口進 長崎

卒業生(第四回)

一一一

一一〇

卒業生(第四回)

法 李君 晰 臺灣

文科 乙類

法 荒井 博 神奈川
 文 石田 仁 愛知
 法 小栗雄一郎 靜岡
 法 北畠 讓 三重
 法 黒田 靜雄 靜岡
 經 小林 正治 愛知
 文 (舊姓佐野) 寺島 實仁 「東京」
 經 鈴木 健 千葉
 文 土屋 齊 岐阜
 法 長谷川重榮 靜岡
 ● 經 深堀鴻治郎 長崎
 法 増田 信次 靜岡
 經 (舊姓丸岡) 明路 茂造 兵庫

法 渡邊 忠雄 靜岡

四十人

經 荒木 盛章 東京
 法 一宮 齊 大分
 文 笥 泰彦 長野
 法 木村 (舊姓小澤) 茂 愛知
 文 杉山 一人 長野
 文 齋藤 昇一 靜岡
 ● 經 佐原 善文 廣島
 法 橋 嶂 靜岡
 法 遠山 榮治 山梨
 法 林 武雄 北海道
 經 古谷 榮 東京
 法 松崎 兼二 靜岡
 法 森吉 壽夫 德島

一三三

法 安濟 滿 栃木

法 岡崎 雄夫 靜岡
 文 加藤 橋夫 東京
 法 栗原 俊雄 群馬
 經 小林 直巳 新潟
 經 佐藤 軍助 岩手
 經 須崎 謙三 東京
 文 塚本万次郎 愛知
 文 蓮實 義倫 栃木
 林 元 東京
 ● 法 本田 榮一 福島
 法 松永 琢磨 靜岡
 經 安本 榮一 靜岡

山本 吉雄 靜岡

文科 丙類

法 有本 俊夫 和歌山
 法 内山 信一 靜岡
 法 (舊姓太田) 北野 秀雄 兵庫
 法 金山 元 富山
 法 神原 孝 靜岡
 經 鈴木 繁次 靜岡
 法 高橋 太郎 靜岡
 ● 文 中川 一市 京都
 文 長谷川千秋 靜岡
 經 堀 新一 三重
 宮崎 吉武 富山
 吉野 利雄 神奈川

三十四人

法 池 龍藏 高知
 法 榎本 善行 埼玉
 法 大村游歸男 靜岡
 法 栗原 俊夫 群馬
 法 銚延 信次 東京
 文 鈴木 俊吉 靜岡
 法 (舊姓多賀谷) 大塚 實 群馬
 經 永田 英夫 愛知
 法 原田 壽 佐賀
 法 (舊姓丸山) 酒井 眞郎 愛知
 經 柳生 昌家 三重

● 法 石原 敏夫 愛知

法 大口 謙二 東京
 法 大山連之助 岐阜
 文 黒住 眞雄 岡山
 法 篠原 節男 東京
 文 住本 利男 靜岡
 文 鳥山 榛名 東京
 法 中山 啓三 栃木
 經 古屋惣太郎 神奈川
 文 南 壽 岡山
 法 山田 太郎 三重

卒業生(第四回)

理科 甲類

三十七人

卒業生(第四回)

農 加藤 太郎 愛知
 農 大岡 忠三 東京
 農 尾崎 政寛 愛媛
 農 桑島 春太郎 静岡
 工 後藤 博邦 静岡
 工 佐藤 章藏 福島
 農 大宮 司雪郎 宮城
 工 竹内 良市 静岡
 工 野尻 康三 和歌山
 工 堀 夷 岡山
 醫 馬淵 敬而 静岡
 工 宮地 鐵也 静岡
 工 油井 義郎 静岡

理科 乙類

醫博、醫 朝比奈俊男 静岡

(舊姓名阿知波近次)

農 田中 康夫 愛知
 工 大塚 茂 大阪
 文 加藤 一誠 三重
 工 河野 武 山梨
 ● 小山 孝雄 神奈川
 ● 佐藤 進一 新潟
 理 高島 春雄 東京
 工 藤後 定雄 神奈川
 工 坂 丈夫 愛知
 ● 松下登利雄 静岡
 ● 水谷 隆男 東京
 ● 宮本 利彦 愛媛

三十八人

醫 伊藤 英策 長野

一二四

醫 井上 守三 山梨
 工 大場 俊三 静岡
 工 桑田 貞雄 静岡
 工 後藤 克巳 三重
 ● 上羽 庄三郎 京都
 ● 清水 壽雄 東京
 ● 大村 英吉 栃木
 農 中條 誠一 福島
 理 平松 達一 三重
 農 松永 貞二 静岡
 工 三富 正夫 〔東京〕
 農 山下 六郎 静岡

醫 井上 岳友 静岡

卒業生(第四回)

文科 甲類

三十六人

第五回 百五十八人

(昭和五年三月十日卒業)

醫 岩村 俊夫 静岡
 理 奥田 四郎 北海道
 醫 窪田 茂雄 山梨
 醫 後藤 敏夫 静岡
 醫 齋藤 弘徳 埼玉
 醫 島田 英一 神奈川
 理 田中 爲夫 三重
 ● 南川 健二郎 兵庫
 醫 原田 清 愛知
 醫 星野 孝志 山梨
 醫 門馬 良吉 福島
 吉田 周造 東京

農 榎本 善射 埼玉
 醫 加藤 誠一 山形
 醫 黒澤勝三郎 群馬
 醫 小室 敏一 埼玉
 醫 佐藤 貞夫 長野
 醫 関口 永 東京
 ● 遠山 庄一 愛知
 ● 西ヶ谷 豪 静岡
 醫 平野 濤男 三重
 醫 星野 武男 奈良
 醫 山岸 信 長野
 醫 渡利 勝城 島根

● 萩原 二郎 静岡
 醫 加藤 正司 宮城
 法 黄 祺 拔 臺灣
 醫 近藤 通世 茨城
 醫 柴 達 〔静岡〕
 ● 平田 宰平 神奈川
 ● 中嶋 穰 石川
 ● 加藤 和夫 三重
 ● 福嶋 輝彦 東京
 醫 森川 護三 岐阜
 農 山田 啓一 静岡

文 秋鹿 重彦 静岡
 法 岩淺 百千 徳島
 經 大鹽 銀藏 静岡
 法 加藤 衛 愛知
 法 黒岩 經雄 長野
 法 小見山陽三 岐阜
 文 櫻井 豊次 静岡
 法 庄司 六郎 秋田
 經 鈴木 静夫 静岡
 經 寺田 陸 東京
 法 小山 文平 愛知
 法 村上 禎威 「東京」
 法 赤池 健 長野
 經 大西 幹男 京都

文科乙類

經 石川 和一 神奈川
 法 内田 吉彦 山梨
 法 太田九州男 長崎
 法 太田九州男 (舊姓名金容觀) 朝鮮
 法 金城 清一 朝鮮
 法 高 秉 國 朝鮮
 ● 法 酒井 酒吉 北海道
 文 佐藤 健壽 静岡
 法 杉浦 貫一 愛知
 法 高野 英夫 長野
 法 二村 光雄 愛知
 法 松永 孝 静岡
 經 守屋美智雄 岡山
 法 白井 亨一 岐阜
 法 小栗 信男 静岡

二十八人

法 出浦 清一 東京
 法 大内田太郎 神奈川
 法 大村 吉衛 静岡
 法 熊村昌一郎 静岡
 法 小島 一郎 栃木
 經 櫻井 忠治 静岡
 法 下郷寅次郎 滋賀
 法 杉浦酉太郎 三重
 法 田中 四郎 群馬
 文 原川 力 静岡
 文 實藤 玄 静岡
 經 八村 信三 大阪
 ● 法 浦田 兵次 北海道
 文 柏原 禮夫 大阪

文 鹿子木 亮 東京
 法 齋藤 壽夫 静岡
 商 澁谷 春樹 静岡
 法 鈴木 幸一 愛知
 文 中嶋 敏 石川
 文 古澤 一郎 静岡
 經 (舊姓武藤) 鈴木祐次郎 静岡
 經 山崎 英彌 静岡

文科丙類

法 熊谷 卓次 東京
 經 齋藤 弘忠 埼玉
 白川 惟二郎 北海道
 文 高橋 弘 静岡
 法 新村 修平 静岡
 文 前田 澄 静岡
 經 森 英 東京

三十六人

● 法 古林 克治 岐阜
 法 齋藤愛太郎 三重
 (舊姓鈴木) 江崎 鐵郎 静岡
 經 田畑不二夫 静岡
 理 早川 義道 東京
 法 松枝 次郎 石川
 法 矢部 孝 静岡

卒業生(第五回)

文 青野 俊梁 静岡
 文 石本 芳春 和歌山
 法 白杵 勉 大分
 法 神尾周一 静岡
 (舊姓熊谷) 法 草刈 甲二 東京
 ● 法 齋藤 禎司 静岡

經 井澤 和夫 静岡
 (舊姓大塚) 法 藤村 重人 佐賀
 文 大内田 實 神奈川
 經 河井 尙 大阪
 經 倉持 博 千葉
 法 佐伯 照明 山形

法 石田 允文 東京
 文 上田 昊 埼玉
 法 加藤 壽雄 愛知
 農 雉本 俊平 愛知
 文 小林 知生 東京
 文 榊原 政常 東京

卒業生(第五回)

法	村井謙吉	岐阜	●經	高野敏郎	鹿兒島	法	館石七郎	靜岡
經	大田達雄	和歌山	法	長文連	靜岡	經	中島市三	東京
文	中村有兵庫		經	中村秀茂	三重	文	中村宏	山梨
文	林信義	千葉	法	福良恒	德島	文	藤田貞吉郎	靜岡
法	正木鉦	愛知	文	松村博司	靜岡	法	宮澤次郎	靜岡
法	三善醇雄	京都	經	望月立一郎	山梨	文	山口進	愛知
理科 甲類			二十九人			理科 甲類		
農	安藤仁	愛知	醫	石原利介	山梨	農	伊藤悅夫	靜岡
工	上坂武夫	神奈川	農	上野浩	東京	農	笠島和介	東京
理	木村準	愛知	工	西郷博	東京	工	佐藤康治	靜岡
農	篠原正	長野	醫	杉山錦平	靜岡	工	曾根嘉年	愛媛
農	石川越三	兵庫	工	中島吉雄	東京	工	永瀨恒久	埼玉
農	長野齊治	新潟	工	野崎謙三	埼玉	農	長谷川健一	岩手
工	伏見友二郎	靜岡	工	藤田輝夫	石川	農	水野脩之助	靜岡
工	南誠之	靜岡	理	三宅靜雄	廣島	農	安田治三郎	愛知

醫博、醫 理科 乙類

工	柳田信吉	栃木	醫	山内周三	三重	工	山崎春雄	東京
農	横山光雄	神奈川	文	李達宰	朝鮮	醫	石出武敏	千葉
農	荒木董	靜岡	二十九人			醫	位田保	三重
農	今泉吉郎	宮城	農	加藤新	東京	醫	古杉敏秋	靜岡
醫	小川正夫	東京	醫	鈴木宜民	靜岡	醫	曾我頼幸	岐阜
醫	島村秀次	石川	農	張洪蚶	臺灣	工	鳥澤治巳	靜岡
●	内藤信昭	山口	醫博、醫	植村正	東京	農	廣川健二	兵庫
理	藤井隆	靜岡	醫	前田進	愛知	醫	松本一男	靜岡
理	丸山謙次	長野	醫	丸山博	靜岡	醫	翠英賢	靜岡
工	宮崎敏郎	靜岡	農	山田俊雄	山梨	醫	山本幹爾	岡山
醫	依田省吾	山梨	文	力武一郎	佐賀			

卒業生(第五回)

第六回 百六十六人

(昭和六年三月十日卒業)

文科甲類

三十六人

經	赤羽準一郎	長野	經	池上 幹德	徳島	法	伊藤 公男	愛知
經	(舊姓大石) 片山甲子男	静岡	文	大磯 義雄	東京	法	大砂 吉雄	静岡
法	岡本 滋	静岡	法	小河 直人	福岡	法	小住 軍一	福岡
文	小野 晋	香川	法	柏村 信雄	東京	經	菊池 武夫	静岡
經	北村 舜童	静岡	法	弦間 照	山梨	法	小林 操	静岡
文	小林 義武	静岡	法	小林 亮一	東京	文	櫻井 實	静岡
經	佐藤 馨志	静岡	經	鈴木新兵衛	愛知	法	住吉 靜雄	東京
經	曾根 初馬	静岡	法	高木 省一	静岡	文	高橋 峻	宮城
法	陳 而約	臺灣	經	塚本貞之助	京都	文	遠山 長江	兵庫
經	野口 治郎	茨城	經	細野 忠夫	東京	法	増井 辰雄	奈良
法	(舊姓増田) 加藤 靜雄	静岡	法	水口 豊	静岡	經	武藤 忠敏	愛媛
法	元木 正治	東京	法	山本 光三	山口	法	油井 義郎	静岡

文科乙類

三十八人

法	足立 篤郎	静岡	法	井口 裕	静岡	法	池田 愛雄	東京
經	大石 勇一	静岡	法	王 柏 榮	臺灣	法	大和田忠良	福島
法	川邊 一雄	千葉	法	古賀 謙次	兵庫	經	是枝 達郎	鹿兒島
法	酒井 諭一	長野	經	鮫島 龍行	東京	經	澤田 達	神奈川
法	清水 富夫	東京	經	鈴木 俊一	静岡	文	高橋 一夫	静岡
法	高林 忠次	静岡	法	竹尾 俊	新潟	法	武富 威	東京
法	田島 英二	神奈川	經	千頭 琢次	鹿兒島	經	土屋三千雄	神奈川
文	寺田 正二	高知	文	仲田 春夫	千葉	經	波多野一雄	兵庫
文	平川 信弘	静岡	文	藤岡 端	東京	法	藤田 金作	静岡
法	星野 義人	東京	法	松田 悟	山口	經	光永 廣	熊本
法	湊 勝司	神奈川	法	宮下 明義	長野	文	宮原 俊夫	和歌山
經	森 英次	東京	文	箭内 健次	福島	法	山中 和雄	東京
商	兪 夏 滯	朝鮮	法	吉水 俊夫	鹿兒島			

文科丙類

三十四人

卒業生(第六回)

法 淺原 茂 静岡
 商 大倉 弘 京都
 經 小倉 嘉行 神奈川
 法 門平 謙三 埼玉
 法 權田 次良 愛知
 文 高田 瑞穂 静岡
 經 土屋 義正 東京
 經 長島 忠雄 愛知
 法 古屋祐次郎 「東京」
 法 三原 種直 岐阜
 法 山下 健治 山梨
 法 吉村 千里 東京

理科 甲類

●法 内田 暉雄 静岡
 經 大谷 嘉久 神奈川
 經 尾崎 哲三 静岡
 法 瞿疊 劫刺 石川
 法 杉野 資政 岐阜
 經 高塚 嘉一 静岡
 法 中澤 道夫 山梨
 商 原木 文夫 静岡
 經 牧田 祥平 静岡
 法 三好由三郎 静岡
 經 山内 綠 福岡

三十一人

理 稻葉 榮次 奈良
 工 内山 久 静岡

一三二

法 大川 孝輔 静岡
 法 大沼 宣明 静岡
 ●法 (舊姓寛) 安田 義彦 長野
 經 (舊姓小飼) 光山 五郎 長野
 經 鈴木武五郎 東京
 ●文 田中 和雄 東京
 經 永倉 理輔 栃木
 法 深谷 二郎 秋田
 文 松木 眞 山梨
 經 柳川 太郎 静岡
 法 結城 敏雄 群馬

農 岩松 七郎 東京
 醫 (舊姓岡崎) 鎗田 衡平 「千葉」

工 (舊姓岡田) 小野 俊夫 静岡
 工 加藤 尙助 福井
 工 榊原 周 静岡
 醫 鈴木安兵衛 静岡
 工 玉井 茂男 愛知
 農 新美 達郎 熊本
 理 (舊姓松村) 山田 省二 新潟
 工 山崎 貞一 静岡
 農 渡邊 守松 岐阜

理科 乙類

●農 風間 敦夫 東京
 工 川口 利朗 静岡
 工 指田 柱石 和歌山
 農 關口 三郎 東京
 工 塚本 猛次 静岡
 理 細井 敬三 静岡
 理 矢崎 幾藏 山梨
 農 横地 君德 東京

二十七人

醫 阿部 春男 福島
 醫 川瀬 利光 東京
 理 小林勝太郎 静岡
 醫 杉江 善夫 静岡
 醫 徳久 克巳 高知

一三三

●加藤 俊雄 埼玉
 工 菊地喜久男 静岡
 農 鈴木 篤 静岡
 醫 染谷傳三郎 千葉
 ●醫 戸澤 輝夫 山形
 工 松井 茂彦 静岡
 工 矢野 達雄 長野
 理 米窪 達雄 長野

醫 植出 敏夫 東京
 工 河村 莊 静岡
 醫 小林 敏政 長崎
 農 瀧 基次 愛知
 農 中村 秀松 静岡

卒業生(第七回)

農 中山 昭彦 栃木
 醫 藤ノ木政三 新潟
 醫 間中 喜雄 神奈川
 醫 山田 肅 岐阜
 文 永江四十八 福岡
 醫 星野 重雄 静岡
 醫 水野 有文 静岡
 醫 渡邊 熙 愛知
 醫 速水 伸三 京都
 醫 松浦 喜作 静岡
 農 宮川 知典 福島
 醫 蕨 彰 千葉

一三四

第七回 百六十八人

(昭和七年三月十日卒業)

文科 甲類

三十五人

法 池田 義和 東京
 法 上村 錠治 福井
 文 岡 久雄 三重
 法 椎野 俊一 神奈川
 法 田中 友二 京都
 法 中野 正幸 東京
 文 錦織 正 宮城
 法 市川 弘勝 東京
 文 海野 久平 静岡
 經 岡本 愛次 愛知
 法 畔柳 貞造 愛知
 文 島田 慈周 神奈川
 法 谷川 脩 静岡
 法 中山 智三 三重
 法 野田 芳平 山梨
 文 上田 年夫 愛知
 文 大代 守夫 静岡
 法 小高 明義 埼玉
 法 佐田 洋 宮崎
 文 菅沼 舜治 静岡
 文 土子 猛 東京
 法 永井 富雄 静岡
 經 平井 正三 東京

經 廣瀬 嶺丸 静岡
 文 松山 賢輔 東京
 經 山本 靜夫 静岡
 經 和田 修 東京
 文科 乙類

法 松村 重雄 東京
 文 宮本 三郎 東京
 文 山本 博 静岡
 法 和田正一郎 神奈川
 二十五人

經 松本 一郎 神奈川
 經 山崎 英吉 静岡
 經 渡邊 修 静岡

經 青木 虎男 東京
 法 大谷 正愛 大阪
 經 笠原 昌康 神奈川
 法 杉山 惠一郎 静岡
 文 田中 泰三 愛知
 經 土肥 武夫 東京
 法 成田 忍 東京
 法 平尾 正也 静岡
 法 望月 孟夫 静岡

文科 丙類

三十四人

經 白井 茂 静岡
 經 大類 一雄 東京
 法 黒田 定雄 新潟
 經 諏訪 圭三 山形
 法 田中 稔 静岡
 文 中込 忠三 山梨
 ● 野島 公大 東京
 文 本田 善自 三重
 文 宇野 鴻 静岡
 經 小川 誠 東京
 ● 清水 忠一 群馬
 文 高島 忠雄 東京
 經 辻 恒雄 栃木
 法 中村 秀彌 新潟
 經 樋口 正保 静岡
 法 松岡 義平 静岡

卒業生(第七回)

一三五

卒業生(第七回)

法 井上一雄 茨城
 法 岩田俊一 三重
 經 片倉隆義 神奈川
 文 小林正 東京
 法 鈴木伊衡 静岡
 經 田附敏三 滋賀
 法 長谷川好武 静岡
 法 藤本幹 廣島
 經 眞鍋義孝 徳島
 法 望月英一郎 静岡
 法 山崎政助 静岡
 文 渡邊明正 兵庫

理科 甲類

工 青島弘 静岡
 (舊姓石井)
 農 稻葉次郎 千葉

四十二人

文 猪木春雄 岡山
 法 上野篤朗 東京
 ●金子裕 神奈川
 (舊姓楠原) 市嶋融 東京
 法 鈴木祖光 静岡
 文 鈴木政藏 静岡
 法 中村政藏 静岡
 法 波多野傳 静岡
 (舊姓前田) 古閑隆 熊本
 法 宮崎定孝 熊本
 經 森吉直城 静岡
 法 山西孝太郎 静岡

工 淺野鍊太郎 静岡
 工 今城運男 福井

●戦死文

文 岩崎修 神奈川
 文 小澤誠一 静岡
 文 久米良太郎 神奈川
 文 神保規一 東京
 法 須山達夫 静岡
 法 中山壽一 東京
 文 藤田保雄 埼玉
 文 松永香苗 静岡
 經 村田健司 東京
 法 山内良樹 静岡
 法 山本林 愛知

東

理 宇佐美衛 神奈川
 理 大井芳雄 福島
 醫 大山英二 静岡
 工 笠原庸司 岐阜
 工 小平薫 東京
 ●殉職農 鈴木梅吉 東京
 理 津布久靖二 栃木
 農 難波次雄 東京
 理 根岸宏二 東京
 工 服部賢武 東京
 醫 藤繩謙藏 千葉
 工 望月博治 静岡
 理 赤澤喜三郎 栃木
 醫 上田修示 山梨

理科 乙類

卒業生(第七回)

東

醫 鶴澤千之 千葉
 醫 大槻舒 岐阜
 醫 奥津博 神奈川
 醫 河村謙二 滋賀
 工 小沼武 静岡
 (舊姓關) 堀豪三 静岡
 農 鳥羽秀夫 東京
 工 西崎太郎 岡山
 工 根岸博正 千葉
 工 原英一 長野
 工 松下清夫 静岡
 農 森義朗 山梨

三十二人

法 石井眞三 東京
 理 大石清 静岡

工 宇野亨 福井
 工 大西恒雄 愛媛
 理 奥村繁夫 徳島
 (舊姓小出) 間中次郎 岐阜
 理 齋藤鍊一 静岡
 工 田邊富士男 廣島
 醫 永山公平 茨城
 工 西卷一雄 新潟
 理 野尻七郎 山梨
 工 平林孝夫 兵庫
 工 三村晴天 長野
 工 門田敬一 廣島

法 市橋達 岐阜
 醫 大久保忠繼 高知

卒業生(第八回)

法	香坂	隆昌	山形	文	小林	正壽	東京	●戰死	佐藤	一雄	千葉
文	佐伯	栞	熊本	文	皿井	一郎	愛知	法	清水	正二	宮城
法	庄司	喜久男	静岡	經	鈴木	章	静岡	●	竹田	智了	岐阜
文	次田	香澄	東京	經	内藤	俊	兵庫	●	長橋	猛雄	静岡
農	湊	清	京都	文	原	新次	静岡	法	坂野	光式	愛知
文	廣田	傳衛	静岡	文	藤岡	好足	東京	文	水野	安藝男	静岡
經	山本	鉞治	静岡	經	青木	重太郎	岐阜	文	秋月	孝久	静岡
法	青木	榮	静岡	法	石塚	正道	千葉	法	伊藤	正二	静岡
法	渥美	武夫	東京	法	恩田	直治	長野	法	加藤	正	神奈川
農	井戸	吉次	静岡	經	木本	正	奈良	法	久米	知孝	「東京」
經	川合	文雄	静岡	法	坂本	信雄	愛知	法	清水	哲郎	静岡
法	小島	次郎	静岡	經	鈴木	實	千葉	經	關口	正男	東京
法	白根	春助	山口	●	内藤	文質良	山梨	法	中尾	眞徳	「愛知」
法	高島	正直	神奈川	經	西村	正大	三重	法	廣池	順雄	奈良

文科丙類

三十一人

法	中野	謙	新潟	經	望月	廉造	静岡	法	廣池	順雄	奈良
法	横田	儉作	静岡	經	山崎	英一	神奈川	文	諸井	忠政	奈良
商	山内	正一	静岡	經	猪熊	正元	神奈川	經	吉田	茂雄	佐賀
法	吉村	康一	東京	理	生島	正次	京都	工	猪熊	正元	神奈川

理科甲類

三十人

東工業	青池	一雄	東京	理	宇都宮	重康	愛媛	工	猪熊	正元	神奈川
東理	入江	春雄	千葉	工	紀本	正二	奈良	理	岡山	泰榮	静岡
農	金子	良	神奈川	工	小橋	豊	奈良	醫	眞岡	修	三重
工	小西	乾太郎	秋田	理	鈴木	知雄	東京	工	左治	清二	長野
工	篠原	清	長野	工	樋田	二郎	東京	農	須藤	盛久	群馬
農	地引	榮一	千葉	東工業	平岩	元徳	神奈川	理	廣田	晴男	神奈川
工	永見	徳太郎	廣島	名	松岡	明	岐阜	理	松本	達郎	東京
工	又木	武一	東京	理	村山	武之	静岡	農	森本	宏	奈良
農	武藤	三雄	神奈川	醫	横田	光史	埼玉	工	吉家	光夫	長野
工	山内	正男	福岡	卒業生(第八回)							

卒業生(第八回)

理科乙類

三十三人

醫 相羽 義雄 静岡	醫 石井 親一 静岡	醫 大畑 闊 静岡	醫 小川 象一 千葉	醫 後藤 靜夫 香川	農 眞造 圭一郎 和歌山	醫 瀨良 好文 大阪	醫 田波 幸男 栃木	醫 日向 秀夫 山梨	● 溝口 達寛 静岡	理 吉田 統一 福島
醫 秋山 房雄 山梨	醫 上原 孫作 京都	● 大藪 正治 三重	醫 北村 義廣 静岡	醫 齋藤 保次 静岡	醫 鈴木 次郎 静岡	醫 鼠入 秀夫 宮城	理 中山 正 静岡	醫 堀井 文雄 静岡	理 村田 秀吉 神奈川	醫 吉田 俊夫 京都
● 有泉 元松 山梨	醫 江川 昌一 静岡	醫 緒方 正來 東京	農 木下 謹三 東京	農 佐藤 公一 静岡	醫 鈴木辰四郎 長野	農 武田 純正 愛媛	理 野田 耕造 静岡	醫 三上 隆治 埼玉	農 山中 義一 京都	醫 依田 進 長野

一四二

第九回 百五十三人

(昭和九年三月十日卒業)

文科甲類

二十六人

經 有坂 弘 兵庫	經 小川 栓吉 岐阜	文 河合 茂 静岡	經 齋藤 暹 静岡	法 高山 透 福島	文 中林 謙二 東京	法 原 亨 山梨	經 松本 徳一 静岡	法 山崎 喜之 茨城	文科乙類	
經 小笠原正夫 埼玉	文 小田切良知 東京	文 川西 文夫 静岡	法 櫻井 文平 静岡	文 竹橋 尙紀 東京	經 二宮 敏夫 東京	法 藤崎 正義 鹿兒島	法 山上 信重 静岡	文 山名 泰助 静岡	三十二人	
文 岡谷 潔 静岡	法 落合 正作 静岡	法 窪寺 健一 山梨	經 佐々木正臣 長野	東北法文 谷口 英雄 岡山	法 早川 達道 東京	文 松岡 博 (舊姓山口) 東京	文 荒川平八郎 静岡	法 海野 一郎 静岡	法 奥井桂一郎 愛知	法 河井 重友 静岡
文 鈴木 孝司 静岡	文 小林 幸輔 山形	法 奥井桂一郎 愛知	法 河井 重友 静岡	文 鈴木 孝司 静岡	文 鈴木 孝司 静岡	文 鈴木 孝司 静岡	文 鈴木 孝司 静岡	文 鈴木 孝司 静岡	文 鈴木 孝司 静岡	文 鈴木 孝司 静岡

一四三

法 高橋 正八 東京
 法 内藤正次郎 山梨
 經 野中 進 靜岡
 文 廣瀬 隆男 靜岡
 經 水野 五郎 靜岡
 經 油井 寛 靜岡

文科 丙類

法 竹内 敏夫 靜岡
 經 長島 潔 靜岡
 經 袴田 豊信 靜岡
 法 松本 省吾 神奈川
 法 村田 幹司 愛知
 法 湯原 政雄 山形

三十人

文 近松賀代磨 滋賀
 法 永田 稔 靜岡
 經 島 忠夫 岩手
 法 三浦孫平次 愛知
 法 本山 弘 新潟

經 山口 太郎 東京
 文 山本 茂男 千葉

理科 甲類

工 鮎瀬 健一 栃木
 理 出浦 源二 東京
 工 奥平 正元 東京
 工 河村喜久雄 靜岡
 工 小見山一郎 栃木
 農 鈴木宗一郎 靜岡
 工 高柳 剛 石川
 ● 東郷 泰武 東京
 農 前田 豊 埼玉
 醫 丸茂三千穂 山梨
 醫 八木勇次郎 靜岡
 農 和田 清治 靜岡

經 山下不二雄 靜岡
 法 山脇 正元 東京

三十四人

工 池田 嘉助 靜岡
 醫 太田 恒雄 愛知
 工 小篠 照雄 東京
 工 木原 榮造 靜岡
 工 重光 彊 東京
 工 鈴木 徳就 靜岡
 工 張 天 林 臺灣
 農 原間 新作 靜岡
 工 牧野 雄一 靜岡
 工 三崎 勇 香川
 工 與謝野 昱 東京

經 山下 正司 靜岡
 法 米山 文平 神奈川

農 石井 泰一 神奈川
 工 奥平 史郎 東京
 工 影山房太郎 靜岡
 醫 伴野 重道 靜岡
 農 清水福太郎 東京
 理 高木 重次 東京
 工 寺田 速雄 新潟
 ● 藤井 高彦 奈良
 工 松下喜代作 靜岡
 理 望月 央 靜岡
 工 米澤 俊彦 東京

阪

卒業生(第九回)

理科乙類

三十一人

醫	青木	秀三	靜岡	醫	池谷	正彦	靜岡	醫	内田	豊山	梨	
農	大澤	一男	靜岡	醫	大橋	義之	兵庫	工	大原	隆康	福島	
醫	川村	春雄	靜岡	工	國松賢四郎	千葉	工	小管佐七郎	神奈川			
法	五島	肇	兵庫	醫	佐藤	通 <small>〔神奈川〕</small>	醫	下村忠四郎	茨城			
藥	重城	良造	千葉	阪	醫	鈴木	房雄	靜岡	醫	鈴木	保男	靜岡
工	鈴木	宜邦	東京	醫	仙石	昱三	岐阜	醫	多和田	博	岐阜	
醫	友松	新五	靜岡	醫	駒野壽恵男	靜岡	醫	野々田	新	靜岡		
醫	松島	正視	東京	農	三宅	鍊三	岐阜	農	目崎	初美	靜岡	
工	望月	三郎	靜岡	農	安田與七郎	東京	工	安村	昇	和歌山		
農	柳原	文一	愛知	醫	山口	一雄	愛知	醫	山本	幹夫	靜岡	
京	和田	富三	靜岡									

第十回 百五十七人 (昭和十年三月九日卒業)

文科甲類

三十九人

經	渥美幸次郎	靜岡	文	阿部	武彦	靜岡	經	安藤	文字	岡山	
經	池田	立一	埼玉	經	今關	智吉	靜岡	文	岩崎	鑑一	靜岡
經	岩本	敏郎	靜岡	文	江島	祐二	富山	文	遠藤	晋	靜岡
東	岡部	樹良	東京	文	小川	賢真	靜岡	經	押尾	頭司	靜岡
東北法文	金嶋	富夫	神奈川	東北法文	熊谷	實	栃木	法	小林	照夫	愛知
法	駒田駿太郎	三重	法	近藤	正雄	靜岡	文	酒井	毅	兵庫	
法	櫻井	茂尙	千葉	經	清水勝之助	靜岡	經	關口	善郎	東京	
文	高木	成助	東京	經	高橋	正夫	廣島	經	田口	良夫	東京
●	都築	悟	愛知	經	堤	清	滋賀	經	富田	修平	靜岡
文	中田俊太郎	東京	法	安藤	章	神奈川	法	長松	宗太	東京	
●	袴田	福市	靜岡								

法 花園 一郎 鹿兒島
法 村井 修一 静岡
商 矢部 肇 静岡

文科乙類

經 増田 勝男 静岡
經 矢ヶ崎廣一 長野
法 渡邊 辰夫 静岡
二十三人

東 文 三橋万次郎 東京
經 柳澤 隼雄 長野

經 油谷 力 山口

法 石崎 常夫 愛媛

法 井上 正之 静岡

法 宇治 典紀 岡山

● 小畑源一郎 山梨

法 栗原喜八郎 群馬

佐藤 孝二三 三重

文 鈴木 健 愛知

東

文 鈴木 晋 静岡

法 田中 迪 愛知

經 鳥取 忠雄 福岡

經 原田 善郎 神奈川

經 深山 深山 梨

法 福本 祐 愛知

法 藤川 義典 岡山

經 堀 正典 東京

文 松平 千秋 静岡

經 森川 武夫 東京

文 諸井 慶德 奈良

文 吉川美都雄 岡山

經 吉林 幸男 静岡

經 吉見 四郎 静岡

經 渡瀬 謙治 静岡

經 大鹽 昌美 静岡

文科丙類

三十五人

文 井口虎一郎 滋賀

文 石割 五郎 静岡

● 稻葉 仁 千葉

法 岩田 坦 京都

法 大石 敏雄 静岡

東

商 太田 正元 静岡

經 大槻 重衛 京都

經 大海原邦重 滋賀

文 大村 三郎 静岡

文 小川 昭一 愛知

法 粕谷 義治 東京

經 古藤 勇 鹿兒島

法 小林甲子郎 静岡

經 榊原 達夫 静岡

法 重光 晶 東京

東北法文 島岡 建治 神奈川

經 下田 基次 群馬

杉本 銳一 静岡

文 關 正 山形

經 高山 貞男 静岡

法 武田 功 高知

東 文 谷 江晏 静岡

法 土屋 正雄 神奈川

經 角替 茂二 静岡

法 成田 弘 秋田

文 野口 英一 愛知

法 橋本正次郎 栃木

文 藤田於菟彦 北海道

經 松嶋 謹三 群馬

文 海琳 武德 神奈川

法 村田 恒彦 東京

法 山崎 完 東京

法 郷 (舊姓山本) 英 岐阜

法 米山 清 静岡

理科甲類

二十七人

工 有泉 昌山 梨

東 理 生嶋 政一 埼玉

理 市川 寶 静岡

工 岩崎 秀治 東京

工 鶴殿 靜一 静岡

工 大石 才一 静岡

工 小栗 堯 東京

工 加藤 驥 静岡

農 上林 道 [静岡]

工 桑野 久利 東京

工 小見山二郎 栃木

京 農 小山 守一 静岡

理	近藤 正治	愛知	工	佐津川太郎	静岡	理	立花 太郎	東京
工	塚原 昇	東京	農	津山不二男	三重	醫	德永 貢	静岡
工	中村 保雄	新潟	工	西川 義男	東京	理	深田 正夫	東京
工	伏見賢治郎	静岡	醫	古川 楠人	静岡	●	正立 捨次	山形
理	松丸 勝	東京	農	松本新一郎	静岡	農	山本 長雄	静岡
理科乙類 三十三人								
醫	池田 正一	廣島	醫	石井 敏秋	兵庫	醫	石川 浩一	静岡
醫	今中 勝治	三重	醫	植田 一郎	神奈川	醫	植田 勤	静岡
農	大石 勝彦	静岡	醫	大山 茂	静岡	醫	岡本 正夫	愛知
理	小澤 邦男	群馬	醫	梶田 鮮一	愛知	醫	川村 基	静岡
醫	桐淵 達次	東京	醫	河野 正	千葉	醫	古城 雄二	大分
工	坂本 道男	兵庫	工	澤地 良夫	神奈川	醫	鹽島 令儀	東京
醫	鳴谷 亮一	静岡	醫	徐 先 鈞	臺灣	醫	曾根 正藏	静岡
醫	高橋 坦	静岡	農	寺島 一郎	東京	醫	中野 進	新潟
工	仁杉 巖	東京	醫	春原新太郎	長野	農	福島 與平	静岡

東	醫	間瀬 光介	愛知	千	醫	松永 幹	静岡	醫	山梨 政行	静岡
工	横尾 義貫	佐賀	醫	渡邊 登	静岡	工	渡邊 昇	神奈川		

第十一回 百六十三人 (昭和十一年三月十日卒業)

文科甲類 三十一人

東	經	犬塚 輝夫	東京	文	岩崎 亮一	東京	經	内山 哲雄	静岡
法	江森己之助	千葉	法	岡田 初雄	静岡	法	梯 茂	長崎	
法	國井 眞	栃木	經	玄後 市郎	和歌山	法	小林 巖	香川	
法	小山 宇内	東京	文	鹽田鉦太郎	東京	經	下山 辰司	静岡	
法	鈴木 重之	静岡	文	武田庄三郎	兵庫	法	田中 忠光	静岡	
文	辻本 倉雄	京都	法	富谷 彰介	栃木	經	難波 正彦	岡山	
文	橋本 精一	東京	法	林 憲正	福島	法	林 良平	福島	
法	堀合 道三	岩手	法	堀 勇	兵庫	經	村上 義令	東京	
法	元田信太郎	東京	文	安村 欣次	東京	文	山口 一郎	東京	
經	山本 京一	静岡	法	山本 邦男	東京	經	渡邊 清	東京	

經 渡邊 文夫 東京

文科 乙類

三十二人

經 阿部 隆二 長野

文 新井 信之 栃木

經 上杉 一郎 静岡

文 内田 道夫 東京

東北法文 小川金治郎 千葉

法 乙竹 虔三 三重

文 狩野 亨二 静岡

經 川口 謙吉 東京

東 經 小立 滋 東京

文 櫻井 正寅 静岡

法 鈴木 正長 神奈川

法 須藤 悦郎 群馬

東 文 手島文太郎 東京

法 中澤 護人 山梨

東 經 中村 正也 静岡

法 平岩 辰雄 東京

東 法 藤井 洋 石川

東 經 藤田 隆平 静岡

東 經 宮崎 弘毅 富山

文 藤田 隆平 静岡

東 法 山村 俊雄 長野

文 村尾 次郎 静岡

東 法 山村 俊雄 長野

經 横山 能久 東京

法 秋田 安一 静岡

法 池田 新太郎 東京

經 石間喜久治 静岡

經 白井昭太郎 静岡

文 加嶋 正 山口

經 桂 宏一 和歌山

經 川上 流二 静岡

經 河村 祥 静岡

法 三枝 芳郎 山梨

法 宍倉 充 兵庫

法 鈴木喜之助 静岡

法 田中 照夫 東京

文 内藤 莞爾 静岡

法 中込 武雄 静岡

法 平山 正隆 山梨

東北法文 古川 而平 岐阜

經 松永 茂正 愛知

經 水谷 德一 三重

經 村瀬 弘 東京

東 法 矢崎 宗男 静岡

經 吉家 英夫 長野

法 若山 義人 岐阜

理科 甲類

三十四人

理 青木 文雄 茨城

東 工 青木 芳彦 神奈川

理 岩柳 茂夫 静岡

工 上田 次郎 静岡

工 大塚 忠一 静岡

工 小川 正典 東京

工 勝俣 龍一 静岡

北 理 川合 茂 北海道

卒業生(第十一回)

醫 井深 正彦 東京

理 遠藤 壽一 新潟

理 堅田 誠一 福島

工 功刀 雅長 山梨

法 小笠原守次 静岡

經 加藤 正雄 山形

法 榎林 健介 静岡

法 島田 宏 千葉

法 都築 忠春 東京

東北法文 中村 博 静岡

法 細野 道彦 長野

文 村上 義人 栃木

法 若山 義人 岐阜

卒業生(第十一回)

文科 乙類

三十二人

經 渡邊 文夫 東京

文 新井 信之 栃木

經 阿部 隆二 長野

文 内田 道夫 東京

東北法文 小川金治郎 千葉

法 乙竹 虔三 三重

文 狩野 亨二 静岡

經 川口 謙吉 東京

東 經 小立 滋 東京

文 櫻井 正寅 静岡

法 鈴木 正長 神奈川

法 須藤 悦郎 群馬

東 文 手島文太郎 東京

法 中澤 護人 山梨

東 經 中村 正也 静岡

法 平岩 辰雄 東京

東 法 藤井 洋 石川

東 經 藤田 隆平 静岡

東 經 宮崎 弘毅 富山

文 藤田 隆平 静岡

東 法 山村 俊雄 長野

文 村尾 次郎 静岡

東 法 山村 俊雄 長野

經 横山 能久 東京

法 秋田 安一 静岡

法 池田 新太郎 東京

經 石間喜久治 静岡

經 白井昭太郎 静岡

文 加嶋 正 山口

經 桂 宏一 和歌山

經 川上 流二 静岡

經 河村 祥 静岡

法 三枝 芳郎 山梨

法 宍倉 充 兵庫

法 鈴木喜之助 静岡

法 田中 照夫 東京

文 内藤 莞爾 静岡

法 中込 武雄 静岡

法 平山 正隆 山梨

東北法文 古川 而平 岐阜

經 松永 茂正 愛知

經 水谷 德一 三重

經 村瀬 弘 東京

東 法 矢崎 宗男 静岡

經 吉家 英夫 長野

法 若山 義人 岐阜

理科 甲類

三十四人

理 青木 文雄 茨城

東 工 青木 芳彦 神奈川

理 岩柳 茂夫 静岡

工 上田 次郎 静岡

工 大塚 忠一 静岡

工 小川 正典 東京

工 勝俣 龍一 静岡

北 理 川合 茂 北海道

卒業生(第十一回)

醫 井深 正彦 東京

理 遠藤 壽一 新潟

理 堅田 誠一 福島

工 功刀 雅長 山梨

法 小笠原守次 静岡

經 加藤 正雄 山形

法 榎林 健介 静岡

法 島田 宏 千葉

法 都築 忠春 東京

東北法文 中村 博 静岡

法 細野 道彦 長野

文 村上 義人 栃木

法 若山 義人 岐阜

卒業生(第十一回)

一五四

京	工	小林	崇	岡山	工	小山	文也	長崎	理	近藤	希賢	東京					
東	工業	末永	忠夫	佐賀	工	杉野	信吾	岐阜	工	鈴木	溪二	群馬					
醫	竹内和歌夫	神奈川	工	田中	資保	神奈川	工	谷口	三郎	静岡	工	谷口	三郎	静岡			
工	田村	收	東京	工	東條	一郎	東京	●	成瀬	俊雄	静岡	●	初瀬川長四郎	京都			
農	野澤	重雄	福岡	工	萩原	俊郎	東京	●	初瀬川長四郎	京都	工	松井	信夫	静岡			
工	藤田	隆正	山口	農	益田	尚	静岡	工	山田	一郎	静岡	工	山田	一郎	静岡		
工	三好	勝氣	北海道	農	室橋	正男	東京	工	山田	一郎	静岡	工	山田	一郎	静岡		
工	渡邊	英世	静岡	農	室橋	正男	東京	工	山田	一郎	静岡	工	山田	一郎	静岡		
理	科	乙類	三十五人	醫	大村	達男	静岡	醫	小澤	英夫	静岡	醫	小澤	英夫	静岡		
東	伊集院兼和	東京	東	醫	黒田	孝	愛知	醫	河野	通文	千葉	醫	河野	通文	千葉		
千	神谷	登	愛知	東	齋藤	重雄	山形	京	佐藤	東明	静岡	工	嶋	三四郎	静岡		
千	小嶋	正義	栃木	東	齋藤	重雄	山形	京	佐藤	東明	静岡	工	嶋	三四郎	静岡		
阪	里見	正	埼玉	東	穴戸	隆典	愛知	工	嶋	三四郎	静岡	工	嶋	三四郎	静岡		
醫	神保	政男	神奈川	醫	鈴木	鑑	静岡	醫	鈴木	元一	千葉	醫	鈴木	元一	千葉		
醫	鈴木	定夫	千葉	醫	鈴木	正三	静岡	千	醫	鈴木	久吉	千葉	千	醫	鈴木	久吉	千葉

第十二回 百二十四人 (昭和十二年三月十日卒業)

文科 甲類

二十六人

東	經	荒井	禎造	静岡	東	經	飯田	豊彦	北海道	東	法	石井	正辰	千葉
東	法	今井	洋	神奈川	東	法	金谷	登	和歌山	東	經	龜山	芳夫	茨城
東	經	小島	正夫	神奈川	東	法	柴田	進一	徳島	東	法	島田	周示	千葉
東	法	須之部量三	茨城	東	經	田中	淳夫	三重	東	經	田中	恒男	愛知	東
京	法	中村	四郎	東京	東	經	西松	茂夫	岐阜	東	法	濱島	丁重	東京
東	法	林	昌彦	静岡	東	經	星野	大造	東京	東	法	本田	昭	山形

卒業生(第十二回)

一五五

卒業生(第十二回)

文	牧野 太郎	靜岡	東	法	松本 立一	和歌山	文	水野 忠文	東京
文	三露善二郎	大阪	東	經	八角 昌雄	岩手	文	山口 典彦	神奈川
文	山下 太郎	山梨	東	法	山田 竹雄	靜岡			
文科乙類									
經	秋口 純一	靜岡		文	淺野 勉	東京	經	池澤 正典	千葉
東北法文	石川 淳二	山口		法	上田 明	福井	法	浦野 庸二	靜岡
經	沖 武夫	高知		法	金子 禎一	東京	法	川島 一郎	靜岡
東	河野日出雄	東京		經	小島 毅	靜岡	法	齋藤 登暉	靜岡
東	菅谷 秀夫	靜岡		經	高橋 勇治	靜岡	經	田名網 正	栃木
東	張 信福	臺灣		法	寺島 覺	和歌山	東	袴田 俊彦	靜岡
法	平尾 襄	兵庫	東	法	福永 正美	滋賀	法	古屋 貞壽	山梨
法	松村 英一	奈良	東北法文	法	松本 勁	神奈川	法	水上 六郎	靜岡
東	森山 欽司	栃木		經	矢吹 通夫	廣島	法	由井 備	長野
東	横山 晋一	靜岡		法	渡邊 春彦	靜岡			
文科丙類									
二十一人									

京	法	足立 孫六	靜岡	東	法	伊藤 乙郎	東京	法	猪名川治郎	大阪	
東	經	小野寺致知	宮城	東	經	金子 英次	千葉	法	川久保博夫	東京	
東	●	白倉 啓	廣島	東	法	熊谷 光	栃木	經	志村 寛一	東京	
東	經	鈴木 善重	靜岡	東	法	杉本 久敬	靜岡	法	杉山 光成	靜岡	
東	經	中村 武信	京都	東北法文	商	寺尾睦之助	靜岡	法	内藤 一久	千葉	
東	法	松村 次雄	東京	經	三ッ井達郎	靜岡	東	法	松岡 喜郎	靜岡	
理科甲類											
二十六人											
京	醫	市來 修	東京	東	工	伊藤 重久	靜岡	理	内山 龍雄	靜岡	
阪	醫	大石 俊夫	靜岡	東	工	加藤 綏之	愛知	工	川口 宏	愛知	
工	工	菊地 平司	群馬	東	工	小林 徳夫	靜岡	工	澤井 良吉	靜岡	
東北	工	鈴木竹四郎	東京	東	工	鈴木 正巳	神奈川	東	工	須之部量寛	茨城
理	瀨川 晃	岩手	東	農	關口 有方	千葉	東	工	關 健一	神奈川	
東北	工	高橋 武彦	靜岡	農	財部通之輔	東京	東	工	館野 萬吉	栃木	
東	工	半田 正典	靜岡	工	中村林二郎	東京	阪	工	野口 和夫	長崎	
卒業生(第十二回)											
一五七											

卒業生(第十二回)

農	丸尾	文治	靜岡	東	工	原	正人	東京	理	堀	純郎	福井
農	羽田林之助	靜岡	東	工	山岸	久雄	神奈川	一五八	理	堀	純郎	福井

理科乙類

二十二人

阪	醫	淺野	知行	靜岡	名	醫	阿多	實茂	鹿兒島	東	醫	新井	吉哉	東京					
東	理	石川	晴治	靜岡	東	北	工	岩橋	亘	和歌山	阪	醫	大石	昇平	靜岡				
東	工	業	大橋	祐偉	東京	東	醫	奧瀬	泰生	千葉	東	醫	奥田	龍一	東京				
名	醫	加納	照民	靜岡	東	醫	志賀	惠珠	千葉	東	北	工	島田	四郎	東京				
阪	醫	鈴木	喜一	靜岡	東	工	清	利彦	靜岡	千	醫	高尾	三良	東京	東	農	中村	明	愛知
東	北	工	本多	孝	靜岡	東	工	中曾根成雄	群馬	名	醫	村上	正固	東京	東	農	渡邊	正雄	東京
農	渡邊	正雄	東京	東	醫	三上	次郎	東京	名	醫	村上	正固	東京						

第十三回 百三十七人 (昭和十三年三月十日卒業)

文科甲類

二十七人

東	經	芦澤	勝春	靜岡	東	法	石垣	善一	靜岡	東	法	石川	良孝	東京
---	---	----	----	----	---	---	----	----	----	---	---	----	----	----

東	法	井上	俊朗	靜岡	東	經	梅原	哲郎	靜岡	東	文	大島	仁	靜岡	
東	法	荻野	義亮	和歌山	東	經	川上	富藏	熊本	京	法	川北	朔三	三重	
東	法	幸坂	清	靜岡	神	商	大	後藤	一夫	靜岡	東	經	齋藤	衛	靜岡
東	北	法	高島	良一	神奈川	東	文	長	正俊	山形	東	經	津上	治夫	福岡
東	經	東郷	民安	東京	東	文	中島	了勳	神奈川	東	法	永田	末男	靜岡	
東	法	日向	定哲	山梨	東	法	深澤	定男	靜岡	東	經	藤井	立	石川	
東	北	法	藤本	久	千葉	京	法	松下	芳夫	靜岡	東	法	水上	東作	靜岡
東	法	宮本	政治	大阪	東	經	矢津	大雄	東京	東	法	渡邊	嘉之	石川	

文科乙類

二十六人

京	法	赤池	聰美	靜岡	東	法	味香	啓道	三重	東	法	飯田	重平	靜岡
京	法	石川	時雄	靜岡	京	法	大庭莊一郎	兵庫	東	法	奥田	健	鹿兒島	
京	經	加藤	正秀	靜岡	東	文	桂井德之助	東京	東	經	久保	襄	長野	
京	法	黒川	一男	京都	東	經	小泉	鱒平	靜岡	東	經	香西	弘一	岡山
東	法	酒井	弘	靜岡	東	法	佐藤庄兵衛	岩手	東	文	神保	常彦	東京	
東	文	鈴木	重三	愛知	京	經	竹田	恒男	兵庫	東	法	直井	三男	栃木

卒業生(第十三回)

一五九

東	法	能勢	厚	千葉	京	經	樋口	敏郎	福島	東北法文	福永	寧	新潟	
東	經	水崎	明	長野	東	文	宮崎	道生	三重	東	法	山崎	清文	静岡
東北法文	山路	彰久	岐阜	阜	●	和田	實	宮城						

文科 丙類

三十一人

東	經	青山	俊	滋賀	京	法	阿部	弘吉	東京	東	法	伊藤	善吉	静岡
東北法文	石川	猛	東京		東	法	内田	宏	山形	京	經	内山	敏義	京都
東北法文	榎本	壽	千葉		東	經	大橋	良	東京	神商大	大村	重穂	静岡	
京	經	大矢知	泰治	三重	京	文	岡部不二	鷹	静岡	京	經	荻原	忠顯	愛知
京	經	小倉	仁海	神奈川	東	經	小倉	正大	茨城	東	文	垣内	政彦	三重
京	法	渡邊	勇治	静岡	東北法文	北岡	武雄	東京		東	文	小林	一男	愛知
神商大	佐野	三樹雄	静岡		京	經	齋藤	文久	三重	東	經	澤口	弘	宮城
東北法文	澁谷	六郎	神奈川		東	經	高富味	津雄	静岡	東	法	中曾根	康弘	群馬
東	經	永田	激	静岡	東	法	根本	守	徳島	京	經	藤澤	峻	静岡
京	法	増田	敏	静岡	神商大	峰田	静夫	静岡		東	法	山田喜志夫		静岡
東北法文	横井	達明	愛知											

理科 甲類

二十九人

東	理	阿部	宗正	山口	東	工	相田	耕正	山梨	東	工	淺賀	博澄	静岡
東	工	有坂	勝	兵庫	東	工	井伊谷	鋼一	静岡	阪	工	宇宿	行久	鹿兒島
東	工	梅村	魁	静岡	東	工	笠原	皎	東京	阪	工	岐部	淳治	静岡
東	工	栗原	保司	埼玉	東	醫	執行	有友	東京	東	農	栖原	庸世	東京
阪	理	田口	稻男	静岡	東	農	田村	保	東京	京	工	谷	辰夫	東京
東	理	東條	英	東京	東	工	飛山	恒雄	新潟	名	醫	中澤	清	群馬
東	工	長山	泰介	愛媛	北	工	野村	豊繼	愛知	東	工	長谷川	泰道	千葉
阪	工	服部	久雄	静岡	東	工	原木	大	静岡	東	工	牧野	六彦	鳥取
東	農	松井	正直	長野	阪	理	松田	尚雄	東京	京	工	護原	誠	神奈川
●	依田	勝馬	山梨		東	工業	米山	信一	静岡					
理科 乙類					二十四人									
京	醫	相羽	光	静岡	阪	理	赤堀	英彦	東京	京	醫	石井	賢一	静岡
東	農	入江	春彦	千葉	東	農	江川	友治	静岡	岡	醫	遠藤	正孝	岩手
名	醫	大林彦三郎	愛知		東	工	長船	廣衛	岡山	東	醫	可世木辰夫		千葉

卒業生(第十四回)

工	加藤 賢二	群馬	東	農	笠原 昊	東京	千	醫	片平 眞事	神奈川
工	神尾 沖藏	静岡	京	醫	鈴木 淳一	山梨	東	農	田中館 誠	岩手
工	千原大五郎	東京	千	醫	外口正太郎	千葉	東	醫	富田 一	静岡
工	長島 敬	静岡			藤田 二郎	香川	東	農	松澤 辰男	長野
醫	三輪 輝夫	静岡	東	醫	山口 健男	群馬	東	理	山崎 徳郎	静岡

一六二

第十四回 百十八人 (昭和十四年三月九日卒業)

文科 甲類

二十四人

東	文	石田熊三郎	静岡	東	井原 正紀	茨城	東	法	小河八十次	福岡
東	經	乙竹 利清	東京	東	蒲谷 友芳	神奈川	東	經	岸 英次	山形
東	文	北原 一身	高知	東	喜多不二磨	静岡	東	經	近藤 肇	長崎
東	經	梶倉 健	神奈川	神	商 住 太郎	岐阜	東	法	高杉 幹二	静岡
東	經	竹田 四郎	静岡	東	法 中田 正一	福島	京	文	平松 令三	三重
東	經	藤田 浩一	静岡	京	經 藤田 武雄	静岡	東	法	細田 義男	鳥取
東北法文	水野 正人	神奈川	東	法	宮崎八百一郎	新潟	東	經	森 弘	静岡

文科 乙類

二十五人

東	法	結城 義人	千葉	京	法	吉原 一眞	三重	東	經	脇坂 景久	岡山
東	經	石塚 敏夫	神奈川	東	法	岡松 眞雄	大分	東	法	沖 靜一	静岡
東	法	小野田次男	静岡	東	法	熊谷 寛三	岩手	東	法	匂坂 哲郎	静岡
東北法文	瀧 俊雄	大分	東	文	佐藤 赳夫	宮城	東	法	園田 正治	東京	
京	經	月江基一郎	東京	東	法	田嶋 秀夫	埼玉	京	法	田村 益夫	静岡
京	經	橋口 隆	鹿児島	京	法	初谷 良藏	栃木	東	法	濱林 春雄	三重
東	法	藤田 操	東京	東	經	保科 一夫	鳥根	東	法	松島 五郎	北海道
東	法	松元 道彦	鹿児島	京	經	水野香都彦	静岡	東	法	森本 修	和歌山
東北法文	山中 秀夫	三重									
	文科 丙類				二十二二人						
京	經	姉崎 益郎	山形	東	經	綾部 立一	静岡	東	法	荒木 秀一	神奈川
東	經	白居 孝弑	神奈川	東	經	大庭 晃二	静岡	東	法	岡本 正	千葉
東	法	川西 欣二	熊本	東	法	河村 和衛	静岡	東	法	近藤雄八郎	東京

卒業生(第十四回)

一六三

卒業生(第十四回)

東文	佐藤 彰	愛知	東經	佐藤 昌武	山形	東經	白根 雄偉	山口
東北法文	鈴木 幸男	千葉	東經	竹澤 圭一	長野	東經	田村 博喜	東京
京法	津守 一郎	東京	東經	戸澤 三樹	東京	京文	藤田 國雄	東京
東經	丸山 英	栃木	東法	森西 定雄	静岡	東法	茂呂 茂樹	静岡
東經	山田 和雄	新潟						

一六四

理科 甲類

二十四人

東工	安藤 博信	岐阜	阪理	生田 利治	山口	京工	伊藤 濱吉	静岡
東農	稻川 徹	東京	京工	小穴正一郎	長野	東工	鹿島 健次	東京
東農	片山 道雄	長野	東醫	幾石 徹夫	神奈川	東工	近藤 嘉一	静岡
阪工	雜賀 元夫	岐阜	東工	佐伯 正剛	東京	東農	佐俣 淑彦	群馬
名理工	篠原 博	長野	東農	白鳥 守人	長野	東工業	田中 茂	京都
阪工	田村 榮	徳島	阪工	土井正志智	千葉	東工	廣岡 伸一	神奈川
阪工	本田 傳	愛知	阪工	三根 英吉	長崎	東工	山本 格治	静岡
東工業	山脇 正利	東京	東文	劉 榮増	東京	東工	渡邊 修治	静岡

理科 乙類

二十三人

岡醫	池端 大輔	和歌山	東工業	石川 二郎	東京	東醫	磯貝 元	東京
千醫	伊藤 善正	千葉	阪醫	井上 恵成	徳島	東醫	岩佐 博	東京
名醫	植松 平馬	静岡	名醫	宇野 立男	東京	京醫	奥田 六郎	北海道
東工	橋川 輝一	静岡	千醫	木村 泰三	岩手	京農	久場真一郎	沖繩
東農	小宮 金吾	福岡	千醫	正古 良夫	東京	東醫	高木 正義	福島
千醫	中島 安三	東京	東醫	中村 泰二	静岡	東理	二宮 正義	東京
東工	原崎 郁平	静岡	東工	福田 寛雄	山口	名醫	村尾 實	静岡
阪醫	持田 信夫	東京	東醫	守山 隆章	石川			

第十五回 百四十六人 (昭和十五年三月九日卒業)

文科 甲類

二十四人

東經	大須賀三郎	千葉	東文	小田 幸雄	山口	京經	勝又 彰	静岡
東文	金 洛元	朝鮮	東法	桑原 通夫	埼玉	東經	小鹽洋太郎	静岡
東文	酒井 貞三	東京	東法	篠原 彦夫	長野	東經	角 利雄	三重
東文	塚本陽太郎	京都	東法	中村 一夫	静岡	東經	菫澤 信方	東京

卒業生(第十四回)

一六五

卒業生(第十五回)

東	法	羽鳥 惠之 群馬	東	法	三間 良知 島根	東	經	原口 良英 東京
京	文	平澤 太郎 長野	東	法	三間 修助 岐阜	東	文	宮山 滋夫 東京
京	經	柳川 松次 神奈川	東	經	山口 裕 静岡	東	文	山根 能文 鳥取
		山本 勝也 愛知	東	經	山本 進 静岡			遊佐多計雄 福島
		文科乙類			三十二人			
東	經	飯島 久夫 茨城	東	文	石上 舜而 静岡	東	經	岩永 進 東京
東	經	上原 三之 佐賀	東	文	植松 俊夫 神奈川	東	法	景山 昇 静岡
東	經	河合 英一 愛知	京	經	北村 五男 大阪	東	法	小林 利男 長野
東	法	今野 吉純 東京	東	文	五月女敏男 栃木	東	經	櫻林 誠 山梨
東	法	鈴木 善則 静岡	東	法	園田 治 東京	東	經	瀧崎 久四 愛知
東	經	竹内 正人 山口	東	文	手塚喜一郎 神奈川	東	文	寺田 國雄 新潟
東	經	戸松 義順 東京	東	經	長瀬 敏雄 東京	東	經	中村清二郎 静岡
東	文	西原 正名 東京	東	法	原 健三郎 神奈川	東	經	星野 顯 東京
東	文	松田 信夫 静岡	東	經	村田 武男 静岡	東	文	持丸 一夫 神奈川
京	經	森 茂 福井	東	文	吉田章一郎 東京	東	經	吉村 寛 静岡

渡邊光太郎 神奈川

文科丙類

東	法	亘理 國郎 東京	東	法	大石 巖 静岡
東	經	伊東 博助 神奈川	東	文	小川 平五 東京
		歐 瑞雄 臺灣	京	文	勝部 泰臣 鳥根
東北法文	大野 義夫 愛知	寛 友彦 長野	東	經	草野 操 東京
京	法	小野房富士男 富山	東	經	竹野 家茂 東京
東北法文	川上 義明 神奈川	河村 穰 兵庫	東	經	永石 良元 東京
東	經	櫻井 昌也 静岡	東	經	菱川 吉章 岡山
東	經	寺尾 光 静岡	東	法	溝呂木 繁 神奈川
京	經	中園規矩二 神奈川	東	法	山崎 晴彌 静岡
京	經	布津 一郎 大分	東	法	三根谷 徹 東京
東	法	渡邊 邦之 石川	東	法	柳 恭二 東京
		理科甲類			二十七人
東	工	相羽 二良 静岡	東	農	青山 康雄 静岡
大	醫	和泉 精一 山形	名	理	工 小川 豊 神奈川
					東 工 石橋 基泰 千葉
					東 工 片岡 良 静岡

卒業生(第十五回)

東工業	神原 富尙	神奈川	京工	菊池 武巳	福岡	東理	北村 一夫	東京
東工	久保田全俊	石川	東工業	畔柳 藤男	愛知	東理	桑原 五郎	靜岡
東工	坂本 弘	靜岡	東工業	杉山 雄平	靜岡	大理	多田 耕三	兵庫
大工	長尾 健二	德島	東理	中川鶴太郎	岐阜	東醫	中島 清	東京
東農	八谷 道雄	東京	京工	古屋 清二	山梨	京工	松永 圭司	靜岡
京工	松橋 達良	東京	京工	森本 浩江	高知	東農	山崎 孝治	靜岡
京工	山田 孝治	新潟	東工	山田 裕	石川	名醫	横山 久夫	靜岡
東醫	青山 松次	靜岡	東農	秋保 和親	山形	東醫	新井 正章	埼玉
東醫	石河 利寬	東京	名醫	井上 俊	東京	東醫	今泉 眞澄	群馬
東醫	浦川 士朗	愛知	東工業	江口 剛夫	東京	東醫	大久保卓男	岐阜
京醫	大平 孝男	和歌山	東工業	大森 茂夫	三重	京醫	小川 浩	神奈川
東工	奥村 宜彦	熊本	東醫	小澤 和美	靜岡	東農	柏木 大安	東京
東農	上林 明	靜岡	京醫	小針 英男	福島	東工	澤本 基道	東京
東農	志田 壽一	靜岡	九醫	杉江 悦夫	靜岡	東醫	高峰 秀博	東京

理科乙類

三十五人

東醫	瀧戸 直正	靜岡	東農	市岡 伊織	靜岡	東醫	寺井 富夫	東京
東醫	長島 寛	東京	東理	中村 知彌	新潟	千醫	野方 重任	靜岡
東醫	萩原 治雄	東京	東工	春原 武夫	長野	九理	平岡 俊雄	神奈川
京醫	古澤 春二	神奈川	名理工	村井榮太郎	靜岡	東醫	茂木 秀夫	埼玉
東工	八戸 泰安	佐賀	東農	山田 鎮男	靜岡			

二、卒業生進入大學學部別表

卒業年	昭和十五年									
	大學學部									
	東京帝國大學	京都帝國大學	東北帝國大學	大阪帝國大學	名古屋帝國大學	東京工業大學	千葉醫科大學	岡山醫科大學	神戸商業大學	合計
法	一三	一								一四
醫	一三	四		一	二		一			二二
工	九	六		一		五				二二
文	一一	三								一四
法文			八							八
理工	三			一	一					五
農	八									八
經(商)	二三	七								三〇
計	八〇	二二	八	三	三	五	一			一二一

三、卒業生科類別表

卒業年次	種別		科計	理計	科計	合計
	甲類	乙類				
昭和十五年	二四	三三	四	二七	六三	一四六
累計	五三〇	四五五	一、四二四	四六八	九三三	二、三三六

◎敷地建物

(昭和十五年六月一日現在)

静岡高等學校ハ静岡市大岩町二丁目ニ在リ敷地面積貳萬百參拾坪ニシテ建物ノ總坪數ハ建坪貳千七百貳拾坪四合八勺六才、延坪參千六百六拾八坪貳合四勺ナリ同官舎ハ静岡市北安東町ニ在リ敷地面積七百九拾八坪ニシテ建物ノ總坪數ハ建坪貳百六拾貳坪貳合五勺貳才、延坪貳百九拾五坪七合五勺貳才ナリ之ヲ區別スレハ左ノ如シ

名稱	棟數	平屋建	二階建
教室及事務室	一	〇	延建 三八六八〇〇
同 玄關	一	〇	延建 七七三七〇〇
生徒控所	一	九〇〇〇〇	〇
小使室及宿直室	一	〇	延建 二二一〇〇〇
本館附屬便所	三	二〇〇〇〇	〇
同 渡廊下	三	四五〇〇〇	〇
物置	三	八四〇〇〇	〇
便所	一	〇五〇〇〇	〇
寄宿舍	五	〇	延建 三三四五〇〇〇
同 玄關下足場	一	二二〇〇〇	〇
同 食堂炊事場	一	一六三〇〇〇	〇

同 洗面所	三	一三五〇〇	〇
同 渡廊下	一〇	六七〇〇〇	〇
同 便所	三	一八〇〇〇	〇
同 病室	一	一五〇〇〇	〇
同 舍監事務室	一	五六三七五	〇
同 物置	一	一〇〇〇〇	〇
同 附屬圖書館	一	四七七七〇	〇
生徒集會所	一	〇	延建 一八六七八〇〇
炊事室	一	一二〇〇〇	〇
炊夫室	一	七五〇〇	〇
同 便所	一	〇五〇〇	〇
博物教室及實驗室	一	一六四五〇〇	〇

物理教室及實驗室	化學教室及實驗室	硫化水素室	蓄電池室其他	△藥品庫	渡廊下	便所	圖書閱覽室	△書庫	製圖室	雨天體操場銃劍道場及置物	ポンプ室及火焚場
一	一	一	一	一	八	一	一	一	一	一	一
〇	〇	五〇〇〇	二〇〇〇〇	五〇〇〇〇	五一五〇〇	六〇〇〇〇	〇	〇	七一五〇〇	一二三五五〇〇	一二二〇〇〇〇
延建	延建						延建	延建			
一七三三〇〇	一七三三〇〇	〇	〇	〇	〇	〇	七二九〇〇	七三〇〇〇			〇
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇

講堂	溫室	講堂渡廊下	舍監室附屬物置	集會所附屬物置	自轉車置場	石炭置場	ポンプ置場	弓道場	物置	官 甲號生徒主事官舍 乙號同上
一	一	一	一	一	一	二	一	一	一	三
〇	一〇〇〇〇	八五〇〇	三七五〇	五〇〇〇	八〇〇〇	六〇〇〇	二二三七五	一八二五〇	七〇〇〇	九八二五〇
延建										延建
一二三九一六	二一八三六〇									五四六〇〇
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇

計	舎		
	官舎附屬便所	官舎附屬物置	備外國人官舎
九一	三	七	三
	一、四六八〇二〇	一七五〇〇	四〇五〇〇
	延建 一、五一四七二	〇	延建 八四七五二
	二、四九五七二	〇	

備考 △印ハ鐵筋コンクリート造其他ハ木造ナリ

◎關係法令

一、文部省直轄諸學校官制(抄)

(明治二十六年八月勅令第八十六號)

第一條 文部省直轄諸學校ハ左ノ如シ

静岡高等學校

(他校ハ略ス)

第六條 文部省直轄諸學校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長

教授

生徒主事

助教

書記

生徒主事補

前項職員ノ外文部省直轄諸學校職員定員令ノ定ムル所ニ依リ事務官又ハ助手ヲ置クコトヲ得

關係法令

- 第七條 校長ハ勅任又ハ奏任トス文部大臣ノ命ヲ承ケ校務ヲ掌理シ所屬職員ヲ監督ス
- 第八條 教授ハ勅任又ハ奏任トシ助教ハ勅任トス生徒ノ教育ヲ掌ル
- 第九條 文部省直轄諸學校職員定員令ニ於テ生徒主事ノ專任定員ヲ配置シタル學校ノ生徒主事ハ奏任トシ其ノ他ノ學校ノ生徒主事ハ當該學校ノ奏任教官ノ中ヨリ文部大臣之ヲ補ス
- 生徒主事ハ校長ノ命ヲ承ケ生徒ノ訓育ヲ掌ル
- 第十條 書記ハ勅任トス上官ノ命ヲ承ケ庶務會計ニ従事ス
- 第十條ノ二 文部省直轄諸學校職員定員令ニ於テ生徒主事補ノ專任定員ヲ配置シタル學校ノ生徒主事補ハ勅任トシ其ノ他ノ學校ノ生徒主事補ハ當該學校ノ判任教官ノ中ヨリ文部大臣之ヲ命ス
- 生徒主事補ハ上官ノ命ヲ承ケ生徒主事ノ職務ヲ助ク
- 第十條ノ三 事務官ハ奏任トス校長ノ命ヲ承ケ庶務會計ヲ掌理ス
- 第十條ノ四 助手ハ勅任トス教授又ハ助教ノ指揮ヲ承ケ授業及實驗ノ補助ニ従事ス
- 第十七條 專任教官中其ノ學校所設ノ某學科ヲ擔任スヘキ者ヲ得サル場合ニ於テハ兼任教官ヲ置キ若クハ學校長ニ於テ特ニ文部大臣ノ許可ヲ得テ臨時ニ講師ヲ囑託シ其ノ學科ノ授業ヲ擔任セシムルコトヲ得

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

二、文部省直轄諸學校職員定員令(抄)(明治三十五年三月)

(勅令第九十九號)

文部省直轄諸學校專任職員ノ定員左ノ如シ

(昭和三年十月勅令第二百五十七號昭和七年勅令第三百九十五號改正)

靜岡高等學校	校長	一人	教授	三〇人	生徒主事	一人	助教授	三人	助手	〇	書記	六人	生徒主事補	一人
--------	----	----	----	-----	------	----	-----	----	----	---	----	----	-------	----

三、高等學校令(大正七年十二月)

(勅令第三百八十九號)

- 第一條 高等學校ハ男子ノ高等普通教育ヲ完成スルヲ以テ目的トシ特ニ國民道德ノ充實ニカムヘキモノトス
- 第二條 高等學校ハ官立、公立又ハ私立トス
- 第三條 高等學校ヲ設立スルコトヲ得ル公共團體ハ北海道及府縣トス
- 第四條 私立高等學校ハ財團法人タルコトヲ要ス但シ特別ノ必要ニ因リ學校經營ノミヲ目的トスル財團法人カ其ノ事業トシテ之ヲ設立スル場合ハ此ノ限りニアラス

關係法令

第五條 前條ノ財團法人ハ高等學校ニ必要ナル設備又ハ之ニ要スル資金及少クトモ高等學校ヲ維持スルニ足ルヘキ收入ヲ生スル基本財産ヲ有スルコトヲ要ス但シ其ノ基本財産ノ額ハ五拾萬圓ヲ下ルコトヲ得ス

基本財産中前項ニ該當スルモノハ現金又ハ國債證券其ノ他文部大臣ノ定ムル有價證券トシ之ヲ供託スヘシ

第六條 公立及私立ノ高等學校ノ設立廢止ハ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第七條 高等學校ノ修業年限ハ七年トシ高等科三年尋常科四年トス

高等學校ハ高等科ノミヲ置クコトヲ得

第八條 高等學校高等科ヲ分チテ文科及理科トス

第九條 高等學校ニハ高等科ヲ卒リタル者ノ爲ニ專攻科ヲ置クコトヲ得其ノ修業年限ハ一年トス專攻科ヲ卒リタルモノハ得業士ト稱スルコトヲ得

專攻科ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第十條 高等學校ニハ特別ノ必要アル場合ニ於テ豫科ヲ置クコトヲ得但シ第七條第二項ノ高等學校ニ付テハ此ノ限りニ在ラス

高等學校豫科ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第十一條 高等學校尋常科ニ入學スルコトヲ得ル者ハ當該學校豫科ヲ修了シタル者尋常小學校ヲ卒業シタル者又ハ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ之ト同等以上ノ學力アリト認めラレタル者トス

第十二條 高等學校高等科ニ入學スルコトヲ得ル者ハ當該學校尋常科ヲ修了シタル者、中學校第四學年ヲ修了シタル者又ハ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ之ト同等以上ノ學力アリト認めラレタル者トス

第十三條 高等學校ノ生徒定數ハ高等科四百八十人以内尋常科三百二十人以内トシ第七條第二項ノ高等學校ニ在リテハ專攻科ヲ除キ六百人以上トス

第十四條 高等學校ニ於テハ同科同學年ノ生徒ヲ以テ學級ヲ編制スヘシ

一學級ノ生徒定數ハ四十人以上トス

第十五條 高等學校ニ於テハ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ學科目ノ種類ニ從ヒ學級ノ異ナル生徒ヲ合シテ同時ニ之ヲ教授スルコトヲ得

第十六條 高等學校ノ教員ハ文部大臣ノ授與シタル高等學校教員免許狀ヲ有スル者タルコトヲ要ス但シ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ免許狀ヲ有セサル者ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

高等學校教員免許狀ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第十七條 高等學校ノ設備、編制、學科目及其ノ程度、教科書並ニ生徒ノ入學退學及懲戒、授業料

入學料等ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第十八條 公立及私立ノ高等學校ハ文部大臣ノ監督ニ屬ス

第十九條 文部大臣ハ公立及私立ノ高等學校ニ對シ報告ヲ徵シ檢閲ヲ行ヒ其ノ他監督上必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第二十條 本令ニ依ラサル學校ハ勅定規程ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外高等學校ト稱シ又ハ其ノ名稱ニ高等學校タル事ヲ示スヘキ文字ヲ用フルコトヲ得ス

附 則

本令ハ大正八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治二十七年勅令第七十五號高等學校令及高等中學校令ハ之ヲ廢止ス

舊令ニ依ル高等學校ハ之ヲ本令ニ依ル高等學校トス

前項ノ高等學校ニハ當分ノ内第十三條ノ規定ヲ適用セス

高等學校大學豫科ハ大正十年八月三十一日マテ之ヲ存置ス

四、高等學校規程 (抄) (大正八年三月 文部省令第八號)

第一章 學科課程及教科書

第二節 高等科

第四條 高等科文科ノ學科目ハ修身、國語及漢文、第一外國語、第二外國語、歷史、地理、哲學概說、心理及論理、法制及經濟、數學、自然科學、體操トス

高等科理科ノ學科目ハ修身、國語及漢文、第一外國語、第二外國語、數學、物理、化學、植物及動物、礦物及地質、心理、法制及經濟、圖畫、體操トス

外國語ハ英語、獨語又ハ佛語トス

第二外國語ハ隨意科目トス

第五條 修身ハ教育ニ關スル勅語ノ趣旨ニ基キ道德上ノ思想及情操ヲ養成シ實踐躬行ヲ勸奨スルヲ以テ要旨トス

修身ハ道德ノ要領ヲ授ケ國家、社會、家族ニ對スル責務並ニ人格修養ニ關シ必要ナル事項ヲ知ラシメ特ニ我國民道德ヲ會得シ其ノ實行ニ努メシムヘシ

第六條 國語及漢文ハ言語文章ヲ了解シ正確且自由ニ思想ヲ表ハスノ能力ヲ得シメ智徳ヲ啓發シ文學上ノ趣味ヲ養フヲ以テ要旨トス

國語及漢文ハ文科ニ在リテハ近世、近古及中古ノ國文ヲ授ケ進ミテ上古文ノ一般ニ及ホシ又普通ノ漢文ヲ講讀セシメ國語文法及國文學史ノ大要ヲ授ケ作文ニ習熟セシムヘシ

理科ニ在リテハ近世及近古ノ國文並ニ普通ノ漢文ヲ授ケ作文ニ習熟セシムヘシ

第七條 外國語ハ英語、獨語又ハ佛語ヲ了解シ且之ニ依リテ思想ヲ表ハスノ能力ヲ得シメ兼テ智徳ノ増進ニ資スルヲ以テ要旨トス

外國語ハ發音、綴字、讀方、譯解、話方、作文、書取及文法ヲ授クヘシ

第八條 歴史ハ重要ナル古今ノ事蹟ヲ知ラシメ邦國ノ盛衰、文化ノ發達ヲ理會セシメ特ニ我國運發展ノ由來、國體ノ特異ナル所以ヲ明ニシ國民性格ノ養成ニ資スルヲ以テ要旨トス

歴史ハ日本歴史、東洋歴史及西洋歴史ヲ授クヘシ

第九條 地理ハ我國及重ナル世界各國ノ現狀ヲ知ラシムルヲ以テ要旨トス

地理ハ我國及諸外國ノ政治、經濟等ニ關スル地理上ノ知識ヲ授クヘシ

第十條 哲學概説ハ思想界ニ關スル知識ヲ與ヘ哲學ノ概念ヲ會得セシムルヲ以テ要旨トス

哲學概説ハ東洋及西洋ノ哲學、宗教等ニ就キテ其ノ大要ヲ授クヘシ

第十一條 心理及論理ハ心意ニ關スル知識ヲ得シメ思考ヲ鍛鍊セシムルヲ以テ要旨トス

心理及論理ハ各種ノ精神作用思考ノ原則及其ノ方法ノ概要ヲ授クヘシ

第十二條 數學ハ數理ヲ會得セシメ計算應用ニ熟セシメ思考ヲ精確ナラシムルヲ以テ要旨トス

數學ハ文科ニ在リテハ數學諸論ノ大要ヲ授ケ理科ニ在リテハ代數、立體幾何、三角法、初等解

析幾何、初等微分積分及初等力學ヲ授クヘシ

第十三條 自然科學ハ天然物及自然ノ現象ニ關スル知識ヲ與ヘ其ノ法則ヲ理會セシムルヲ以テ要旨トス

自然科學ハ生物、地質、物理、化學等ニ關スル主要ナル事項ヲ授クヘシ

第十四條 物理、化學ハ自然ノ現象ニ關スル知識ヲ與ヘ其ノ法則ヲ理會セシメ之カ應用ヲ示シ兼テ

觀察工夫ノカヲ養フヲ以テ要旨トス

物理ハ力學、物性、音響、熱、光、磁氣、電氣ヲ授ケ又主要ナル實驗ヲ課スヘシ

化學ハ無機化學及有機化學ヲ授ケ又主要ナル實驗ヲ課スヘシ

第十五條 植物及動物、礦物及地質ハ天然物ニ關スル知識ヲ與ヘ之カ應用ヲ示シ兼テ觀察ヲ精確ナラシムルヲ以テ要旨トス

植物及動物ハ生物ノ形態、生理、分類、進化ニ關スル知識ヲ授ケ又主要ナル實驗ヲ課スヘシ

礦物及地質ハ礦物ノ產狀、性質、用途、地球ノ構成及其ノ變遷ニ關スル知識ヲ授ケ又便宜主要ナル實驗ヲ課スヘシ

第十六條 法制及經濟ハ法制及經濟ニ關スル事項ニ就キ國民生活ニ必要ナル知識ヲ得シムルヲ以テ要旨トス

法制及經濟ハ帝國憲法ノ大要及日常ノ生活ニ適切ナル法制上及經濟財政上ノ事項ヲ授クヘシ
 第十七條 圖畫ハ形態ヲ正確且自由ニ畫クノ能力ヲ得シメ意匠ヲ練リ思考ヲ精確ナラシムルヲ以テ
 要旨トス

圖畫ハ自在畫、平面幾何畫、立體幾何畫ヲ授クヘシ

第十八條 體操ハ身體ヲ健全ニシ動作ヲ敏活ナラシメ剛健ノ精神ト規律ヲ守リ協同ヲ尙フノ習慣ト
 ヲ養フヲ以テ要旨トス

體操ハ教練及體操ヲ授クヘシ又劍道、柔道及弓道ヲ加フルコトヲ得

第十九條 文科ノ各學年ニ於ケル各學科目ノ每週教授時數ハ左表ニ依ルヘシ

學科目	學年		
	第一學年	第二學年	第三學年
修身	一	一	一
國語及漢文	六	五	五
第一外國語	九	八	八
第二外國語	(四)	(四)	(四)
歷史	三	五	四

學科目	學年		
	第一學年	第二學年	第三學年
地理	二		
哲學概說			三
心理及論理		二	二
法制及經濟		二	二
數學	三		
自然科學	二	三	
體操	三	三	三
計	(三三) 二九	(三三) 二九	(三三) 二八

第一外國語ハ尋常科又ハ中學校ニ於テ生徒ノ履修シタル外國語トス但シ生徒ノ志望ニヨリ第一
 外國語ノ種類ヲ轉換スルコトヲ得シム此ノ場合ニ於テハ各學年ニ於ケル第一外國語及第二外國
 語ノ每週教授時數ハ左表ニ依ルヘシ

學科目	學年		
	第一學年	第二學年	第三學年
第一外國語	一一	一〇	一〇

第二外國語	(三)	(三)	(三)
計	(三三)	(三三)	(三三)

第二外國語ヲ修メサル者ニ對シテハ其ノ教授時數ヲ便宜他ノ學科目ニ配當スルコトヲ得
第二十條 理科ノ各學年ニ於ケル各學科目ノ每週教授時數ハ左表ニ依ルヘシ

學科目	學年	第一學年	第二學年	第三學年
修身		一	一	一
國語及漢文		四	二	一
第一外國語		八	六	六
第二外國語		(四)	(四)	(四)
數學		四	四	(二)四
物理			三	講義二五 實驗三五
化學			三	講義二五 實驗三五

學科目	學年	第一學年	第二學年	第三學年
植物及動物		二	二	講義二四 實驗二四
礦物及地質		二		
心理			二	
法制及經濟		二		
圖畫		二	二	(二)
體操		三	三	三
計		(三三)	(三三)	(三三)

第三學年ノ數學(二)及圖畫(二)ト第三學年ノ植物及動物(講義二實驗二)トハ生徒ヲシテ其ノ一ヲ選擇セシムルモノトス
第一外國語ハ尋常科又ハ中學校ニ於テ生徒ノ履修シタル外國語トス但シ生徒ノ志望ニ依リ第一外國語ノ種類ヲ轉換スルコトヲ得シム此ノ場合ニ於テハ各學年ニ於ケル第一外國語及第二外國語ノ每週教授時數ハ左表ニ依ルヘシ